公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書　第595集

世良田環濠集落遺跡（1）

社会資本総合整備（防災・安全）（交安・重点）（主）大間々
世良田線世良田交差点改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2015

群馬県太田土木事務所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

世良田環濠集落遺跡（1）

社会資本総合整備（防災・安全）（交安・重点）（主）大間々
世良田線世良田交差点改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

二〇一五

群馬県太田土木事務所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

世良田環濠集落遺跡（1）

社会資本総合整備（防災・安全）（交安・重点）（主）大間々
世良田線世良田交差点改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2015

群　馬　県　太　田　土　木　事　務　所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

序

群馬県太田市の西半部はかつて新田郡に属し、中世には「新田荘」という著名な荘園が設定されていました。その範囲内にある複数の遺跡は、現在「新田荘遺跡」として国の史跡に指定されています。本遺跡は「世良田環濠集落」という、周囲に堀をもつ中世の集落遺跡として知られ、その範囲内には「新田荘遺跡」を構成する長楽寺や総持寺が所在するため、中世を通じて重要な場所であったと考えられてきました。このたび、この遺跡内にある世良田交差点の改良工事が行われることになり、工事に先立つ発掘調査を当事業団が担当して実施いたしました。

今回本書で報告するのは、平成25年度に実施した、交差点北東側の調査の成果です。調査面積が狭いこともあり、中世に関わる明確な遺構は確認できませんでしたが、長楽寺などで用いられていたと考えられる中世瓦がまとまって出土するなどの貴重な成果を得ることができました。これらの調査成果は、群馬県の中世史を研究する上で重要なものであり、今後の研究の進展に資するものであると思われます。

本遺跡の発掘調査から報告書刊行に至るまでには、群馬県太田土木事務所、群馬県教育委員会、太田市教育委員会、地元関係者の皆様に、多大なご指導・ご協力を賜りました。本書の刊行に際し、心から感謝申し上げると共に、本書が歴史研究の資料として広く活用されることを願い、序といたします。

平成27年１月

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
理　事　長　　吉　野　　勉

例　　言

1　本書は、社会資本総合整備(防災・安全)(交安・重点)(主)大間々世良田線世良田交差点改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査による、世良田環濠集落遺跡の埋蔵文化財調査報告書である。

2　所在地　太田市世良田町1360-1、1360-3、1360-4、1361-1、1361-2、1361-4

3　事業主体　群馬県太田土木事務所

4　調査主体　公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

5　調査期間　履行期間　平成26年１月１日～平成26年３月31日
　　調査期間　平成26年２月１日～平成26年２月28日

6　調査面積　360㎡

7　発掘調査体制は次の通りである。
　発掘調査担当　　調査統括　関根愼二
　遺跡掘削請負工事　　有限会社　高澤考古学研究所
　委託　地上測量　　株式会社シン技術コンサル

8　整理事業の期間と体制は次の通りである。
　履行期間　平成26年９月１日～平成27年１月31日
　整理期間　平成26年９月１日～平成26年11月30日
　整理担当　資料統括　髙井佳弘
　遺物写真撮影　資料統括　大西雅広　　補佐(統括)　関　邦一　　主任調査研究員　石田典子
　保存処理　補佐(総括)　関　邦一
　デジタル編集　主任調査研究員　齊田智彦

9　本書作成の担当者は次の通りである。
　編集　資料統括　髙井佳弘
　執筆　第２章第２節　資料部長　神谷佳明
　　第４章　資料第１課長　木津博明
　　遺物観察表(陶磁器・瓦)　資料統括　大西雅広
　　遺物観察表(石器・石製品)　主任調査研究員　石田典子
　　遺物観察表(板碑)　上席専門員　新倉明彦
　　遺物観察表(鉄器・鉄製品)　補佐(統括)　関　邦一
　　上記以外　資料統括　髙井佳弘

10　出土石器・石製品の石材同定については飯島静男氏(群馬県地質研究会会員)にお願いした。

11　発掘調査諸資料および出土品は、群馬県埋蔵文化財調査センターに保管してある。

12　発掘調査および報告書作成に際しては、下記の方々・機関にご協力・ご指導をいただきました。記して感謝いたします。(敬称略・順不同)
　群馬県教育委員会、太田市教育委員会

凡　　例

1　本文中に使用した座標・方位は、総て世界測地系(日本測地系2000平面直角座標第Ⅸ系)を使用している。なお、座標北と真北との偏差は、調査対象地中央付近のＸ＝29,570、Ｙ＝－49,820で東偏0°19'40.75"である。

2　遺構平面図等高線や断面図に記した数値は標高を表し、単位はｍを用いた。

3　遺構・遺物実測図の縮尺率は原則として以下のとおりとした。１：３以外の縮尺の遺物については、遺物番号の後に縮尺を記入してある。

遺構　　１：40

遺物　　石製品(板碑)　１：６

中近世陶器・土器(甕・鉢・焙烙・鍋などの大型品)、瓦　１：４

中近世陶磁器(碗・皿などの小型品)　１：３

石製品(小型の砥石)、鉄製品　１：２　　石製品(硯)、銅銭　１：１

4　本書で掲載した地図は、下記のものを使用した。

国土地理院　地形図　　１：25,000「上野境」(平成14年２月１日発行)、「深谷」(平成14年９月１日発行)

国土地理院　地形図　　１：50,000「深谷」(平成10年９月１日発行)、「高崎」(平成10年12月１日発行)

国土地理院　地勢図　　１：200,000「宇都宮」(平成23年６月１日発行)

太田市役所　地形図　　１：2,500（平成23年３月測図）

目　　次

序
例言
凡例
目次
挿図・表・写真目次

第１章　調査に至る経緯、調査の方法・経過 ･･･ 1
　第１節　調査に至る経緯 ･･･ 1
　第２節　調査の方法と経過 ･･･ 4
　　１　調査の方法 ･･･ 4
　　２　調査の経過 ･･･ 4
　第３節　整理作業の概要 ･･･ 4

第２章　遺跡の位置と環境 ･･･ 5
　第１節　地理的環境 ･･･ 5
　第２節　歴史的環境 ･･･ 7

第３章　調査の成果 ･･･14
　第１節　成果の概要 ･･･14
　第２節　土坑 ･･･14
　第３節　井戸 ･･･36
　第４節　溝 ･･･36
　第５節　ピット ･･･39
　第６節　遺構外出土の遺物 ･･･43

第４章　総括 ･･･44
　第１節　世良田環濠集落遺跡出土の中世瓦 ･･･44

遺物観察表 ･･･53

抄録 ･･･56

写真図版

挿図目次

第１図　遺跡の位置・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1
第２図　調査区の位置　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　2
第３図　調査区設定図　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3
第４図　周辺地形分類図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　6
第５図　周辺の遺跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　8
第６図　１区遺構配置図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　15
第７図　１号土坑平断面図・出土遺物（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・　19
第８図　１号土坑出土遺物（２）、２号土坑平断面図・出土遺物（１）・　20
第９図　２号土坑出土遺物（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　21
第10図　２号土坑出土遺物（３）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　22
第11図　２号土坑出土遺物（４）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　23
第12図　２号土坑出土遺物（５）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　24
第13図　４・14号土坑平断面図、14号土坑出土遺物・・・・・・・・・・・　25
第14図　５号土坑平断面図・出土遺物、６号土坑平断面図・
出土遺物（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　26
第15図　６号土坑出土遺物（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　27
第16図　６号土坑出土遺物（３）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　28
第17図　６号土坑出土遺物（４）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　29
第18図　６号土坑出土遺物（５）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　30
第19図　６号土坑出土遺物（６）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　31
第20図　６号土坑出土遺物（７）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　32
第21図　６号土坑出土遺物（８）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　33
第22図　８～12号土坑平断面図　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　34
第23図　13・15・16号土坑平断面図、15号土坑出土遺物・・・・・・・・　35
第24図　２～４号井戸平断面図・出土遺物　・・・・・・・・・・・・・・・・　37
第25図　５号井戸平断面図・出土遺物　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　38
第26図　１～３号溝平断面図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　39
第27図　１～７・９～18・44号ピット平断面図　・・・・・・・・・・・・・　40
第28図　19～41・45号ピット平断面図、32号ピット出土遺物　・・・・　41
第29図　42・43号ピット平断面図　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　42
第30図　遺構外出土の遺物　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　43

表目次

第１表　遺構名称の改訂・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
第２表　周辺の遺跡一覧表（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
第３表　周辺の遺跡一覧表（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
第４表　周辺の遺跡一覧表（３）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
第５表　周辺の遺跡一覧表（４）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
第６表　土坑一覧表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19
第７表　ピット一覧表　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・42
第８表　瓦観察表１・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・46
第９表　瓦観察表２・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・47
第10表　瓦観察表３・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　48
第11表　瓦観察表４・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　49
第12表　瓦観察表５・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　50
第13表　瓦観察表６・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　51
第14表　瓦観察表７・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　52
第15表　遺物観察表（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　53
第16表　遺物観察表（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　54
第17表　遺物観察表（３）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　55

写真目次

PL. 1　１．１－１区全景（南東から）
２．１－２区西部全景（北西から）
PL. 2　１．１－１区全景（北西から）
２．１－２区東部全景（南東から）
３．１－２区西部全景（南東から）
４．１－３区全景（南東から）
５．１－３区全景（北西から）
PL. 3　１．１－４区西部全景（南から）
２．１－４区西部全景（北から）
PL. 4　１．１－４区東部全景（北西から）
２．１号土坑全景（南から）
３．２号土坑遺物出土状態（東から）
４．２号土坑全景（東から）
５．４号土坑全景（南西から）
PL. 5　１．５号土坑遺物出土状態（東から）
２．５号土坑全景（東から）
３．６号土坑全景（東から）
４．８号土坑全景（東から）
５．９号土坑全景（北東から）
６．10号土坑全景（南西から）
７．11号土坑全景（西から）
８．12号土坑、１・２号溝全景（北西から）
PL. 6　１．13号土坑全景（南東から）
２．14号土坑全景（南東から）
３．14号土坑全景（南西から）
４．15号土坑全景（南から）
５．16号土坑全景（南から）
６．２号井戸全景（南西から）
７．３号井戸全景（南東から）
８．４号井戸全景（東から）
PL. 7　１．５号井戸全景（北東から）
２．１・２号溝全景（南東から）
３．３号溝全景（南から）
４．11号ピット全景（東から）
５．12号ピット全景（東から）
６．14～18号ピット全景（南西から）
７．19～25号ピット全景（北東から）
８．19～21号ピット全景（北東から）
PL. 8　１．21～23号ピット全景（北東から）
２．19・24・25号ピット全景（北東から）
３．28～30号ピット全景（北東から）
４．28号ピット全景（北東から）
５．29号ピット全景（北東から）
６．30～32号ピット全景（北東から）
７．30号ピット全景（北東から）
８．31号ピット全景（北東から）
PL. 9　１．32～34号ピット全景（北東から）
２．32号ピット全景（北東から）
３．33号ピット全景（北東から）
４．34号ピット全景（北東から）
５．35号ピット全景（北東から）
６．36号ピット全景（北東から）
７．37号ピット全景（北東から）
８．38号ピット全景（北東から）
PL. 10　１．39号ピット全景（北東から）
２．41号ピット全景（北東から）
３．42号ピット全景（北東から）
４．43号ピット全景（北東から）
５．44号ピット全景（南東から）
６．45号ピット全景（北東から）
７．旧石器時代調査全景（北西から）
８．旧石器時代調査全景（南東から）
PL. 11　１号土坑出土遺物、２号土坑出土遺物（１）
PL. 12　２号土坑出土遺物（２）
PL. 13　２号土坑出土遺物（３）
PL. 14　２号土坑出土遺物（４）、14・５号土坑出土遺物
PL. 15　６号土坑出土遺物（１）
PL. 16　６号土坑出土遺物（２）
PL. 17　６号土坑出土遺物（３）、３・４号井戸、遺構外出土遺物

第１章　調査に至る経緯、調査の方法・経過

第１節　調査に至る経緯

世良田環濠集落遺跡は群馬県太田市世良田町にある（第１図）。世良田町は太田市の南西隅近くで、旧尾島町の西端に位置する。

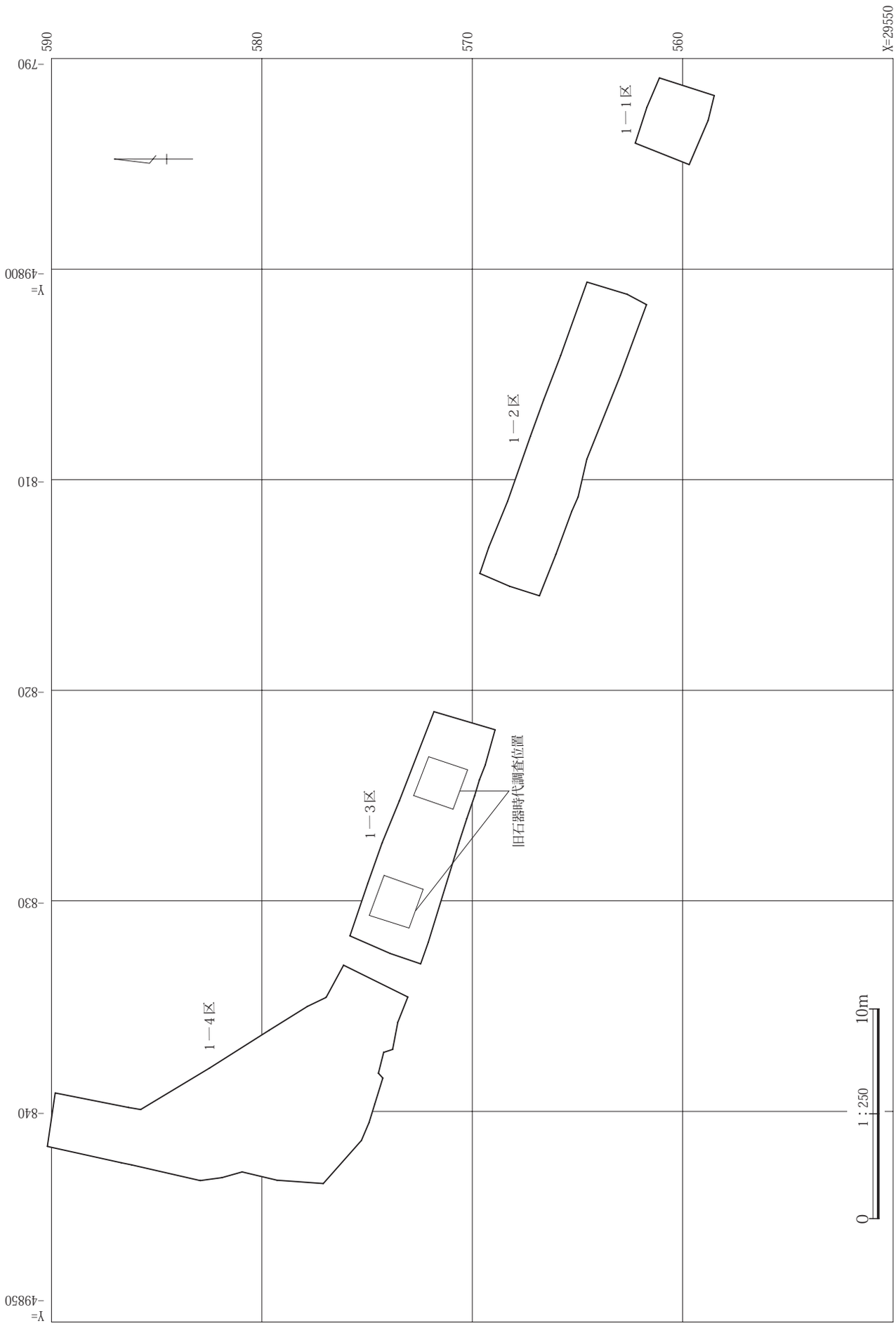
発掘調査は、世良田町を南北に走る主要地方道大間々・世良田線、同伊勢崎・深谷線と、東西に貫く国道354号とが交わる世良田交差点の改良工事に先だって実施されたものである。改良工事では交差点付近の道路が拡幅されるために、交差点の４方向が発掘調査対象地となる。本書はそのうちの北東部の調査成果について報告するものである（位置は第２図参照）。

北東部の調査は平成25年度に実施されたが、この事業が具体的に動き出したのは平成25年５月10日である。この日県土整備部建設企画課より、平成25年度社会資本総合整備（防災・安全）（交安・重点）（主）大間々世良田線世良田交差点改良工事について、県教育委員会文化財保護課に事業照会があった。これに対して文化財保護課は、６月18日、事業地が「世良田環濠集落遺跡」と呼ばれる包蔵地の範囲内にあるため、必要書類（法94条届出、添付書類）の提出が必要であり、さらに再協議が必要であると建設企画課に回答した。８月26日には、事業地において文化財保護課と太田土木事務所とで協議が行われ、文化財保護課は太田土木事務所に対し、試掘確認調査が必要であることを回答し、８月29日に太田土木事務所から文化財保護課に対し、試掘確認調査の実施が依頼された。その調査は９月30日に行われ、その結果を受けて、11月11日、文化財保護課は、太田土木事務所に対し、「試掘確認調査の結果、事業地内については、（一部範囲を除き）

第１図　遺跡の位置（国土地理院20万分の1地勢図「宇都宮」（平成23年6月1日発行）使用）

第２図　調査区の位置

この図の作成にあたっては、太田市長の承認を得て、同市発行の2,500分の１地形図（平成23年測図）を使用した。


X=29550
560
570
580
590
-790
-810
-820
-830
-840
Y=-49800
Y=-49850
1－1区
1－2区
1－3区
1－4区
旧石器時代調査位置
0
1：250
10m

第３図　調査区設定図

発掘調査が最も適切であると考えられる」と回答した。その発掘調査は、文化財保護課の調整を経て、同年度内に当事業団が担当して実施されることになり、交差点北東部を対象とする調査が平成26年２月の１ヶ月間に実施されることとなった。

第２節　調査の方法と経過

１　調査の方法

調査対象地は世良田交差点の北東側であり、ここを１区と名付けた。交差点の残り３方向については今後調査が継続して行われる予定であり、それらは２～４区と呼ばれることになる。発掘調査に当たっては、対象地の奥にある民家への通路等を確保する必要があることと、排土置き場を調査地内に確保する必要があることから、第３図に見るように調査対象地を１－１区～１－４区の４区画に細分し、場合によってはそれぞれの区をさらに分割して調査した。

遺構の測量には世界測地系（日本測地系2000平面直角座標Ⅸ系）を用いた。調査区が狭小であることもあり、特に本遺跡特有のグリッドを設定することはしていない。位置の表示が必要な場合は、１ｍ×１ｍ単位のグリッドを作り、その南東隅の座標の下３桁を用いて表している（例：Ｘ＝29565、Ｙ＝－49804の場合、565-804と表す）。

調査方法に特殊なものはなく、ごく標準的な方法を用いた。その概略は以下の通りである。

表土除去は基本的にバックホーを用いた。表土除去終了後はジョレンを用いて遺構確認を行い、確認できた遺構について調査を行った。住宅地に位置することもあり、遺構確認面には多くの攪乱が見られ、遺構確認はやや困難であった。確認できた遺構の種類は土坑、ピット、溝などであり、それぞれ土層観察のために半裁するなどしながら掘り下げた。各遺構の名称は、遺構種ごとに続き番号で表した。

遺構の測量は測量業者に委託し、平面図・断面図ともデータをデジタル化してその後の整理作業の便を図っている。縮尺は１/20である。写真撮影はデジタル一眼レフカメラを主とし、一部ブローニー版の白黒フィルムも使用した。

なお、対象地内にはロームではないかと思われる土層の堆積が認められたため、１－３区において２×２ｍの調査坑を２ヶ所設けて旧石器時代の調査を行った（位置は第３図参照）。しかし良好なローム層は確認できず、本地区では旧石器時代の遺跡は存在しないと判断した。

２　調査の経過

現地における発掘調査は平成26年２月の１ヶ月間実施した。前述の通り調査区が細かく分かれ、しかも排土を調査区内で処理しなければならないため、各調査区をさらに分割して調査するなど、かなり複雑な作業工程となった。

現地における調査は２月３日から開始した。まず１－１区、１－２区東端部、１－４区北側の順で表土除去を開始し、表土除去が終了した調査区から随時遺構確認を行い、続いて確認できた遺構の調査に着手した。以後、調査が終了した区を埋め戻し、新たな区を表土除去して遺構確認・調査を行う、という手順を繰り返した。６日には１－４区北側を埋め戻して東側を表土掘削し、さらに１－２区東端を西側に掘り広げた。１－４区東側は翌７日には調査終了となったので、即日埋め戻し、同時に１－１区、１－２区東側も埋め戻した。10日には１－２区西部を表土掘削して直ちに遺構確認を行い、その後引き続いて遺構調査を行った。この区の調査は13日に終了したが、直後に大雪に見舞われたため埋め戻しは18日に実施し、その後１－３区の表土除去を行い、遺構の調査を20日まで継続した。その後調査区を埋め戻して整地作業を行うなどの事後処理を実施し、現地における調査を終了した。

第３節　整理作業の概要

整理作業は平成26年９～11月の３ヶ月間に実施した。

遺構図面は点検・修正・編集を行い、掲載図面をデジタルデータとして作成した。遺物については接合・復元、写真撮影、実測、トレースののち、実測図をスキャニングしてデジタルデータとした。同時に遺物観察を行い、遺物観察表を作成した。写真は遺構・遺物ともデジタル写真から編集を行った。以上の作業と並行して本文の執筆、土層注記や各種一覧表などを作成し、それらを併せてレイアウトを作成したのちデジタル編集し、報告書原

稿を作成した。

なお、いくつかの遺構については、整理作業の過程で特徴などを検討した結果、調査時の名称を改訂する必要が生じた。この名称の改訂については第１表にまとめて掲げた通りである。なお、遺構名称改訂に伴う遺物注記の書き直しは行っていない。

第１表　遺構名称の改訂

調査時の名称	改訂した名称
１号竪穴状遺構	12号土坑
２号竪穴状遺構	13号土坑
３号竪穴状遺構	14号土坑
３号土坑	44号ピット
７号土坑	45号ピット
１号井戸	15号土坑
８号ピット	16号土坑

第２章　遺跡の位置と環境

第１節　地理的環境

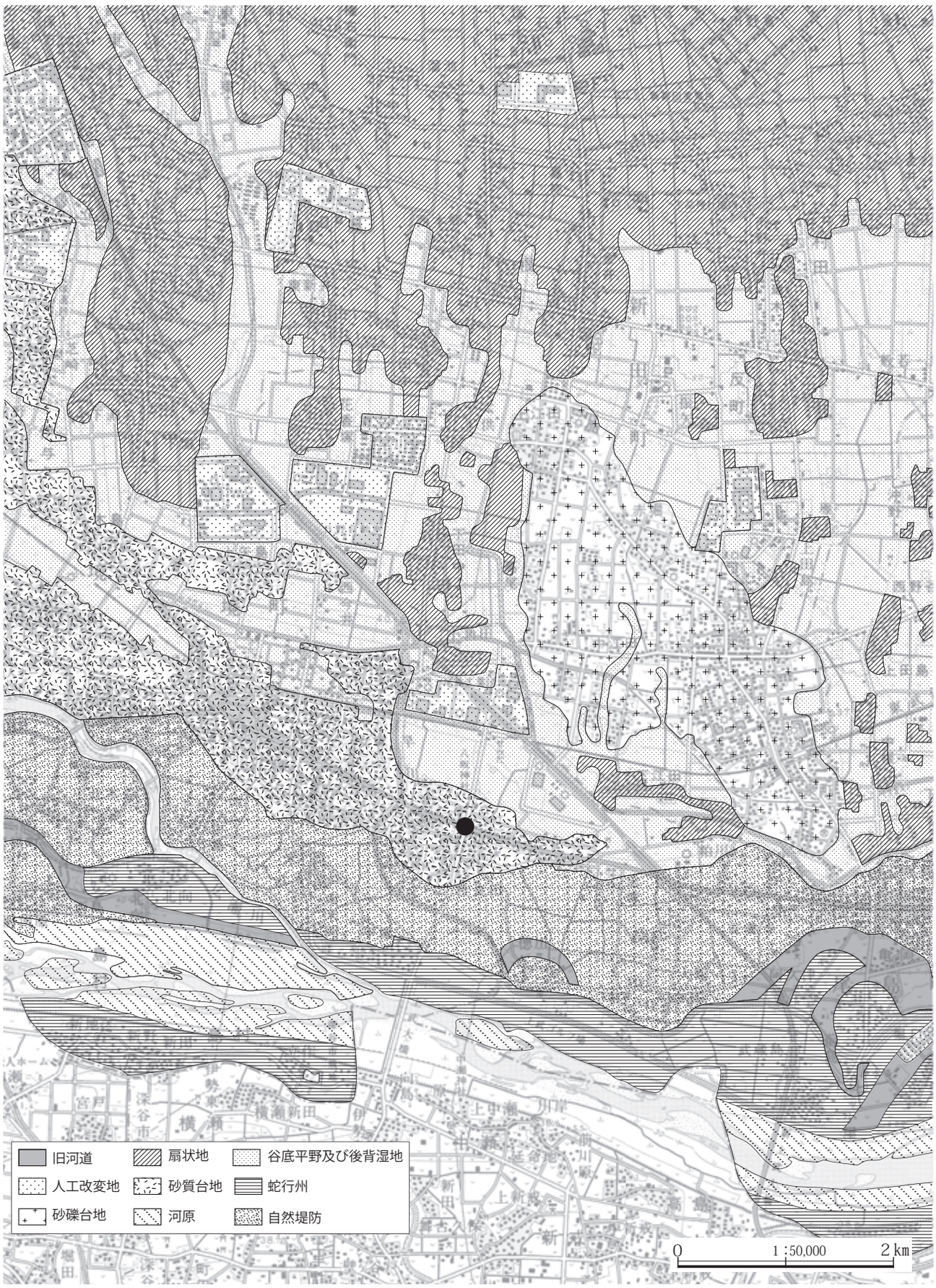
世良田環濠集落遺跡は群馬県太田市の南西隅近く、旧尾島町の西端近くにある。

太田市は群馬県の東部、広大な関東平野の北端に位置している。市域はいわゆる「平成の大合併」で尾島町、新田町、藪塚本町と合併し大きく広がった。市全体の地形は、北から中央東側にかけて金山・八王子丘陵がある以外はほぼ平坦で、全体に起伏には乏しい。市の西側は広大な大間々扇状地が広がり、その南側には低い台地と、それとあまり標高差のない低地とが広がっている。市域の北東部は渡良瀬川、南は利根川によって画され、これがほぼ栃木県、埼玉県との境になっている。

本遺跡周辺の地形分類は第４図に示した通りである。この地域は図の北側に見える大間々扇状地の南側に当たり、利根川の沖積作用によって形成された平野が広がっている。この平野は、前述の通り、低い台地と、それとほとんど標高差のない低地からなるが、西から東に流れる利根川によって形作られた地形なので、地形の方向も図の北側とは異なり、東西に延びる形になっているのが見て取れる。遺跡のある場所は利根川まで1.5㎞しか離れておらず、常に利根川の大きな影響を受ける場所であるといえる。

本遺跡はその東西に延びる低台地の上に立地し、そこは『尾島町誌通史編上巻』（尾島町、1993）の「第二章　地形・地質」（執筆は沢口宏氏）によれば「尾島台地」と呼ばれる台地である。尾島台地は、伊勢崎市街地から広瀬川左岸に沿って東に延びる伊勢崎台地の東端に当たり、先端は尾島市街地にまで及ぶ、幅１㎞前後の細長い台地である。この台地は同じく『尾島町誌』によれば、成因の明確ではない「伊勢崎砂層」（あるいは「前橋泥流」の一部ではないかとも推定されている）という特徴的な地層で構成されているといい、その表層には上部ローム層が堆積しているという。ただし、このローム層は流水の影響を受けた２次堆積のものと考えられ、純粋な風成のロームは認められないとのことである。本遺跡の旧石器時代の調査においても、状態のよいローム層は認めることができなかったので、このことが確かめられる。この尾島台地と南北の低地との境は、東端部の尾島市街地付近では１～２ｍの段差があり明瞭だというが、本遺跡のある世良田付近では不明瞭となっている。現地では北側の低地が水田、南側の台地が集落や畠として利用されており、地形の違いが土地利用に明瞭に現れているのをみることができる。

遺跡のある地域は現在世良田の集落となっており、宅地以外には畑地として利用されている。今回調査対象地となったのは集落中心部の交差点周辺なので、古くから宅地として利用されていた部分である。そのため、調査範囲には多くの攪乱が入り、遺構の残りはよい状態ではなかった。標高は世良田交差点で37.5ｍである。



第４図　周辺地形分類図

地形分類は群馬県『土地分類基本調査・深谷』（1991）、『同・高崎』（1993）による。
国土地理院５万分の１地形図「深谷」（平成10年９月１日発行）、『高崎』（平成10年12月１日発行）使用。

第２節　歴史的環境

遺跡地は群馬県が保有するさまざまな地理情報である「マッピングぐんま」の文化財情報によると、南北１km、東西１kmほどの範囲がＪ0052「世良田環濠集落」（１）として中世の集落や城館の包蔵地として認定されている。遺跡認定されている範囲には国指定史跡の「新田荘遺跡」を構成する総持寺境内、長楽寺境内、東照宮境内など中世から近世にかかわる寺院などが存在し、長楽寺遺跡（７）の発掘調査では弥生時代中期須和田式期の竪穴住居２棟、古墳時代前期の竪穴住居31棟、古墳、埴輪棺などを検出する成果を得ている。こうした遺跡地について周辺遺跡をふまえて歴史的環境を概観することにする。

なお、以下で扱う遺跡の名称と第５図「周辺の遺跡」に示した遺跡の位置・範囲は、インターネット上に公開されている群馬県教育委員会文化財保護課による遺跡分布図（マッピングぐんま「遺跡・文化財」http://mapping-gunma.pref.gunma.jp/pref-gunma/top/select.asp?dtp=86&pl=3、2014年11月現在のデータ）に依拠している。

旧石器時代

遺跡地が存在する尾島台地では旧石器時代の遺構・遺物は検出されていない。北側に存在する大間々扇状地の扇頂部では日本に旧石器時代が存在したことを証明した岩宿遺跡が存在するが、扇状地端部や木崎台地などの洪積世台地上では旧石器の出土が確認されている。その中で花園遺跡（54）では径40mの範囲に礫群が４基、被熱を受けた礫の集石１ヶ所がみつかり、AT直上の３層からナイフ形石器、削器、石核、剥片、ハンマーなどが100点ほど出土し、石器製作がおこなわれたとみられる。この他では世良田工業団地遺跡（Ａ区歌舞妓遺跡）（71）で終末期の尖頭器、中江田Ａ遺跡（70）と中江田原遺跡（58）からもAs-BPブロックを含む層位からスクレパーが１点とナイフ形石器が２点出土している。

縄文時代

遺跡地である尾島台地では縄文時代の遺構は見つかっていないが、木崎台地や大間々扇状地では多くの遺跡が確認されている。

この地域での縄文時代は草創期や早期から中江田Ｂ遺跡（68）や中江田Ａ遺跡から土器の出土はあるものの遺構は確認されていない。竪穴住居や土坑などの存在は前期になってからである。前期の遺跡としては花園遺跡での調査例を見ることができる。中期では台遺跡、尾島工業団地遺跡群（調査された範囲には谷地で区分された歌舞妓遺跡、小角田下遺跡（75）、小角田前遺跡（74）、水久保遺跡（86）、水久保Ⅱ遺跡（87）、水久保Ⅲ遺跡（88）、鼠塚遺跡（73）の８遺跡が存在する）、後期では小角田前遺跡、粕川山之神遺跡（47）などで調査例を見ることができる。しかし、これらの遺跡は竪穴住居１棟や土坑だけなど小規模なものである。こうした中で下田遺跡（50）では旧河道内から中期～後期の土器とともに、漆器（木胎漆器・藍胎漆器）の他に漆によって施文された土器、木器（石斧の柄、櫂状）等が大量に出土したほか、多量のトチの実等の出土も存在したことから食料加工場の可能性が指摘されている。

弥生時代

弥生時代になると尾島台地にも小規模ながら集落が形成され始める。中期中葉には長楽寺遺跡でいわゆる須和田式期の竪穴住居が２棟調査されている。この他、阿久津宮内遺跡（36）では中期条痕文土器、花園遺跡や歌舞伎遺跡では中期の土器群が出土している。

後期では粕川山之神遺跡で樽式期の竪穴住居１棟、尾島工業団地遺跡（小角田前遺跡）（74）で竪穴住居１棟が調査されている。調査の状況からはいずれも小規模な集落とみられる。

古墳時代

前期　古墳時代になると前橋・高崎地域の平野部と同様に大きな展開がみられる。

前期は群馬県での前期土器の標識遺跡である石田川遺跡が本遺跡の東約６kmに存在するように、長楽寺遺跡で竪穴住居31棟、尾島工業団地遺跡（73～75、86～89）で竪穴住居43棟、小角田前遺跡や花園遺跡、三ツ木遺跡（90）、常木遺跡で竪穴住居や方形周溝墓、壺棺墓等の調査例があり、広範囲に集落が展開された様相が明らかになっている。

中期　中期では前期以上に集落が規模が拡大していく様相がみられる。

尾島工業団地遺跡では竪穴住居117棟が調査された他

第５図　周辺の遺跡

（国土地理院２万５千分の１地形図「上野境」（平成14年２月１日発行）、「深谷」（平成14年９月１日発行）使用。）

第２表　周辺の遺跡一覧表（１）

番号	遺跡名称	所　在　地	時　　代	種　類	文　献　等
1	世良田環濠集落遺跡	太田市世良田町	中世	集落・城館	本報告書 尾島町誌専門員会1993「尾島町誌　通史編上巻」
2	上新田遺跡	太田市世良田町	古墳・中世	散布地、城館	(株)東京電力1988「西田・谷津・中道・上新田・今井遺跡」
3	新田館跡	太田市世良田町	中世	城館	(株)東京電力1988「西田・谷津・中道・上新田・今井遺跡」、尾島町教育委員会1997「新田館跡」
4	今井地区遺跡群	太田市世良田町	古墳・平安～中近世	集落・城館・寺社・墓	平成元～６に５次の発掘調査を実施
5	今井遺跡	太田市世良田町	中世・近世	集落	(株)東京電力1988「西田・谷津・中道・上新田・今井遺跡」
6	世良田館跡	太田市世良田町	中世	城館	群馬県教育委員会1988「群馬県の中世城館跡」
7	長楽寺遺跡	太田市世良田町	弥生・古墳・中世・近世	集落、社寺、古墳	尾島町教育委員会1978「長楽寺遺跡」、1984「長楽寺遺跡」、1992「長楽寺遺跡」
8	世良田新町遺跡	太田市世良田町	中世	社寺	平成10.５～７発掘調査実施
9	東照宮南遺跡	太田市安養寺町	中世・近世	城館	「群馬県の中世城館跡」
10	上新田Ⅱ遺跡	太田市世良田町	中世	集落	昭和63.９～ 10発掘調査実施
11	岩松陣屋跡	太田市世良田町	中世・近世	城館	「群馬県の中世城館跡」
12	船田館跡	太田市世良田町	古墳・中世・近世	集落・城館・寺社	「尾島町誌通史編上巻」
13	宝積院跡	太田市世良田町	古墳・中世・近世	集落・城館・寺社	尾島町誌専門員会1993「尾島町誌通史編上巻」
14	世良田陣屋	太田市世良田町	中世・近世	その他	平成14・15発掘調査実施
15	精進場遺跡	太田市世良田町	奈良・平安	散布地	昭和61.11試掘
16	世良田下町遺跡	太田市世良田町	古墳・中世・近世	散布地	
17	世良田諏訪下遺跡	太田市世良田町	古墳・平安・中近世	古墳・集落・生産	尾島町教育委員会1994「世良田諏訪下遺跡」
18	下原古墳群	太田市世良田町	古墳	古墳	
19	世良田下江田前遺跡	太田市世良田町	不明	不明	尾島町教育委員会1992「出塚大日南遺跡・粕川黒川遺跡・世良田下江田前遺跡」
20	下江田前遺跡	太田市世良田町	中世	その他	群埋文1991「飯土井二本松遺跡・下江田前遺跡」
21	FP泥流下遺跡群	太田市	古墳	集落・生産	
22	世良田若宮遺跡	太田市世良田町	古墳	散布地	
23	世良田諏訪東遺跡	太田市世良田町	古墳・奈良	散布地	
24	出塚大日南遺跡	太田市出塚町	古墳	散布地	尾島町教育委員会1992「出塚大日南遺跡・粕川黒川遺跡・世良田下江田前遺跡」
25	徳川館跡	太田市徳川町	中世	城館	昭和63.５発掘調査実施
26	縁切寺満徳寺遺跡	太田市世良田町	近世	社寺	発掘調査実施
27	大舘御蔵遺跡	太田市大舘町	古墳・中世	散布地	昭和61.12調査(試掘)
28	大舘館跡	太田市大舘町	縄文・古墳	散布地	「群馬県の中世城館跡」
29	安養寺西居立遺跡	太田市安養寺町	中世	城館	「群馬県の中世城館跡」
30	安養寺居立遺跡	太田市安養寺町	縄文・古墳	散布地	
31	安養寺森南遺跡	太田市安養寺町	古墳・中世・近世	城館・その他	
32	安養寺森ノ内遺跡(安養寺館跡)	太田市安養寺町	弥生・古墳・中世・近世	散布地・城館	「群馬県の中世城館跡」、尾島町教育委員会「安養寺館跡」2004
33	安養寺北原遺跡	太田市安養寺町	中世・近世	その他	平成12．６～８発掘調査実施
34	粕川本郷遺跡	太田市粕川町	古墳・奈良	散布地	
35	安養寺東居立遺跡	太田市安養寺町	中世	城館	「群馬県の中世城館跡」
36	安養寺森西遺跡・大舘馬場遺跡・阿久津宮内遺跡	太田市安養寺町	弥生・古墳・奈良・平安・中世・近世	集落・その他	群埋文1955「安養寺森西遺跡・大舘馬場遺跡・阿久津宮内遺跡」
37	粕川新堀下遺跡	太田市粕川町	古墳・平安	集落・墓	尾島町教育委員会2000「粕川新堀下遺跡」
38	亀岡軽浜遺跡	太田市亀岡町	中世・近世	その他	尾島町教育委員会2005「亀岡軽浜遺跡」
39	尾島裏組遺跡	太田市尾島町	古墳・中世	散布地	
40	下田島遺跡	太田市下田島町	縄文・古墳	古墳・集落	太田市教育委員会2003「市内遺跡 XIV」、2004「市内遺跡20」、2005「市内遺跡21」
41	石之塔遺跡	太田市中根町	古墳	散布地	
42	長福寺遺跡	太田市下田島町	古墳・平安・近世・中世・江戸	集落・城館・寺社	太田市教育委員会1992「長福寺遺跡発掘調査概報」、2005「長福寺遺跡第Ⅲ次」
43	西田島遺跡	太田市下田島町	縄文・古墳・平安・近世	古墳・集落・城館	太田市教育委員会1987「西田島遺跡」、1991「西田島遺跡Ⅱ-下田島上跡の調査-」
44	岩松館址	太田市下田島町	中世	城館	
45	延亨割遺跡	太田市泉町	縄文・古墳	古墳・集落	太田市教育委員会1996「延亨割遺跡」
46	なた山遺跡	太田市粕川町	縄文・古墳	散布地	
47	粕川山之神遺跡	太田市粕川町	縄文～近世	散布地	尾島町教育委員会1992「粕川山之神遺跡」、1994「粕川山之神遺跡Ⅱ」、1997「粕川山之神遺跡」、1998「粕川山之神遺跡Ⅲ」
48	杉ノ内遺跡	太田市上田島町	古墳	散布地	
49	松木ヶ谷戸遺跡	太田市中根町	古墳	散布地	
50	下田遺跡	太田市新田木崎町	縄文・古墳	散布地・その他	新田町教育委員会1992「下田遺跡」
51	大豆柄遺跡	太田市新田木崎町	縄文・古墳	散布地・その他	『資料編(上)』「新田町誌」第２巻

第３表　周辺の遺跡一覧表（２）

番号	遺跡名称	所　在　地	時　　代	種　類	文　献　等
52	長命寺裏遺跡	太田市新田木崎町	縄文・古墳・平安	散布地	『資料編(上)』「新田町誌」第２巻
53	中通遺跡	太田市新田木崎町	古墳	散布地	『資料編(上)』「新田町誌」第２巻
54	花園遺跡	太田市新田木崎町	旧石器・縄文～平安・中世	集落	新田町教育委員会1996「中江田遺跡群花園遺跡」、2001「新田町内遺跡Ⅲ」
55	下耕地遺跡	太田市新田赤堀町	古墳	散布地	『資料編(上)』「新田町誌」第２巻
56	寒沢遺跡	太田市新田中江田町	古墳	散布地	『資料編(上)』「新田町誌」第２巻
57	八ッ縄遺跡	太田市新田中江田町	集落・墓	縄文・古墳～平安・中近世	群埋文1995「中江田八ツ縄遺跡」、新田町教育委員会1999「八ツ縄遺跡」
58	中江田原遺跡	太田市新田中江田町	旧石器・縄文～奈良・平安	集落	新田町教育委員会1979「中江田(原)消防詰所遺跡」、1985「中江田遺跡」、1997「中江田遺跡群」他
59	原館跡	太田市新田中江田町	中世・近世	城館	『資料編(上)』「新田町誌」第２巻
60	御門遺跡	太田市下江田町	古墳	城館	『資料編(上)』「新田町誌」第２巻
61	五反田遺跡	太田市新田下江田町	縄文・古墳	散布地	
62	下江田本郷遺跡	太田市新田下江田町	縄文・古墳	散布地	『資料編(上)』「新田町誌」第２巻
63	中江田本郷館跡	太田市新田中江田町	中世・近世	城館	『資料編(上)』「新田町誌」第２巻
64	中江田本郷遺跡(中江田本郷廃寺)	太田市新田中江田町	縄文・古墳～平安・中世	集落・寺社	新田町教育委員会1979「中江田(原)消防詰所遺跡」、1985「中江田遺跡」、1997「中江田遺跡群」他
65	赤仏遺跡	太田市新田中江田町	古墳・奈良・平安・他	散布地	
66	中江田宿通遺跡	太田市新田中江田町	古墳・奈良・平安	集落	新田町教育委員会1979「中江田(原)消防詰所遺跡」、1985「中江田遺跡」、1997「中江田遺跡群」他
67	中江田Ｃ遺跡	太田市新田中江田町	旧石器・古墳	散布地	『資料編(上)』「新田町誌」第２巻
68	中江田Ｂ遺跡	太田市新田中江田町	旧石器・縄文・古墳	散布地	『資料編(上)』「新田町誌」第２巻
69	旧来迎寺跡	太田市新田中江田町	中世・近世	社寺	『資料編(上)』「新田町誌」第２巻
70	中江田Ａ遺跡	太田市新田中江田町	旧石器・縄文～奈良・平安	集落	新田町教育委員会1979「中江田(原)消防詰所遺跡」、1985「中江田遺跡」、1997「中江田遺跡群」、2001「上野井古墳群・揚原遺跡・中江田Ａ遺跡」
71	歌舞妓遺跡	太田市世良田町	古墳～奈良・平安～中世	集落	群埋文1982「歌舞伎遺跡」尾島町教育委員会1998「歌舞妓遺跡」
72	世良田土屋分遺跡	太田市世良田町	古墳・奈良・平安	集落	尾島町教育委員会1995「世良田土屋分遺跡」
73	鼠塚遺跡	太田市小角田町	縄文・古墳・平安	古墳・集落	太田市教育委員会2012「尾島工業団地遺跡」
74	小角田前遺跡	太田市世良田町	古墳～奈良・平安・中世	集落	群埋文1986「小角田前遺跡」、1995「小角田前Ⅰ・Ⅱ遺跡」、太田市教育委員会2011「尾島工業団地遺跡」
75	小角田下遺跡	太田市小角田町	縄文・古墳～奈良・中世	古墳	太田市教育委員会2011「尾島工業団地遺跡」
76	小角田古墳群	太田市小角田町	古墳	古墳	
77	小角田遺跡群	太田市小角田町	古墳・平安・近世	集落・墓他	尾島町教育委員会1997「小角田遺跡群」
78	小角田中通遺跡	太田市小角田町	中世・近世	集落・墓	平成12.１～２発掘調査実施
79	中道遺跡	太田市新田下田中町	古墳～中世	集落	(株)東京電力1988「西田・谷津・中道・上新田・今井遺跡」、群埋文1995「下田中中道遺跡・下田中川久保遺跡」
80	下田中川久保遺跡	太田市新田下田中町	中世	集落	新田町教育委員会2005「新田町内遺跡Ⅶ」、群埋文1995「下田中中道遺跡・下田中川久保遺跡」
81	三ツ木皿沼遺跡	伊勢崎市境三ツ木町	縄文・古墳・平安・近世	古墳・集落・生産	群埋文2000「三ツ木皿沼遺跡」
82	三ツ木越戸３遺跡	伊勢崎市境三ツ木町	奈良・平安	散布地	
83	三ツ木・越戸遺跡	伊勢崎市境三ツ木町	奈良・平安	散布地・集落	群埋文1981「三ツ木遺跡」
84	三ツ木・越戸２遺跡	伊勢崎市境三ツ木町	古墳・奈良・平安	散布地	
85	三ツ木・住林寺遺跡	伊勢崎市境三ツ木町	古墳・奈良・平安	集落	発掘調査1983～85実施
86	水久保遺跡	太田市小角田町	縄文・古墳・平安	古墳・城館	太田市教育委員会2013「尾島工業団地遺跡」
87	水久保Ⅱ遺跡	太田市小角田町	古墳～奈良・平安	集落	太田市教育委員会2014「尾島工業団地遺跡」
88	水久保Ⅲ遺跡	太田市小角田町	古墳～奈良・平安	集落	太田市教育委員会2014「尾島工業団地遺跡」
89	水久保Ⅳ遺跡	太田市小角田町	古墳～奈良・平安	集落	太田市教育委員会2014「尾島工業団地遺跡」
90	三ツ木遺跡	伊勢崎市境三ツ木町	縄文～奈良・平安	集落	群埋文1985「三ツ木遺跡」他
91	三ツ木・自光坊遺跡	伊勢崎市境三ツ木町	縄文～奈良・平安	散布地・集落	境町教育委員会1980「西今井・三ツ木遺跡調査概報」
92	上矢島遺跡	伊勢崎市境上矢島町	古墳～奈良・平安	集落・墓	境町教育委員会1979「上矢島遺跡発掘調査概報」
93	三ツ木・西林遺跡	伊勢崎市境三ツ木町	縄文・古墳～中世	集落・墓	山崎一1979「上毛古城塁址の研究」、境町教育委員会1979「西林遺跡第１次発掘調査概報」
94	女塚・下田遺跡	伊勢崎市境三ツ木町	古墳・平安～中近世	集落・墓	境町教育委員会1979「西林遺跡・下田遺跡発掘調査概報」
95	栄・谷口遺跡	伊勢崎市境栄町	古墳・奈良・平安	散布地	
96	女塚・大蔵塚遺跡	伊勢崎市境女塚町	奈良・平安	散布地	
97	女塚遺跡	伊勢崎市境女塚町	奈良・平安	散布地・集落	境町役場1978「境町の古代遺跡」他
98	女塚・道西遺跡	伊勢崎市境女塚町	奈良・平安	散布地	
99	女塚・新開地遺跡	伊勢崎市境女塚町	古墳・奈良・平安	散布地	
100	女塚・堀込遺跡	伊勢崎市境三ツ木町	古墳・奈良・平安	散布地	
101	三蔵城跡遺跡	太田市世良田町	中世	城館	「群馬県の中世城館跡」

第４表　周辺の遺跡一覧表（３）

番号	遺跡名称	所　在　地	時　　代	種　類	文　献　等
102	女塚・熊之野３遺跡	伊勢崎市境米岡町	奈良・平安	散布地	
103	女塚・熊之野２遺跡	伊勢崎市境米岡町	縄文	散布地	
104	女塚・熊之野１遺跡	伊勢崎市境米岡町	縄文	散布地	
105	北米岡遺跡	伊勢崎市境米岡町	縄文・古墳～中世	散布地・集落	県立伊勢崎女子高等学校1962「群馬県境町北米岡遺跡」
106	米岡・沼端遺跡	伊勢崎市境米岡町	縄文・古墳・奈良・平安	散布地	
107	米岡・光正坊遺跡	伊勢崎市境米岡町	平安・中世	散布地	

古墳

番号	古墳名称	所　在　地	時　　代	種　類	文　献　等
1	世良田村１号墳	太田市世良田町	古墳	古墳	「上毛古墳総覧」、「尾島町誌通史編上巻」
2	世良田村２号墳	太田市世良田町	古墳	古墳	「上毛古墳総覧」、「尾島町誌通史編上巻」
3	世良田村３号墳	太田市世良田町	古墳	古墳	「上毛古墳総覧」、「尾島町誌通史編上巻」
4	世良田村４号墳	太田市世良田町	古墳	古墳	「上毛古墳総覧」、「尾島町誌通史編上巻」
5	世良田村５号墳	太田市世良田町	古墳	古墳	「上毛古墳総覧」、「尾島町誌通史編上巻」
6	世良田村６号墳	太田市世良田町	古墳	古墳	「上毛古墳総覧」、「尾島町誌通史編上巻」
7	世良田村７号墳	太田市世良田町	古墳	古墳	「上毛古墳総覧」、「尾島町誌通史編上巻」
8	世良田村８号墳	太田市世良田町	古墳	古墳	「上毛古墳総覧」、「尾島町誌通史編上巻」
9	世良田村９号墳	太田市世良田町	古墳	古墳	「上毛古墳総覧」、「尾島町誌通史編上巻」
10	世良田村10号墳	太田市世良田町	古墳	古墳	「上毛古墳総覧」、「尾島町誌通史編上巻」
11	世良田村11号墳	太田市世良田町	古墳	古墳	「上毛古墳総覧」、「尾島町誌通史編上巻」
12	世良田村12号墳	太田市世良田町	古墳	古墳	「上毛古墳総覧」、「尾島町誌通史編上巻」
13	世良田村13号墳	太田市世良田町	古墳	古墳	「上毛古墳総覧」、「尾島町誌通史編上巻」
14	世良田村14号墳	太田市世良田町	古墳	古墳	「上毛古墳総覧」、「尾島町誌通史編上巻」
15	世良田村15号墳	太田市世良田町	古墳	古墳	「上毛古墳総覧」、「尾島町誌通史編上巻」
16	世良田村16号墳	太田市世良田町	古墳	古墳	「上毛古墳総覧」、「尾島町誌通史編上巻」
17	世良田村17号墳(一本松塚古墳)	太田市世良田町	古墳・中世・近世	古墳	「上毛古墳総覧」、「尾島町誌通史編上巻」
18	世良田村18号墳	太田市世良田町	古墳	古墳	「上毛古墳総覧」、「尾島町誌通史編上巻」
19	世良田村19号墳	太田市世良田町	古墳	古墳	「上毛古墳総覧」、「尾島町誌通史編上巻」
20	世良田村20号墳	太田市世良田町	古墳	古墳	「上毛古墳総覧」、「尾島町誌通史編上巻」
21	世良田21号墳(しどみ山古墳)	太田市世良田町	古墳・中世・近世	古墳	尾島町教育委員会1994「世良田諏訪下遺跡」
22	世良田村22号墳(第二しどみ山古墳)	太田市世良田町	古墳	古墳	「上毛古墳総覧」、「尾島町誌通史編上巻」
23	世良田村23号墳(二体地蔵塚古墳)	太田市世良田町	古墳・中世・近世	古墳	「上毛古墳総覧」、「尾島町誌通史編上巻」
24	世良田村24号墳 (落歯塚古墳)	太田市世良田町	古墳	古墳	「上毛古墳総覧」、「尾島町誌通史編上巻」
25	徳川義孝累代の墓・世良田村25号墳(文珠山古墳)	太田市世良田町	古墳・中世	古墳・墓その他	「上毛古墳総覧」、「尾島町誌通史編上巻」
26	世良田村26号墳(稲荷山古墳)	太田市世良田町	古墳	古墳	「上毛古墳総覧」、「尾島町誌通史編上巻」
27	世良田村27号墳(下ノ諏訪古墳)	太田市世良田町	古墳	古墳	「上毛古墳総覧」、「尾島町誌通史編上巻」
28	世良田村28号墳(二子塚古墳)	太田市世良田町	古墳	古墳	「上毛古墳総覧」、「尾島町誌通史編上巻」
29	世良田村29号墳(御稲荷山古墳)	太田市世良田町	古墳	古墳	「上毛古墳総覧」、「尾島町誌通史編上巻」
30	世良田村30号墳(歌舞妓山古墳)	太田市世良田町	古墳	古墳	「上毛古墳総覧」、「尾島町誌通史編上巻」
31	世良田村31号墳(鼠塚古墳)	太田市世良田町	古墳	古墳(前方後円墳)	太田市教育委員会2011「尾島工業団地遺跡」
32	世良田村32号墳(銭神塚古墳)	太田市世良田町	古墳	古墳	太田市教育委員会2011「尾島工業団地遺跡」
33	世良田村33号墳(上ノ諏訪古墳)	太田市世良田町	古墳	古墳	「上毛古墳総覧」、「尾島町誌通史編上巻」
34	世良田村34号墳	太田市世良田町	古墳	古墳	尾島町教育委員会1998「世良田諏訪下遺跡」
35	世良田村35号墳	太田市世良田町	古墳	古墳	尾島町教育委員会1999「世良田諏訪下遺跡」
36	世良田村36号墳	太田市世良田町	古墳	古墳	尾島町教育委員会2000「世良田諏訪下遺跡」
37	世良田村37号墳	太田市世良田町	古墳	古墳	尾島町教育委員会2001「世良田諏訪下遺跡」
38	世良田村38号墳	太田市世良田町	古墳	古墳	尾島町教育委員会2002「世良田諏訪下遺跡」
39	世良田村39号墳	太田市世良田町	古墳	古墳	尾島町教育委員会2003「世良田諏訪下遺跡」
40	世良田村40号墳	太田市世良田町	古墳	古墳	「上毛古墳総覧」、「尾島町誌通史編上巻」
41	世良田村42号墳	太田市小角田町	古墳	古墳	尾島町教育委員会2004「世良田諏訪下遺跡」
42	世良田村43号墳	太田市小角田町	古墳	古墳	尾島町教育委員会2005「世良田諏訪下遺跡」
43	世良田村44号墳	太田市小角田町	古墳	古墳	尾島町教育委員会2006「世良田諏訪下遺跡」
44	世良田村45号墳	太田市小角田町	古墳	古墳	尾島町教育委員会2007「世良田諏訪下遺跡」
45	中道１号墳	太田市新田下田中町	古墳	古墳	群埋文1995「下田中中道遺跡・下田中川久保遺跡」
46	矢抜神社古墳	太田市新田中江田町	古墳	古墳	
47	二ツ山古墳	太田市新田中江田町	古墳	古墳	
48	旧来迎寺跡東古墳	太田市新田中江田町	古墳	古墳	

第５表　周辺の遺跡一覧表（４）

番号	古墳名称	所　在　地	時　　代	種　類	文　献　等
49	石川古墳	太田市新田中江田町	古墳	古墳	『資料編(上)』「新田町誌」第２巻
50	本郷古墳	太田市新田中江田町	古墳	古墳	
51	百庚申古墳	太田市新田中江田町	古墳	古墳	『資料編(上)』「新田町誌」第２巻
52	原古墳	太田市新田中江田町	古墳	古墳	
53	森下古墳	太田市新田中江田町	古墳	古墳	『資料編(上)』「新田町誌」第２巻
54	木崎村５号墳(二ツ塚古墳)	太田市新田下江田町	古墳	古墳	『資料編(上)』「新田町誌」第２巻
55	長慶塚古墳	太田市新田下江田町	古墳	古墳	
56	長命寺古墳	太田市新田木崎町	古墳	古墳	『資料編(上)』「新田町誌」第２巻
57	大豆柄古墳	太田市新田木崎町	古墳	古墳	
58	木崎二ッ塚古墳	太田市新田木崎町	古墳	古墳	『資料編(上)』「新田町誌」第２巻
59	神明塚古墳	太田市新田木崎町	古墳	古墳	『資料編(上)』「新田町誌」第２巻
60	尾島町１号墳	太田市尾島町	古墳	古墳	「上毛古墳総覧」、「尾島町誌通史編上巻」
61	尾島町２号墳	太田市尾島町	古墳	古墳	「上毛古墳総覧」、「尾島町誌通史編上巻」

に、幅4.2m、深さ1.2mの規模を有し、南北方向に走行する溝が調査されている。この溝は途中に凸状の張り出しをもつことから居館の区画溝と想定されている。内部には竪穴住居が存在するが、主施設は調査区外に存在するとみられる。この他、歌舞伎遺跡(71)や花園遺跡でも集落が調査されている。また、大舘馬場遺跡(36)ではHr-FA層下の畠も調査されている。

その他、下田遺跡では河道跡を調査し、堰の遺構や木製品(梯子、鞍、鋤、船など)が検出・出土している。

後期　後期はさらに尾島工業団地遺跡で竪穴住居611棟が調査され、周囲の世良田諏訪下遺跡(17)、小角田前遺跡、歌舞伎遺跡、三ツ木遺跡、中江田Ａ遺跡、中江田原遺跡、花園遺跡、常木遺跡、宝積院遺跡(13)など多くの遺跡で集落が調査され、安養寺森西遺跡・阿久津宮下遺跡では洪水層下の畠も調査されている。

古墳　古墳は、昭和７年に調査された『上毛古墳総覧』によると、旧世良田村内に55基が確認されている。大半は６世紀以降の径10m前後を測る円墳である。また、前方後円墳は旧尾島町で１基、旧世良田村で５基の６基確認されている。その中で最大なものは世良田37号墳(**37**)で、全長90mを有し、多くの埴輪とともに大刀、刀装具、金環等の副葬品が出土していることが記載されている。

調査例も多く長楽寺遺跡では周堀にHr-FAが堆積する円墳５基や埴輪棺１基が調査されている。世良田諏訪下遺跡では帆立貝式古墳４基を含む古墳73基が調査されているが、大部分は墳丘が削平された状態であった。一部は低地に存在していたため、平安時代の洪水で埋没し、埴輪が配置された状態のままで検出されている。この他世良田工業団地遺跡では、円墳とともに『上毛古墳総覧』で世良田村31号墳(鼠塚)（**31**)と称されていた古墳が調査され、全長44mの前方後円墳であることがわかっている。

奈良・平安時代

遺跡地は古代律令制下では新田郡域に比定される。新田郡は南を利根川、西を早川、北東を金山丘陵、八王子丘陵、鹿田山などに囲まれた範囲と想定される。和名類聚抄によると新田郡には新田、祝人、淡甘、滓野、石西、駅家の６郷が存在したとされている。「尾島町誌」によると「新田」は「ニフタ」、「祝人」は「ハフリ」、淡甘は「タンカイ」または「タコウ」、滓野「カスノ」、「石西」は「イワセ」と読みが推察されている。その結果、世良田地区は近接地に残る地名に「上田中」・「下田中」や「高尾」などが存在することから「淡甘郷」に比定されている。また、淡甘郷については正倉院宝物の中のアシギヌに「上野国新田郡淡甘郷戸主矢田部根麻呂調・・・」の墨書がある。また、尾島工業団地遺跡から出土した紡錘車紡輪に「矢田衆即□矢田公□字□」との刻書がある。こうしたことから矢田姓をもつ人々が淡甘郷に居住していたことが推測され、郷域も早川左岸の地域に比定される。

発掘調査の成果では多くの集落遺跡が調査されている。なかでも尾島工業団地遺跡は奈良時代の竪穴住居199棟、平安時代211棟と大型掘立柱建物１棟を含む掘立柱建物69棟が検出され、古墳時代中期から継続的に集落が営まれた様相が明らかになっている。この他、世良田諏訪下遺跡、歌舞伎遺跡、三ツ木遺跡、小角田前遺跡、中江田宿通遺跡(66)、中江田本郷遺跡(64)、花園遺跡など多くの集落遺跡が調査されている。また、世良田諏訪下遺跡では区画溝が検出され、豪族の居宅と想定されている。小角田前遺跡では神社または仏堂とみられる掘立柱建物や井戸枠が残る井戸が検出されている。

生産遺構では世良田諏訪下遺跡で９世紀の洪水で埋没した水田が２面とAs-Ｂ層下水田が検出されている。こうした水田は小角田遺跡群でも検出されている。

中世

この地域の中世を見る上では新田荘を外すことはできない。新田荘は平安時代末期に成立した荘園である。古代上野国は天仁元(1108)年に起きた浅間山の噴火で全域がテフラ(As-Ｂ)の降下によって荒廃した。こうした荒廃地は「空閑地」とされ、新田義重によって再開発がおこなわれ、新田荘として成立する。新田荘の成立契機は久寿元(1154)年の鳥羽天皇最後の御願寺である「金剛心院」建立に関係するとみられている。その範囲は当初19郷とされ、新田郡の西側を占めていた。その後、嘉応二(1170)年の「新田荘嘉応二年目録」には新たに37郷が追加され、新田郡全域に及んだことがわかる。

遺跡地周辺には新田荘に関係する遺跡が多く存在する。西600mに位置する現総持寺は惣領クラスの館跡とされ、新田義重居館説や世良田頼氏・新田義貞などの居館説がある。この他、承久二年に創建された長楽寺、方二町規模を有する安養寺館跡(32)などが存在する。なお、安養寺館跡は明王院境内として現存し、境内には「康永元年壬午六月五日前刑部卿源義生年四十二逝去」と刻まれた板碑が残る。

また、世良田諏訪下遺跡では鎌倉時代の溝が調査され、早川から世良田宿を通り石田川への運河的要素がみられるとのことである。なお、この溝からは笹塔婆、皿、板草履など大量の木製品が出土している。また、徳川館跡(25)には新田氏の祖「新田義重」の墓と伝えられている五輪塔が残され、墓地整理の際には骨蔵器として使用された13世紀前後の古瀬戸四耳壺が出土している。こうした古瀬戸や在地産陶器を利用した墓地は東照宮境内の普光庵跡の古墓や円福寺境内に残る伝新田氏累代の墓でも発見されている。また、花園遺跡では古瀬戸鉄釉印花合子、歌舞伎遺跡からは古瀬戸灰釉水滴、上新田遺跡(新田館跡)（２)からも古瀬戸鉄釉水滴などが出土し、長楽寺には青磁香炉・花瓶などが伝世しており当時の繁栄が窺える。

第３章　調査の成果

第１節　成果の概要

遺跡は市街地化が進んだ地域内にある。しかも今回の調査範囲は調査開始前まで宅地として利用されていた場所であるため、ゴミ穴などと思われる現代の攪乱が数多く掘られ、遺構の残りは良好ではなかった。そのなかで調査できた遺構は、土坑14基、井戸４基、溝３条、ピット44基である。調査区が狭小であることもあり、遺構の全体が調査できたものは少なく、ほとんどは調査区の境に掛かっていたり、部分的に攪乱に破壊されていた。

土坑は全域に分布し、特に集中箇所はない。形態には様々なものが見られるので、用途も様々なものがあったらしい。このうち、１号土坑には柱痕と思われる丸太材が一部残り、ある程度の用途を推測させるが、それ以外に組み合うような穴はなく、建物の一部とは断定できなかった。２号土坑や６号土坑のように、廃材を投げ込んだ穴と思われるものが見られるのは、古くから市街地であることと関連するものであり、遺跡の性格を示すものである。特に６号土坑からは多くの中世瓦が出土し、注目される。この瓦については第４章でまとめて述べる。

井戸も市街地内であるため、４基と多い。いずれも素掘りの井戸であった。

溝は区画溝の一部と思われるものが見つかっているだけである。

ピットは44基と、数多く見られた。数基ずつ集中しているようであり、何らかの建築物の柱である可能性が考えられるが、明確に建物として把握できたものはなかった。その中で注目されるのは、調査区の南側の壁に沿って列をなすように見つかったピットである。調査できたのは北側半分であり、しかも攪乱やその他の遺構が多く重複していたので残りが悪かったが、東西約20mの長さに17基のピットが並んでいた。塀状の構築物であったと思われ、この北側にある屋敷地の南の区画であると思われるものである。

第２節　土坑

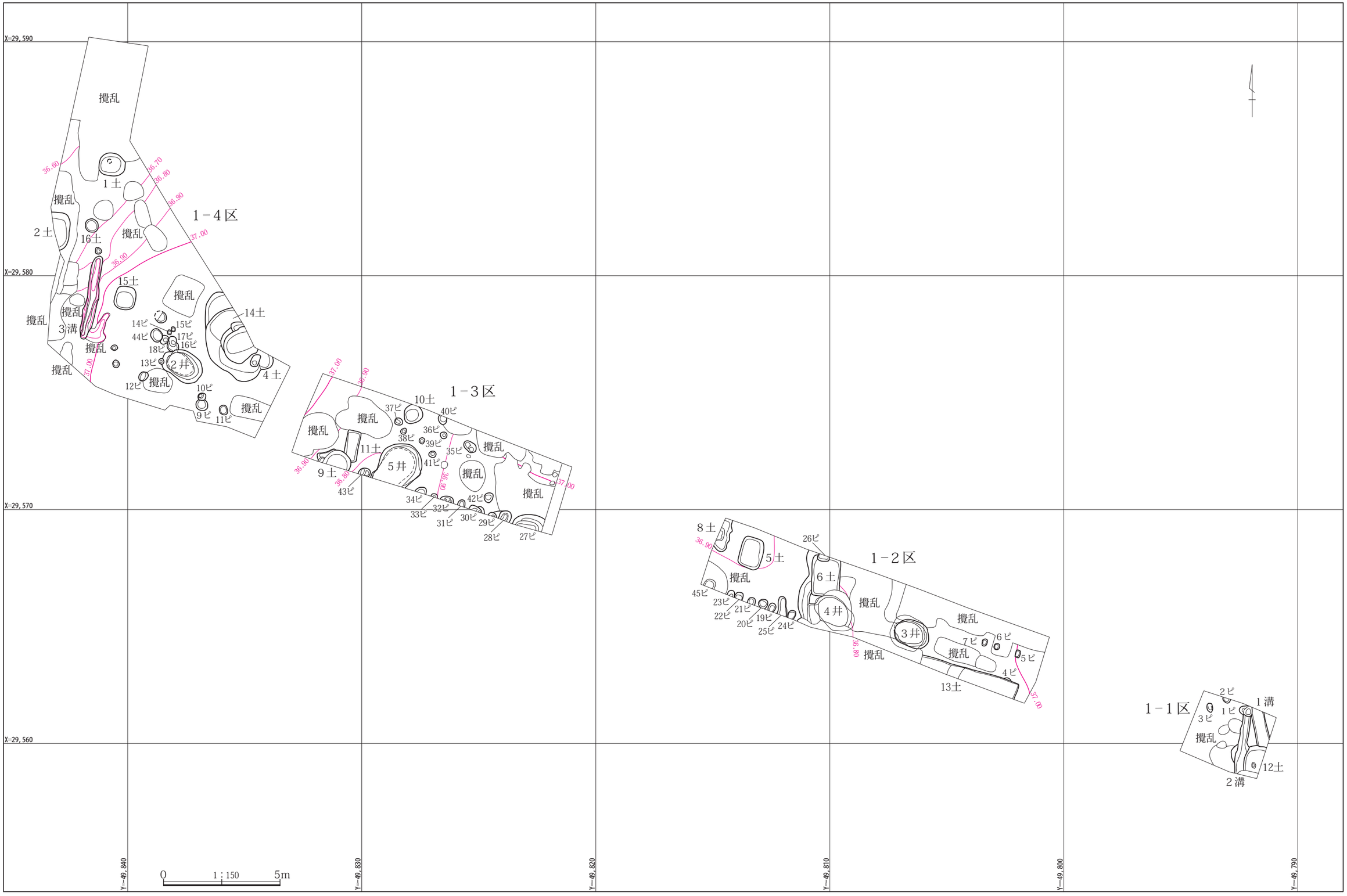
土坑として報告する遺構は14基である。調査区の全域に分布している。各土坑の規模など、基本的な情報は第６表にまとめた通りである。

１号土坑（第７・８図、第15表、PL．４-２,11）

１－４区の北側にある。長径1.16m、短径0.96mのほぼ円形の土坑である。深さは0.30mと浅い。底面のやや北側から柱根と思われる径16cmの丸太材が出土したが、腐朽が進み、かろうじて残っている程度であった。本土坑はこの材を埋め込むために掘られたものと考えられるが、材の径に比べて土坑の径がかなり大きい点でやや疑問がある。また、周囲に組み合う柱穴は見つかっていないので、これが建物を構成する柱であるかどうかは不明である。出土遺物は11点を掲載した。白磁小杯１点、染付皿４点、土瓶１点、徳利１点、さな１点、焙烙１点、置輪１点、桟瓦と思われる瓦１点である。その他、小破片であるために掲載しなかったものには中世瓦２点、近世陶磁器18点、近代陶磁器19点があり、最終的に埋没したのは近代と考えられる。

２号土坑（第８～12図、第15・16表、PL．４-３・４,11～13）

１－４区の西端にあり、西側が調査区外となる。この付近には調査区境に沿って大きな凹みが掘られており、それによって上面を削平されているが、内部には多くの遺物が残されていた。南北に長い楕円形と推定され、現状では長径1.62m、短径は0.74m以上であり、深さは0.26mである。出土遺物は多く、種類も豊富である。掲載したのは39点で、染付小杯８点、同小碗１点、同猪口１点、同碗１点、同端反碗３点、同山形皿２点、同八角鉢２点、同皿２点、白磁寿文皿１点、灯火受皿１点、鳩徳利１点、燗徳利３点、すり鉢１点、煎り鍋１点、置輪２点、鉢１点、七輪１点、火消し壺と思われるもの１点、用途不明１点、桟瓦と思われる瓦１点、砥石１点、鎌１点、釘１点、文久永寶１点である。その他小破片であるために掲


X=29,590
X=29,580
X=29,570
X=29,560
Y=49,840
Y=49,830
Y=49,820
Y=49,810
Y=49,800
Y=49,790
1－4区
1－3区
1－2区
1－1区
1土
2土
3溝
4土
5井
9土
10土
11土
12土
13土
14土
15土
16土
1溝
2溝
2井
3井
4井
6土
8土
撹乱
36.60
36.70
36.80
36.90
37.00
0
1：150
5m

第６図　１区遺構配置図

載しなかったものに中世瓦２点、近世陶磁器16点、近代陶磁器19点、時期不詳の瓦多数があり、最終的に埋没したのは近代であると思われる。遺物の量が多く、廃材の処理のために掘られた土坑であろう。

４号土坑(第13図、PL．４-５)

１－４区の南東にあり、北側が調査区外となる。14号土坑と重複し、本土坑が新しい。調査の際、14号土坑と一緒に掘ってしまったので外形が不明確であるが、長方形に近い楕円形だと考えられる。南北に長いと推定され、長径は0.70m以上、短径は0.65m、深さは0.78mである。断面形状は整ったＵ字形で、壁は垂直に近い角度で立ち上がっている。埋土はロームと炭化物を含む明褐色土１層で埋没しているため、人為的に一気に埋めたものと考えられる。出土遺物はなく時期は明らかではない。形状から見て、近世以降のいわゆる芋穴である可能性が考えられる。

５号土坑(第14図、第16・17表、PL．５-１・２,14)

１－２区西端近くにある。長さ1.33m、幅0.99mの長方形で、深さは0.28mである。埋土はロームブロックと炭化物を含む褐色土１層のみであり、人為的埋没と考えられ、上層からは多くの遺物が礫と共に出土した。それらの遺物のうち掲載したのは９点で、小碗２点、鍋２点、釘４点、鉄銭１点である。その他小破片であるために掲載しなかったものには、中世中国陶磁と思われるもの１点、中世瓦１点、近世陶磁器７点、近世在地系土器(焙烙・鍋類)14点、近代陶磁器83点などがあり、最終的に埋没したのは近代だと思われる。性格は不明である。

６号土坑(第14～21図、第８・17表、PL．５-３,15～17)

１－２区西半部にあり、北側が一部調査区外となる。４号井戸、26号ピットと重複し、本土坑は４号井戸よりも古いが、26号ピットとの新旧関係は不明である。長さ1.76m、幅1.23mの長方形で、深さは0.65mであり、断面形状は整った逆台形である。多くの中世瓦が出土しており、ここではそのうち36点と中国製の白磁皿１点、常滑陶器の甕１点を掲載した。瓦については第４章で後述する。その他瓦以外の遺物で、小破片であるために掲載しなかったものには、近世陶磁器２点、近代陶磁器４点がある。中世瓦が多いものの、近世・近代の遺物も少数出土しているので、最終的に埋没したのは近代にまで下ると考えられるが、これらは混入である可能性もあり明確ではない。土坑の形態などに特徴的なところはないので性格は不明であり、遺物は埋没の過程で投げ込まれたものと思われる。

８号土坑(第22図、PL．５-４)

１－２区の北西隅にあり、北西側が調査区外となる。平面形、断面形とも不整な形態であり、明瞭な遺構ではない。調査区に掛かるのは長径1.43m、短径0.53mであり、それぞれ調査区外になるのでさらに大きくなる。深さは0.67mである。埋土はロームブロックを含む褐色土１層であり、人為的に埋め戻されたと思われる。遺物の出土はなく、時期・性格共に不明である。

９号土坑(第22図、PL．５-５)

１－３区南西部にあり、南側が調査区外となる。北東に11号土坑が重複するが、新旧関係は不明である。また、調査区壁で実測した断面図(Ａ－Ａ′)では、西側に別の遺構が重複している(７層がその遺構に当たる)ことが分かる。その遺構はごく一部が調査区に掛かっているだけなので特に遺構番号などは付加していない。断面図に明らかなように、本土坑よりも古いものである。本土坑は径1.14m程度のほぼ円形と推定され、北西側にわずかな張り出し部分が見られるが、この部分も別の遺構である可能性がある。掲載できるような遺物の出土はないが、小破片の近世陶磁器２点、在地系土器３点、近代陶磁器２点などが出土し、最終的に埋没したのは近代であると思われる。性格は不明である。

10号土坑(第22図、PL．５-６)

１－３区北壁近くの中央やや西寄りにある。北側のわずかな部分が調査区外となる。長径0.82m、短径0.77mのほぼ円形で、深さは16cmと浅い。出土遺物はなく時期・性格とも不明である。

11号土坑(第22図、PL．５-７)

１－３区西側にある。北側は攪乱と接し、南側は９号土坑とわずかに重複する。９号土坑との新旧関係は不明

である。長さ1.33m、幅0.57mの長方形で、深さは0.73mである。断面は逆台形ないしＵ字形であり、壁は急角度で立ち上がるなど、整った形状の土坑である。断面形状は４号土坑に似ている。時期不明の土器の小破片が１点出土しているほかに掲載できる出土遺物がなく、時期・性格とも不明である。

12号土坑(第22図、PL．５-８)

本土坑は、調査当時「１号竪穴状遺構」と呼称したものであるが、ごく一部の調査にとどまり土坑との区別が困難であるため、ここではあえて竪穴状遺構とは呼ばず、土坑として報告することにした。

１－１区南東隅にあり、東、南側が調査区外になる。南側には攪乱が入り、コンクリートが上を覆ってしまっている。また、１・２号溝が重複している。本土坑は１号溝よりは古いが、２号溝との新旧関係は不明である。平面形は不明であり、どの方向が長径、短径かは分からないが、その規模は現状で1.18m以上×0.76m以上である。深さは遺構確認面から計測すると0.44mであるが、調査区壁(Ａ－Ａ′セクション)では埋土が0.64mの厚さで残っていた。埋土は褐色土１層であり、人為的に一気に埋めたものと思われる。出土遺物はなく、時期・性格ともに不明である。

13号土坑(第23図、PL．６-１)

本土坑も調査当時は「２号竪穴状遺構」と呼んで調査したものである。遺構確認面では竪穴住居のような形態であったために竪穴状遺構としたが、断面形状が住居とは大きく異なるので、整理作業において土坑に変更することにした。

１－２区南東側にあり、南側が調査区外となる。西端部は攪乱で破壊されている。調査区内に掛かる部分では方形で、調査区に沿って長く延びているように見える。底面は西半部が高く、東半部が低くなっている。長さは現状では4.36m、幅は0.69mである。深さは東半の深いところで0.49m、西半の浅いところでは0.10cmであり、その差は0.39mにも及ぶ。底面は平坦で、凹凸は少ない。出土遺物はいずれも小破片で掲載できないが、近世陶器１点、同在地系土器(焙烙・鍋類)２点があるのみであり、時期・性格とも特定できない。

14号土坑(第13図、第14・16表、PL．６-２・３,14)

本土坑もその大きさから「３号竪穴状遺構」と名付けて調査したが、断面形状が不整形であり、竪穴状遺構と呼ぶにはふさわしくないため、整理作業の過程で「土坑」に変更することにした。

１－４区南東部にあり、北東側が調査区外となる。南東部に４号土坑が重複し、本土坑が古い。全体は北西－南東方向を主軸とする楕円形になると推測され、それを元に計測すると、主軸方向(長径)は4.03m、それと直交する方向(短径)は現状では1.92mが調査区内に掛かっている。断面形状は中心に向かって段々に深くなっており、最も深いところは1.11mである。埋没土は細かい層をなしているのが特徴的で、人為的に埋められていると思われるが、その成因は不明である。遺物は中世瓦１点、石硯の破片１点のほか、混入と思われる石器(スクレイパー)１点を掲載した。その他小破片として、中世瓦26点、近世磁器１点、同在地系土器(焙烙・鍋類)１点が出土した。時期の特定は難しいが、近代の遺物が出土していないので、それ以前に埋没した可能性がある。

15号土坑(第23図、第17表、PL．６-４,17)

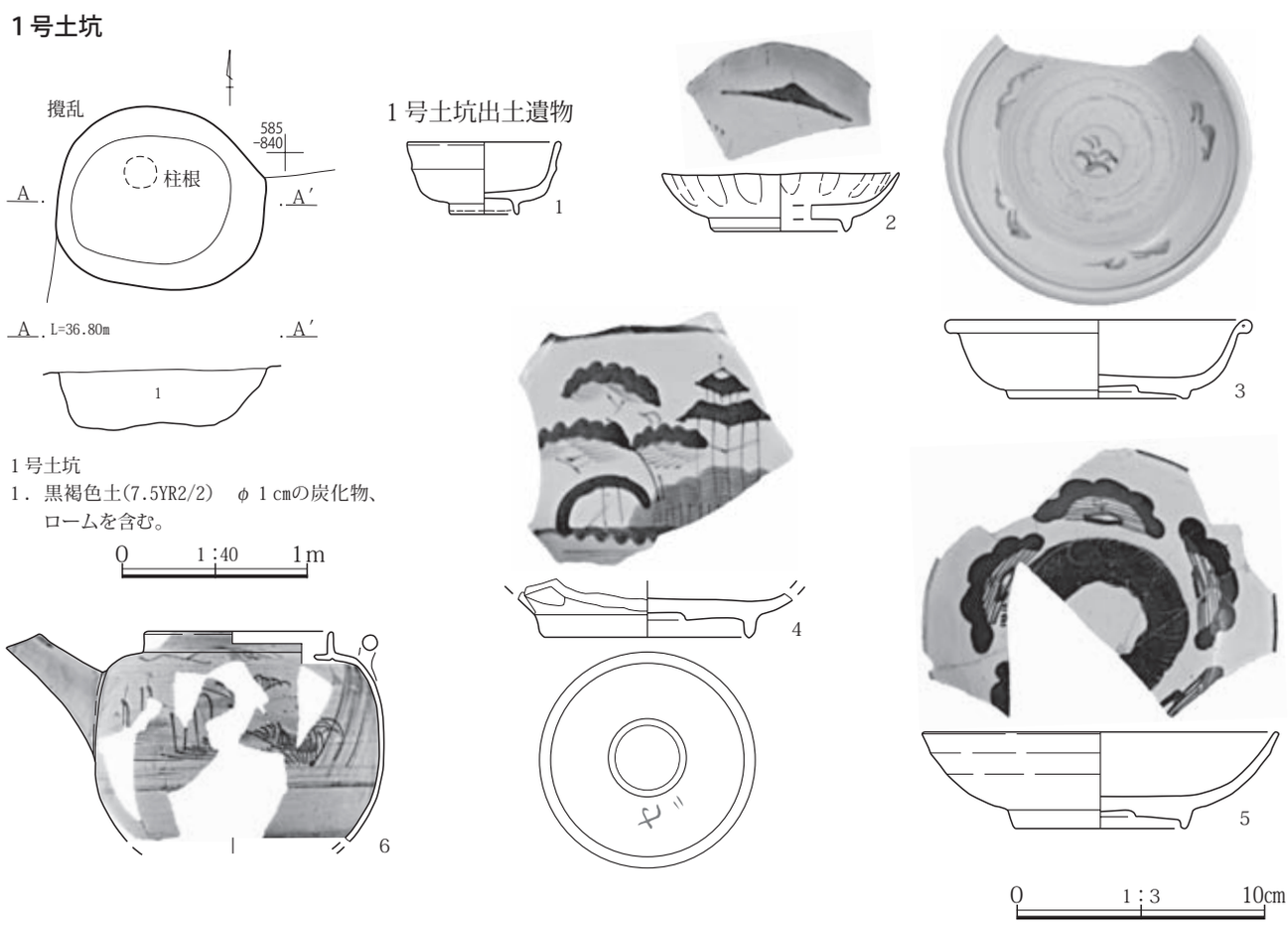
１－４区中央付近にある。調査当時は丸く垂直に掘られた形状から「１号井戸」と名付けて調査したが、他の井戸に比べて浅く、井戸とは思えないため、整理作業時に土坑に変更した。やや方形に近い楕円形で、長さ1.00m、幅0.89mであり、深さは0.84mである。遺物は中世の在地系土器皿１点を掲載した。小破片として近代の土器１点、十能瓦３点が出土しているので、最終的に埋没したのは近代であると思われる。

16号土坑(第23図、PL．６-５)

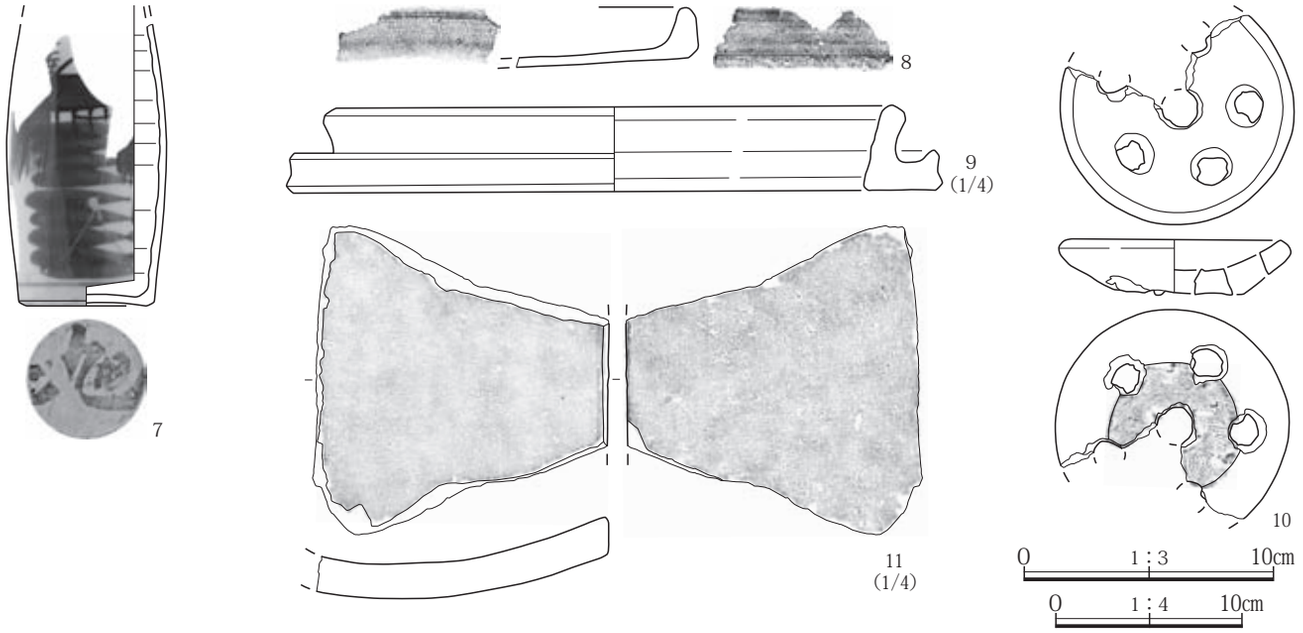
１－４区北側にある。調査当時は「８号ピット」として調査した遺構であるが、ピットとしては大きく浅いので、整理作業の過程で土坑に変更した。長径0.60m、短径0.55mのほぼ円形で、深さは0.12mである。出土遺物はなく、時期・性格とも不明である。

第６表　土坑一覧表

No.	区	位置		形状	規模(m)			備考
		X	Y		長さ・長径	幅・短径	深さ	出土遺物の内訳は本文中に記載。
1	１－４	584 ～ 585	-840 ～ 841	ほぼ円形	1.16	0.96	0.30	中近世瓦、近世～近代陶磁器。
2	１－４	580 ～ 584	-842 ～ 843	楕円形か	(1.62)	(0.74)	0.26	中近世瓦、近世～近代陶磁器、砥石、鎌、釘、文久永寶など、多数出土。
3	44号ピットに変更							
4	１－４	575 ～ 579	-833 ～ 836	長方形か	(0.70)	(0.65)	0.78	14号土坑より新しい。遺物なし。
5	１－２	567 ～ 568	-812 ～ 813	長方形	1.33	0.99	0.28	近世～近代陶磁器・在地系土器、瓦、釘、鉄銭。
6	１－２	566 ～ 568	-809 ～ 810	長方形	1.76	1.23	0.65	４号井戸より古い。26号ピットとは新旧不明。中世瓦多数、中国磁器、常滑陶器。
7	45号ピットに変更							
8	１－２	568 ～ 569	-814	不整形	(1.43)	(0.53)	0.67	遺物なし。
9	１－３	571 ～ 572	-830 ～ 831	ほぼ円形	1.14	－	0.87	近世～近代の陶磁器。
10	１－３	573 ～ 574	-827 ～ 828	ほぼ円形	0.82	0.77	0.16	遺物なし。
11	１－３	572 ～ 573	-830	長方形	1.33	0.57	0.73	時期不明土器１点のみ。
12	１－１	558 ～ 559	-791 ～ 792	不明	(1.18)	(0.76)	0.44	１号溝よりも古い。遺物なし。
13	１－２	561 ～ 563	-801 ～ 806	長方形か	(4.36)	(0.69)	0.49	近世陶器、同在地系土器。
14	１－４	575 ～ 579	-833 ～ 836	楕円形か	4.03	(1.92)	(1.11)	４号土坑より古い。中世瓦、近世陶磁器・在地系土器、石硯。
15	１－４	579	-839 ～ 840	楕円形	1.00	0.89	0.84	中世在地系土器、近代土器、十能瓦。
16	１－４	581	-841	ほぼ円形	0.60	0.55	0.12	遺物なし。

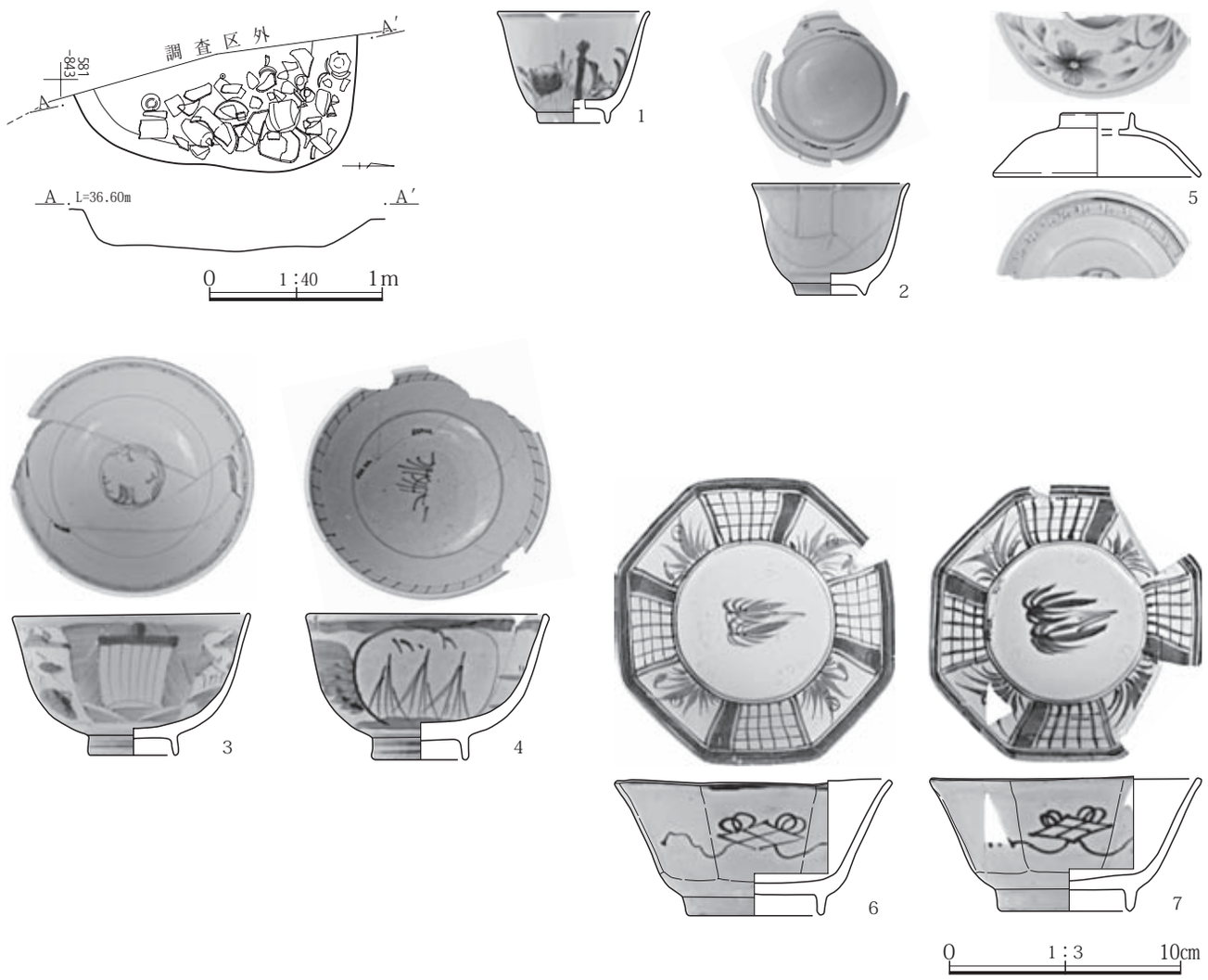


第７図　１号土坑平断面図・出土遺物（１）

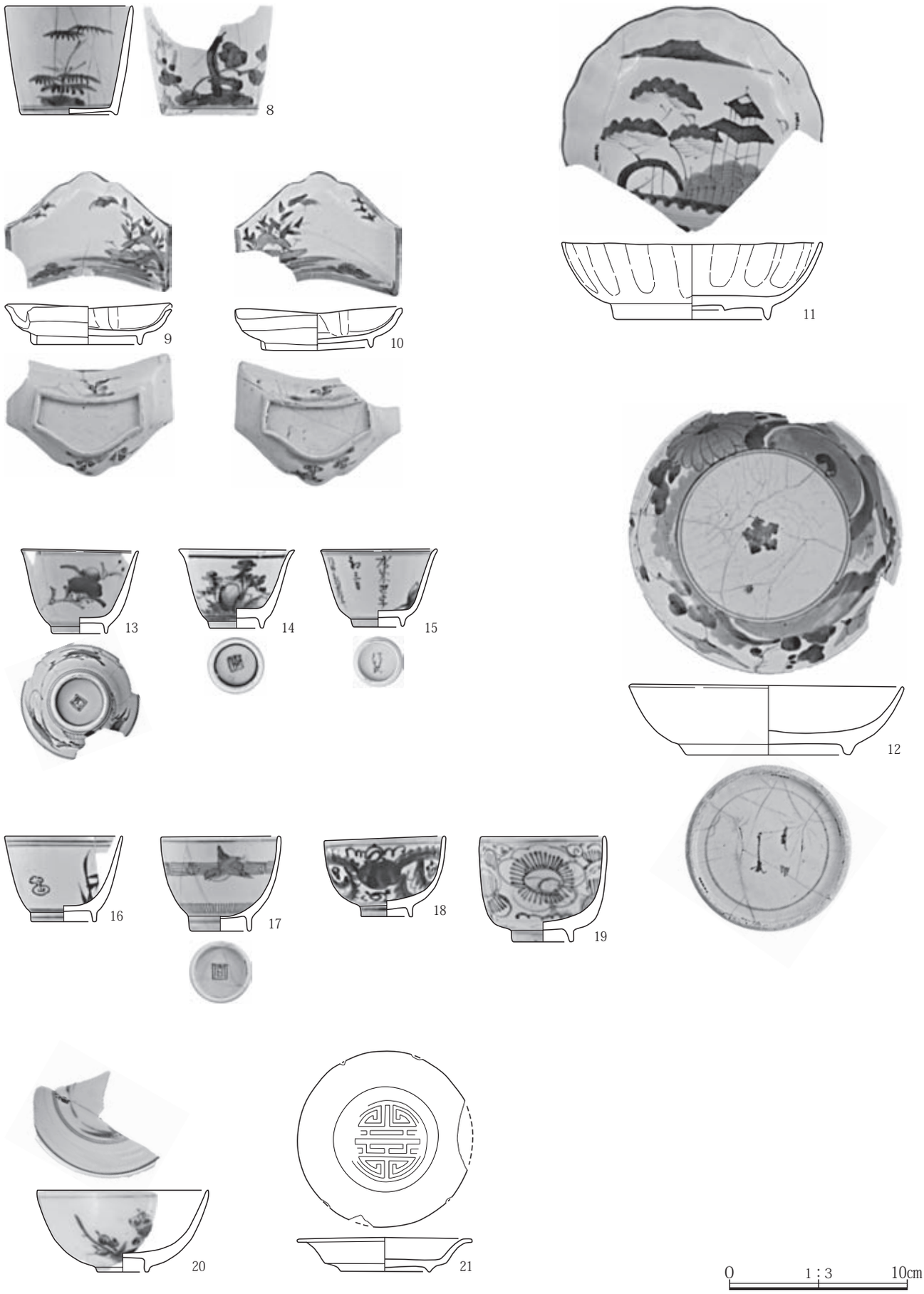


２号土坑

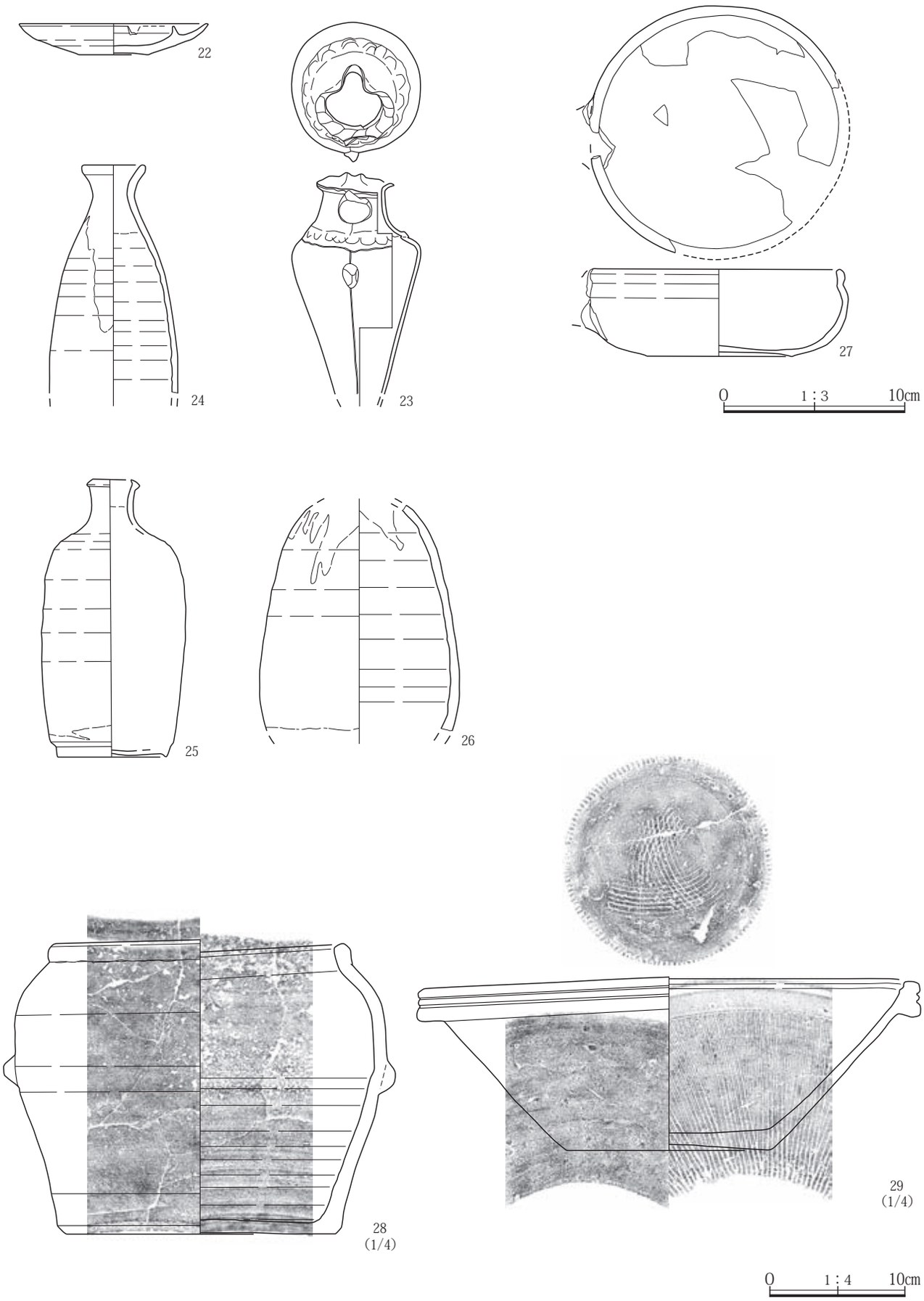
２号土坑出土遺物



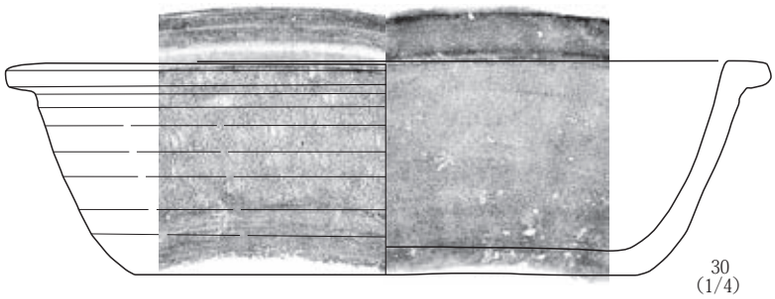
第８図　１号土坑出土遺物（２）、２号土坑平断面図・出土遺物（１）

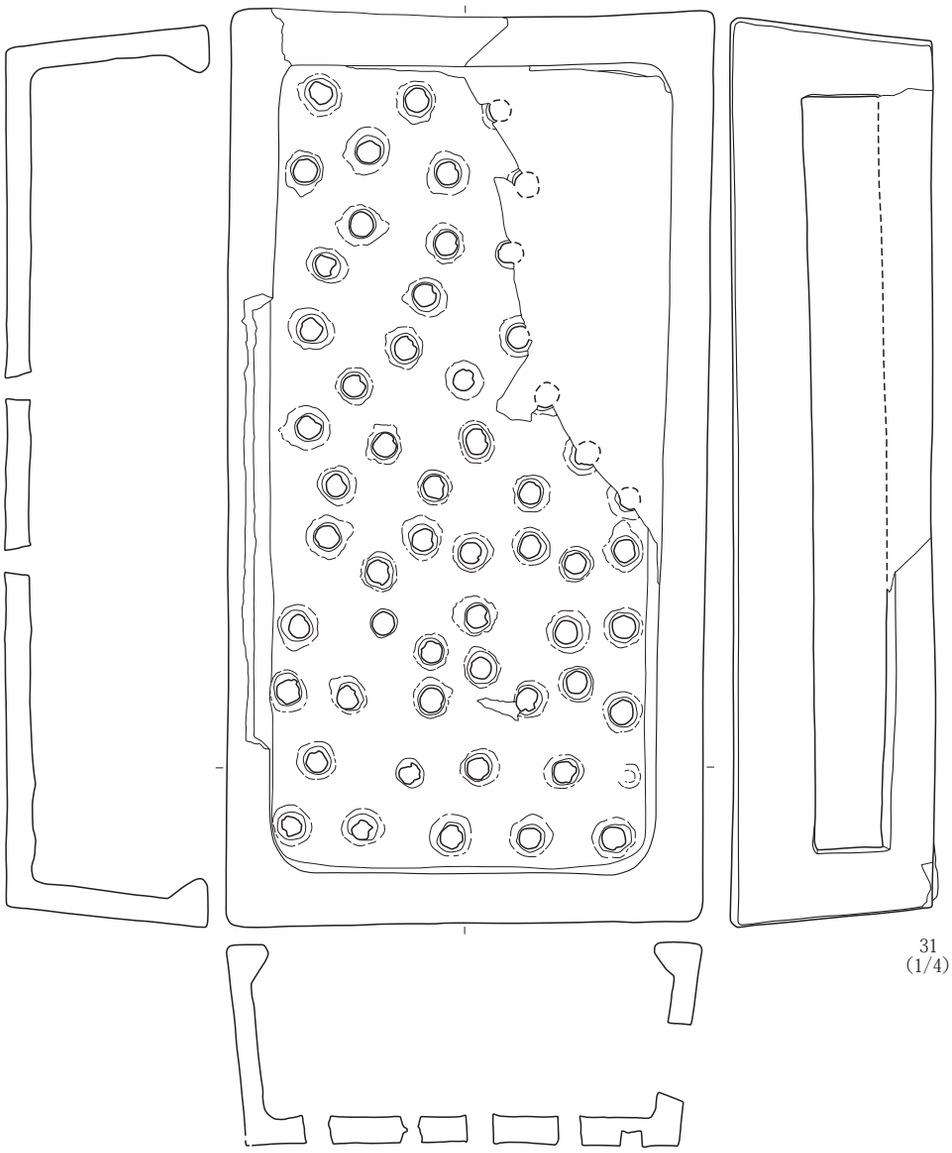


第９図　２号土坑出土遺物（２）



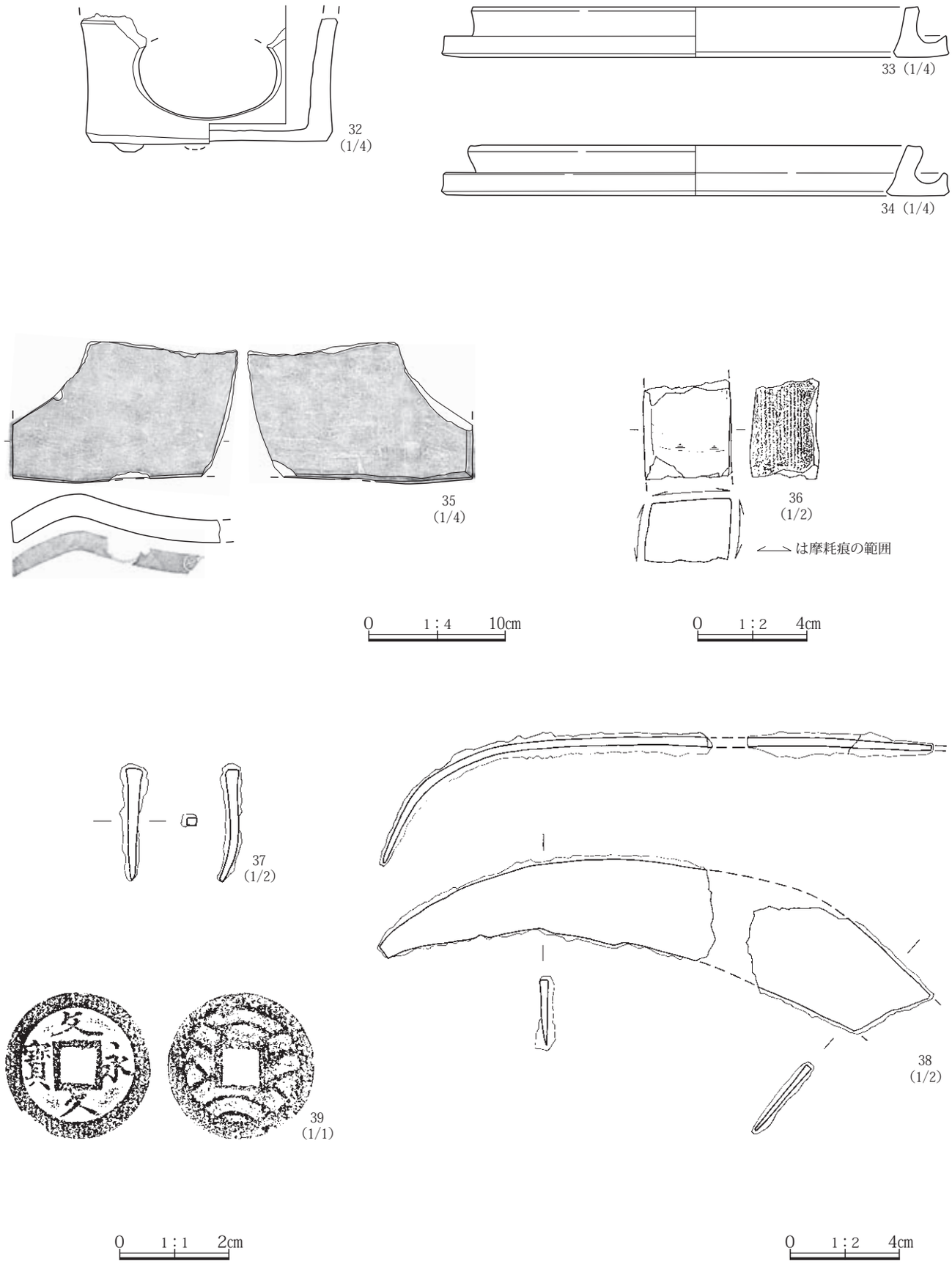
第10図　２号土坑出土遺物（３）





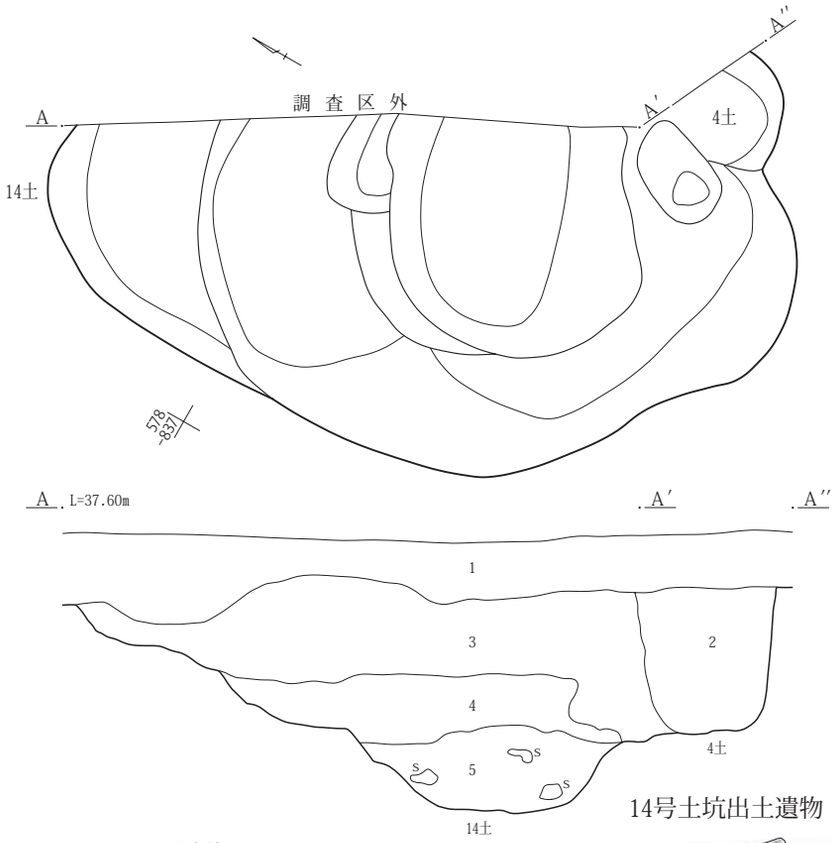
0　1：4　10cm

第11図　２号土坑出土遺物（４）



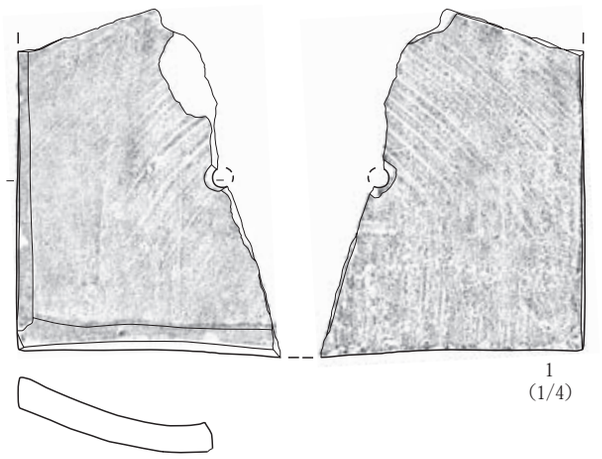
第12図　２号土坑出土遺物（５）

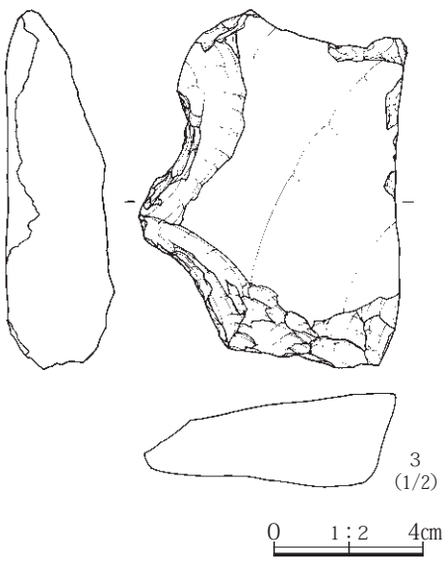
４・14号土坑

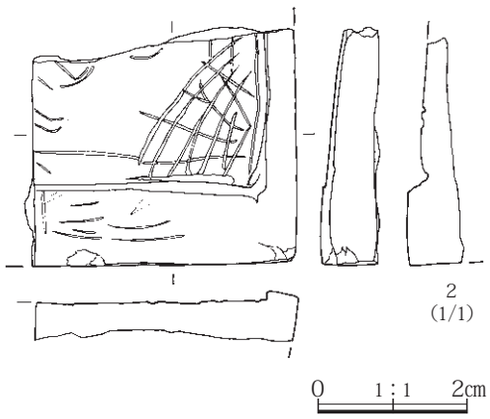


４・14号土坑
1．表土
2．明褐色土(7.5YR5/6)　ローム、炭化物を含む。４号土坑。
3．褐色土(7.5YR4/4)　ローム多い。一部縞状に堆積。14号土坑。
4．明褐色土(7.5YR5/8)　ローム主体。縞状に堆積。14号土坑。
5．にぶい橙色土(7.5YR6/3)　粘土、ローム多い。細かい縞状に堆積。14号土坑。

14号土坑出土遺物

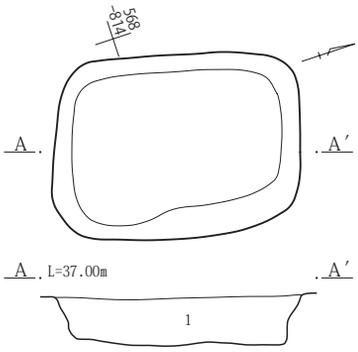




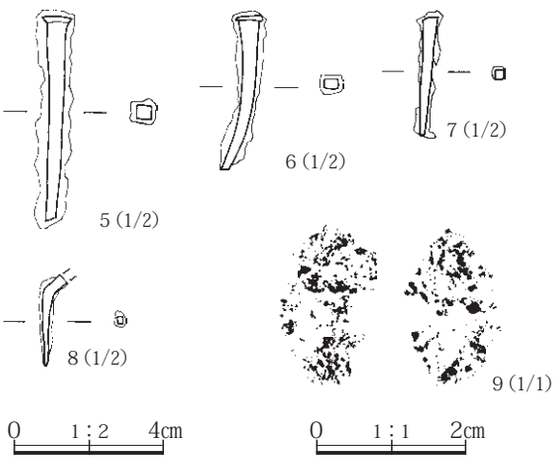


第13図　４・14号土坑平断面図、14号土坑出土遺物

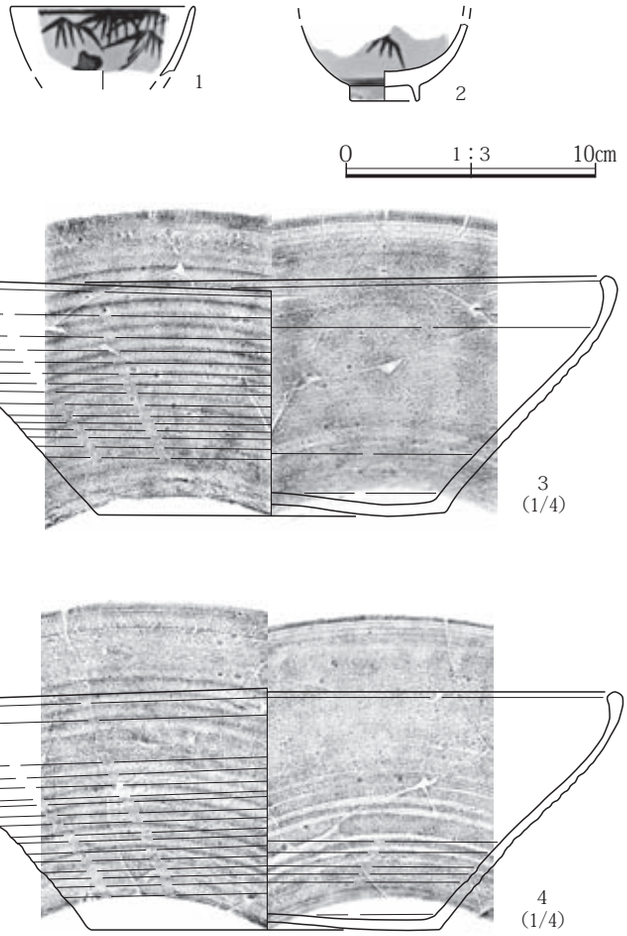
５号土坑



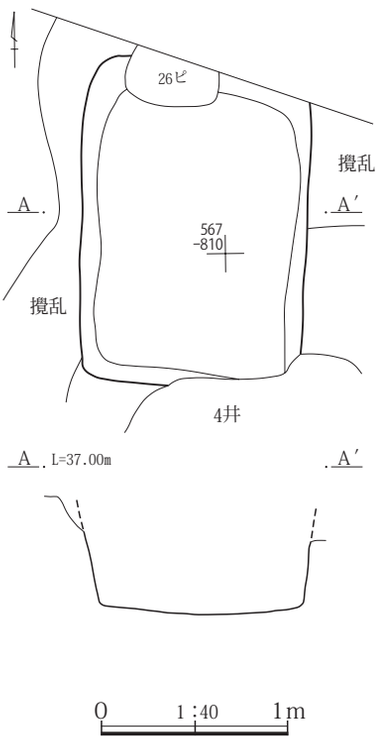
５号土坑
1．褐色土(7.5YR4/6)　φ１cmのロームブロック、
　　炭を含む。人為的埋没。



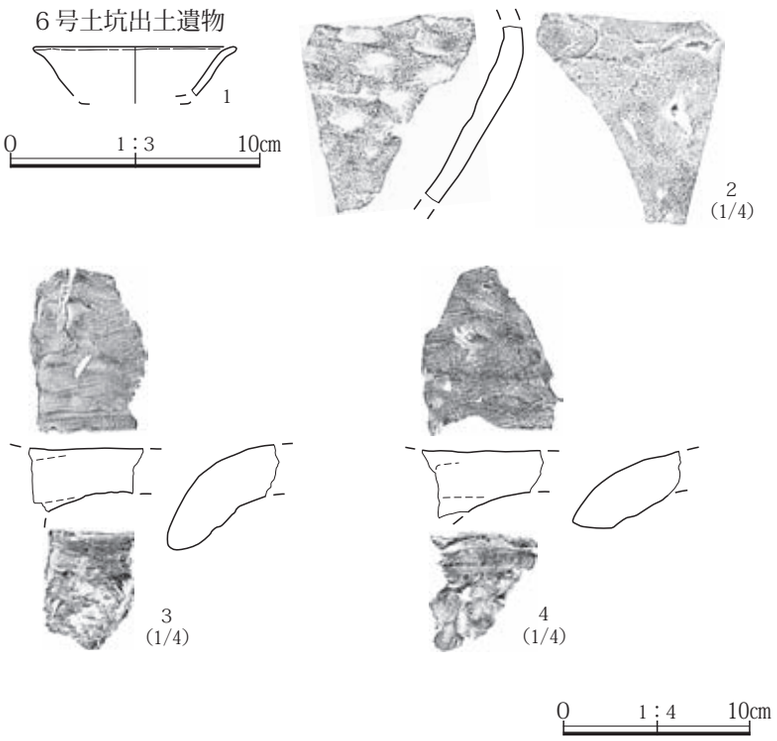
５号土坑出土遺物



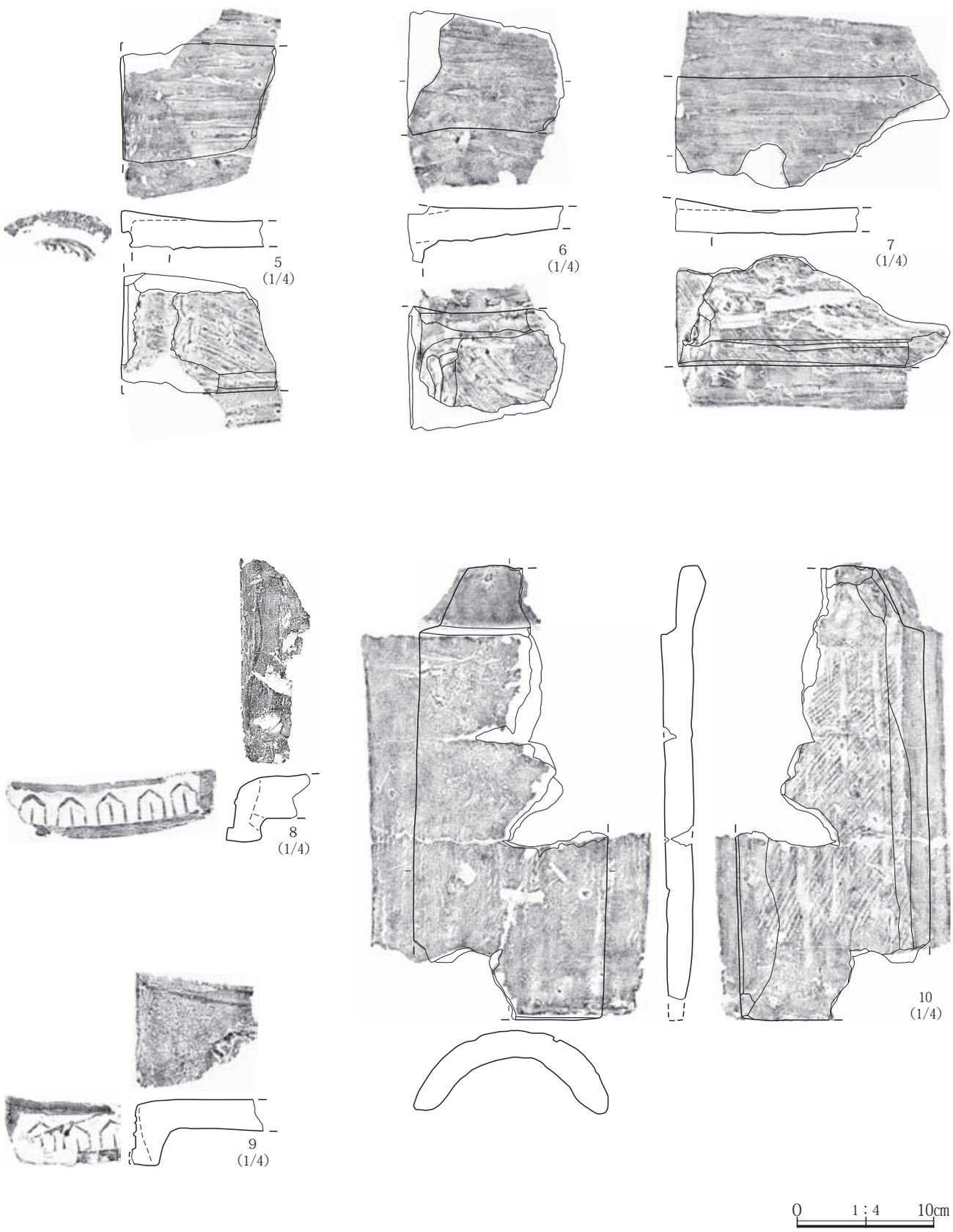
６号土坑



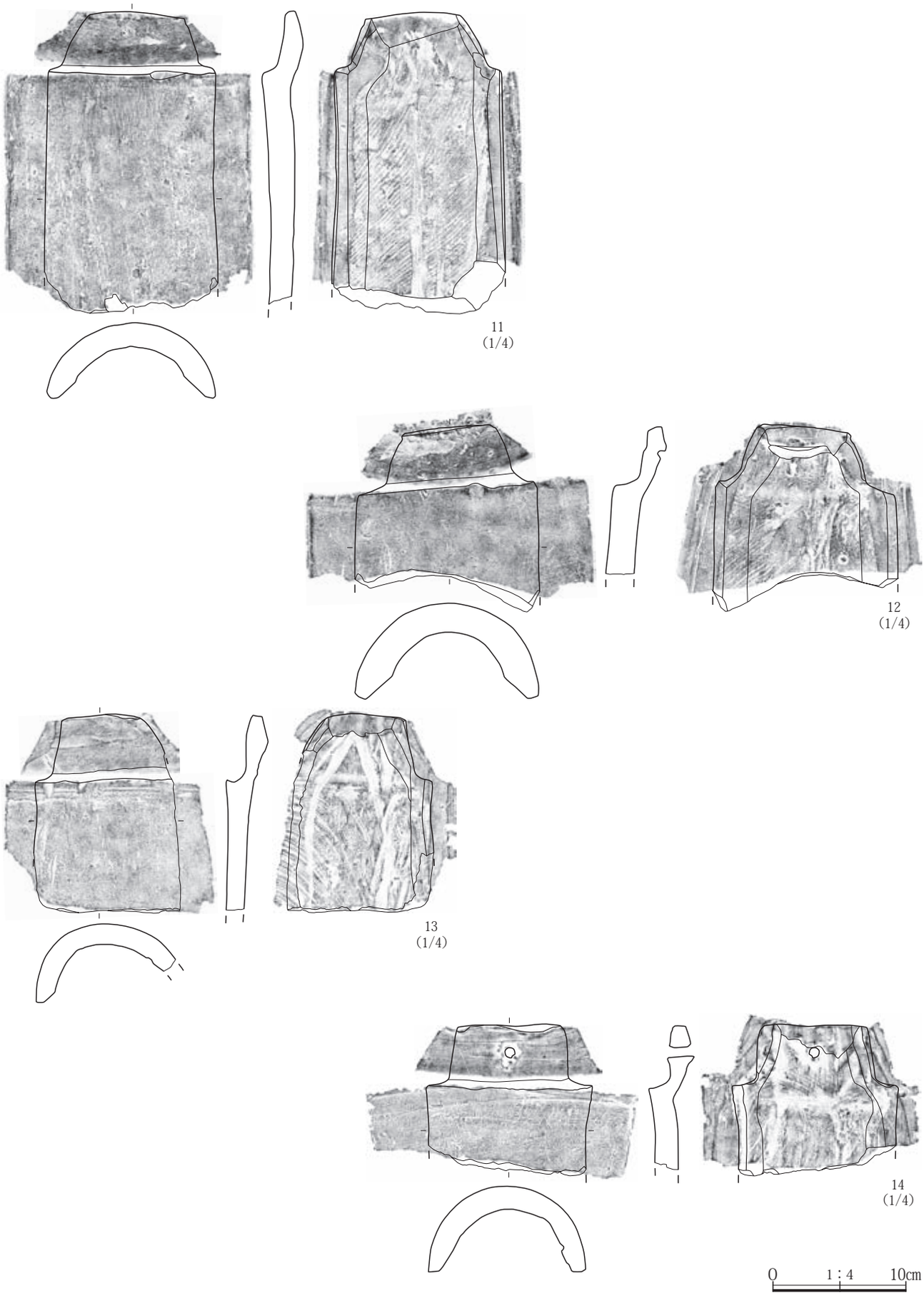
６号土坑出土遺物



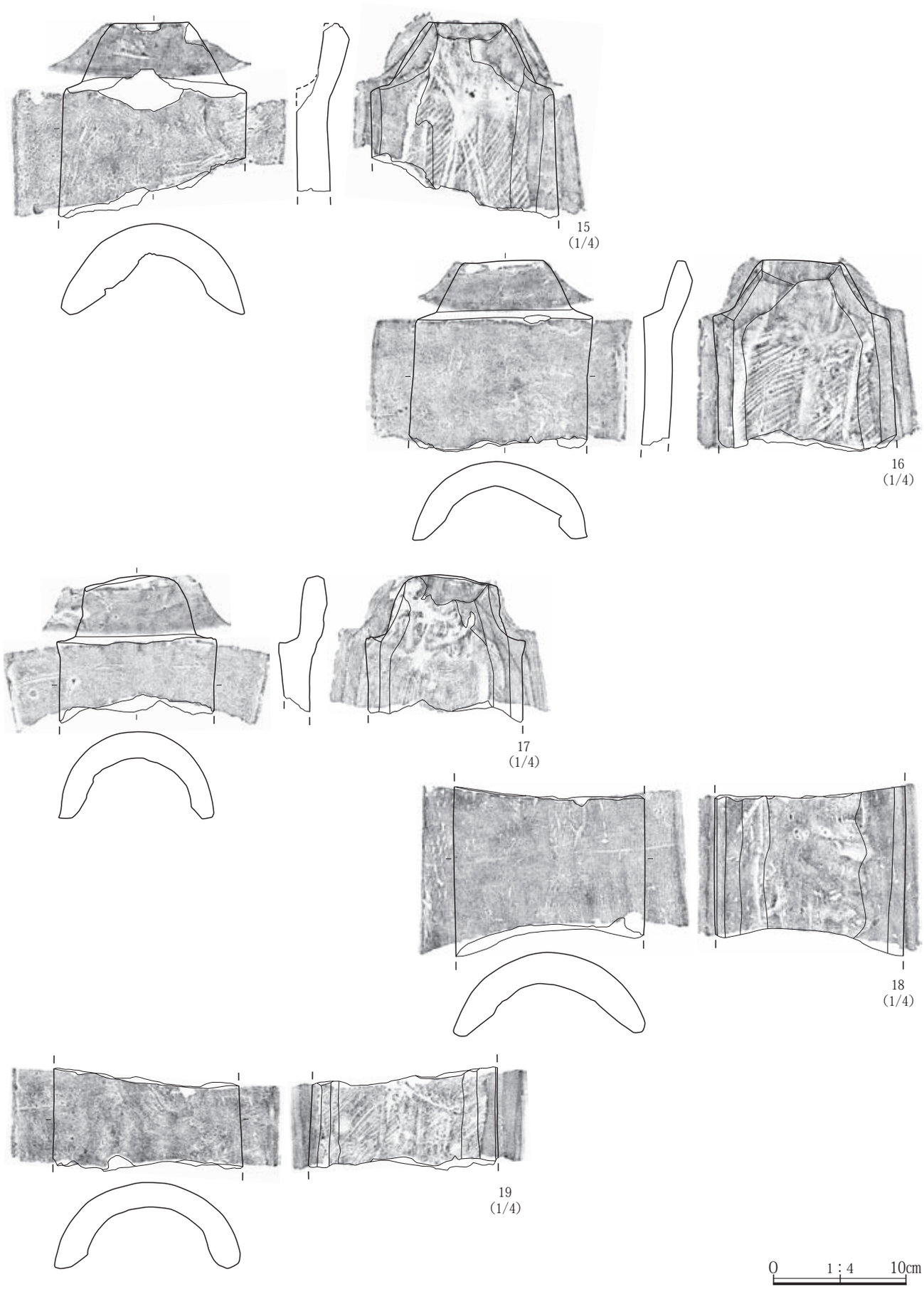
第14図　５号土坑平断面図・出土遺物、６号土坑平断面図・出土遺物（１）



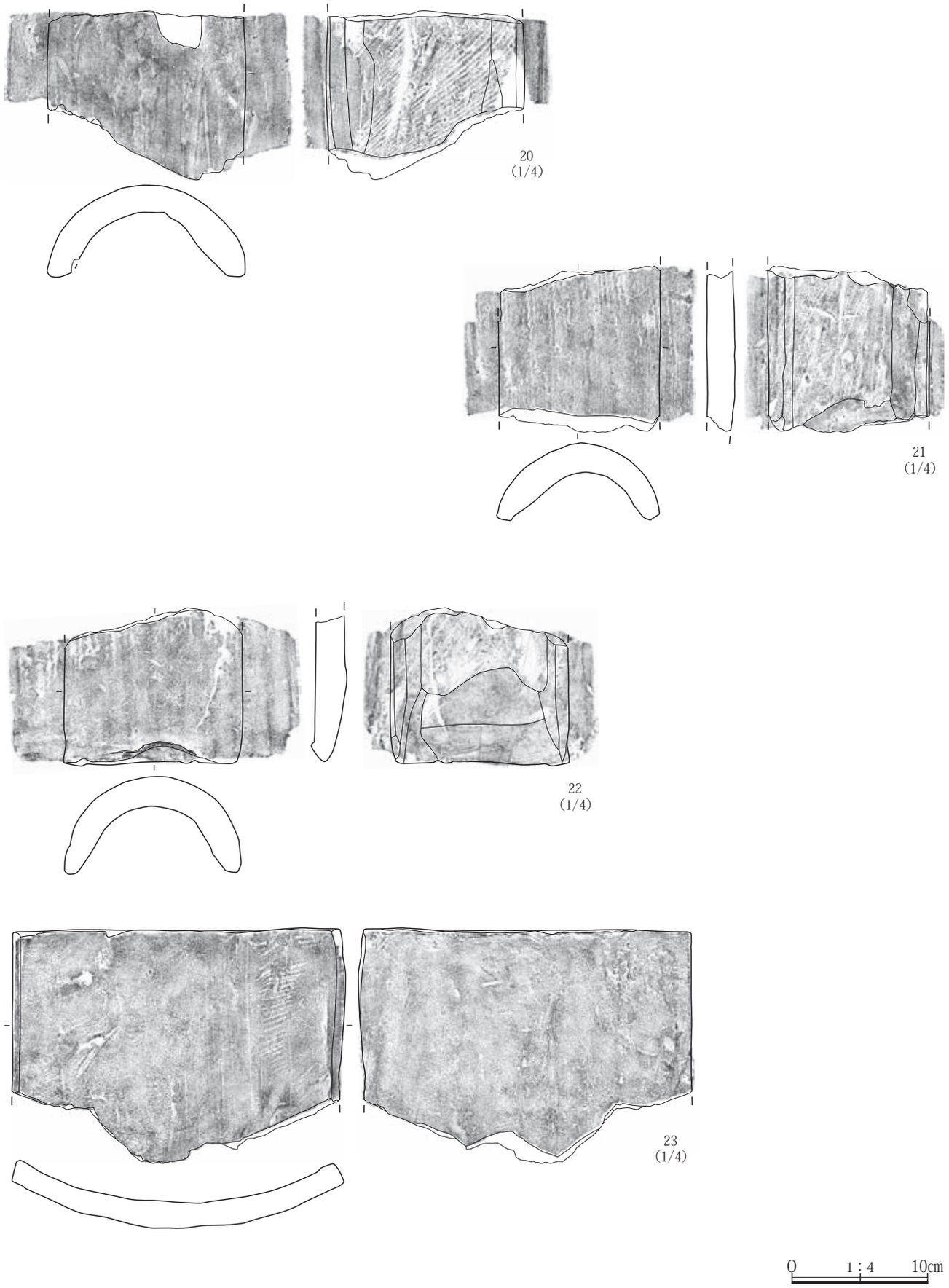
第15図　６号土坑出土遺物（２）



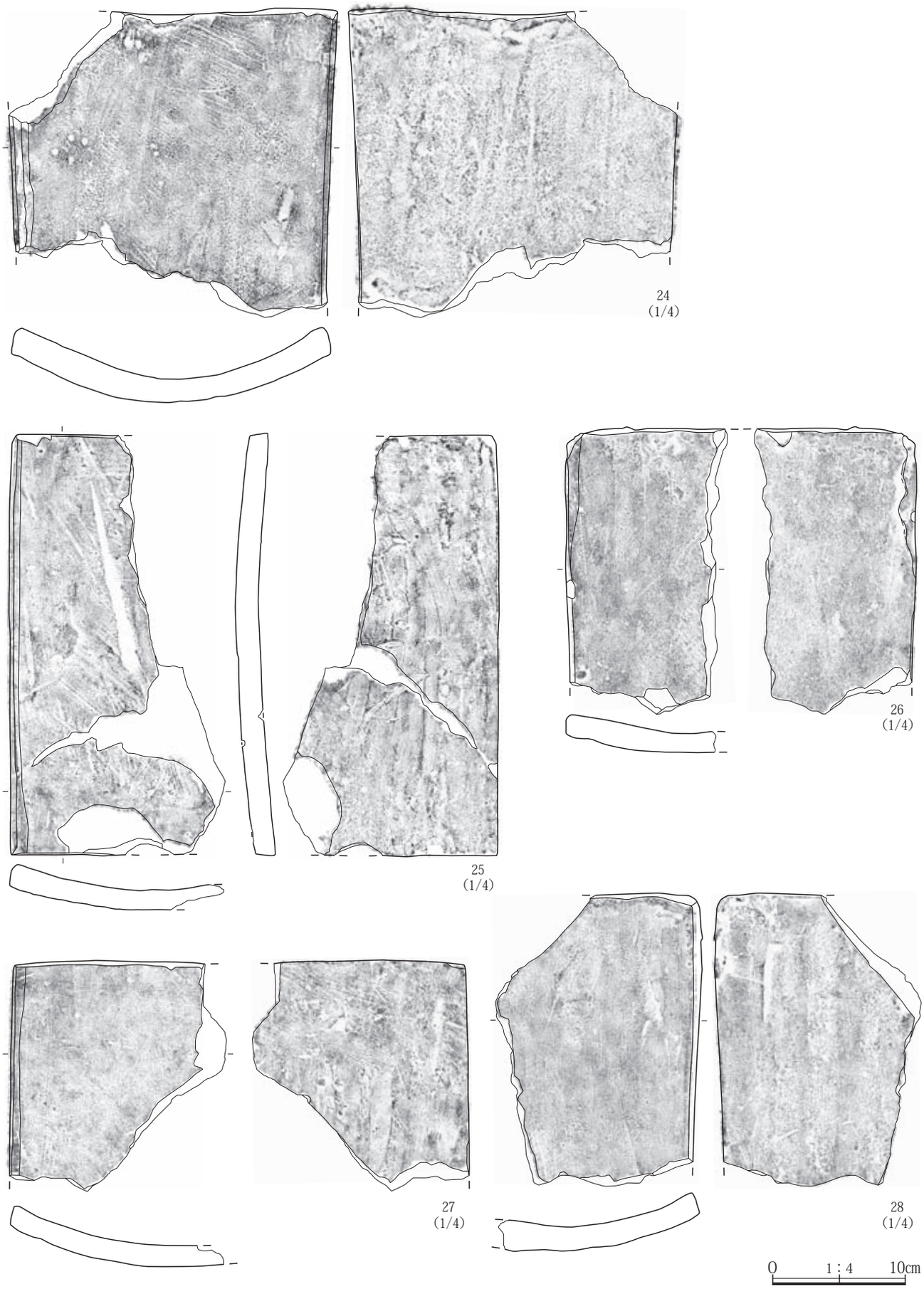
第16図　６号土坑出土遺物（３）



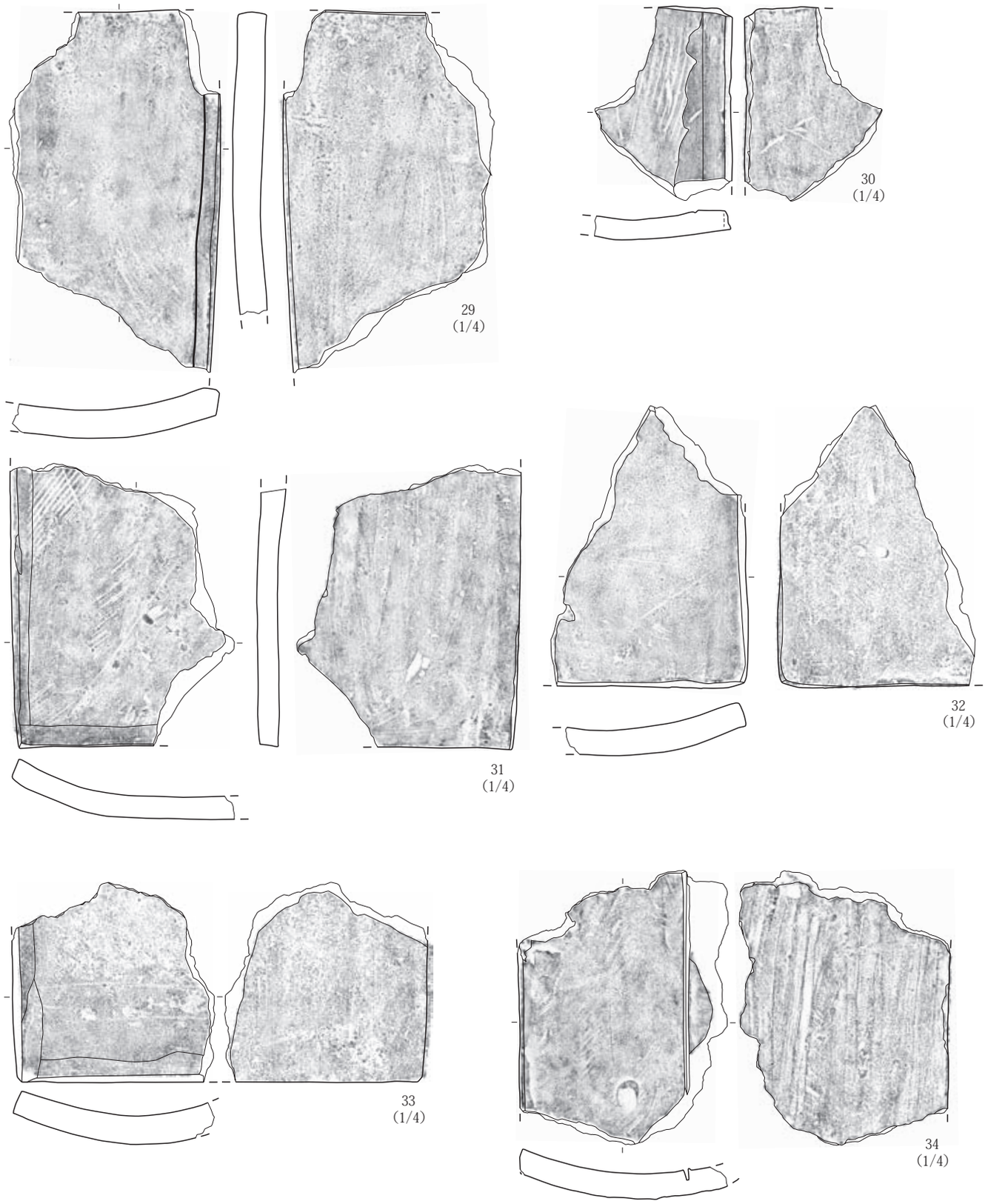
第17図　６号土坑出土遺物（４）



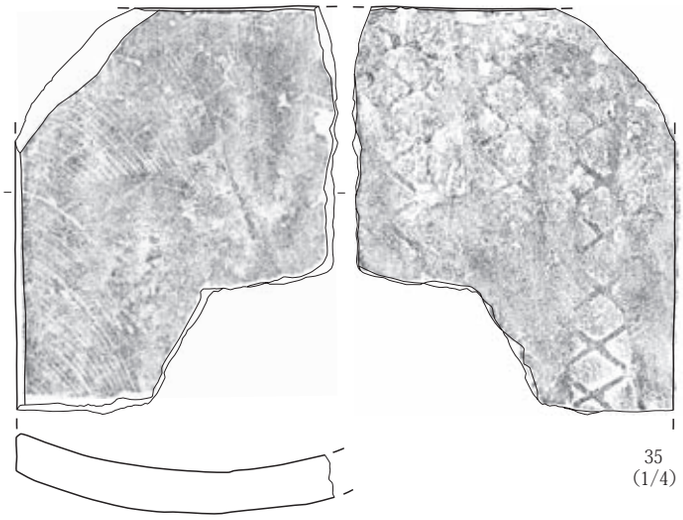
第18図　６号土坑出土遺物（５）



第19図　６号土坑出土遺物（６）

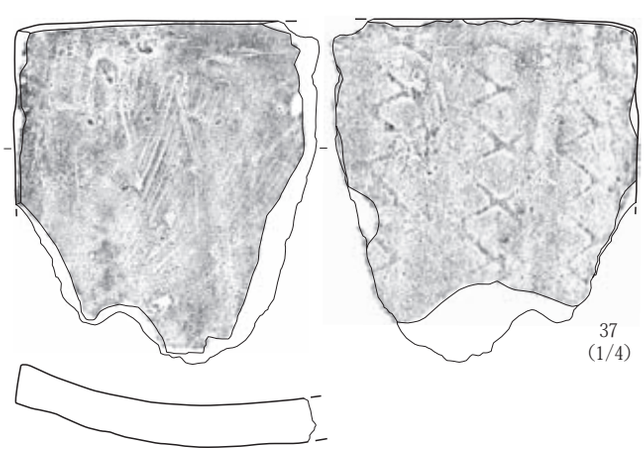


第20図　６号土坑出土遺物（７）

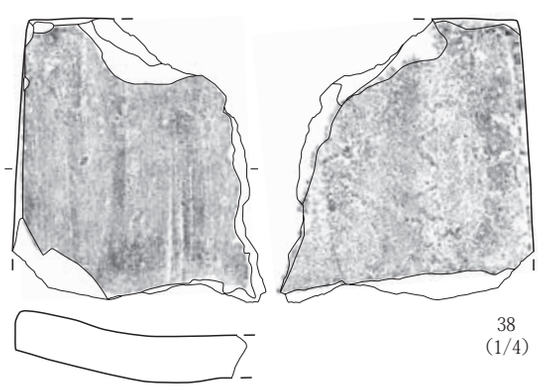


35
(1/4)

36
(1/4)



37
(1/4)

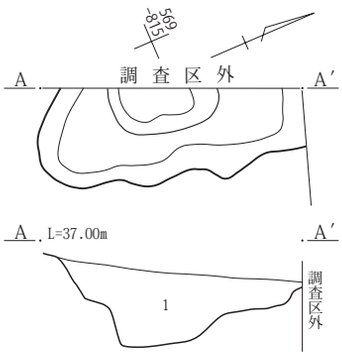


38
(1/4)

0　1：4　10cm

第21図　６号土坑出土遺物（８）

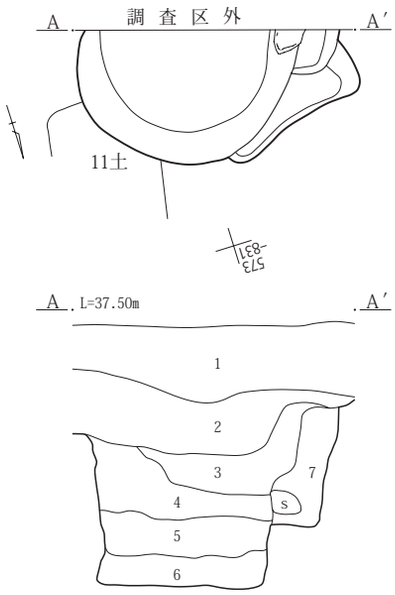
８号土坑



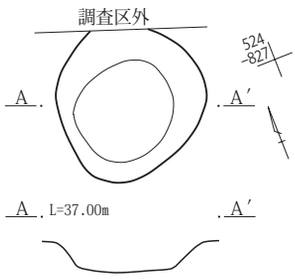
８号土坑
１．褐色土(7.5YR4/6)　φ１㎝のロームブロックを含む。

９号土坑
１．表土
２．褐色土　攪乱された土。
３．明黄褐色土(10YR6/6)　ロームブロック多い。
４．褐灰色土(7.5YR4/1)　ローム粒を含む。
５．黒褐色粘質土(7.5YR3/1)
６．褐灰色土(7.5YR4/1)　シルト質。
７．褐色土(7.5YR4/3)　ロームブロックを含む。より古い別の遺構。

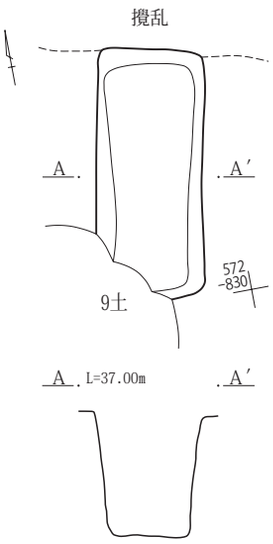
９号土坑



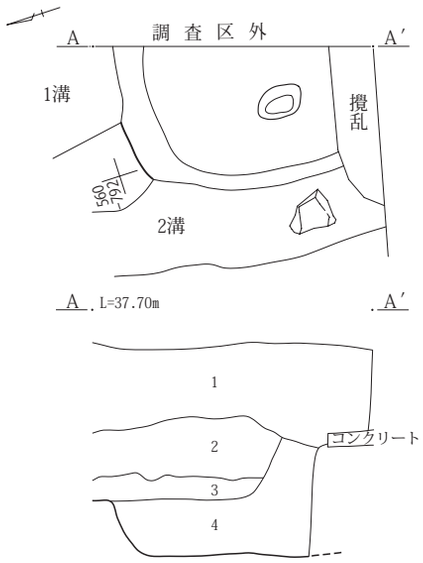
10号土坑



11号土坑



12号土坑

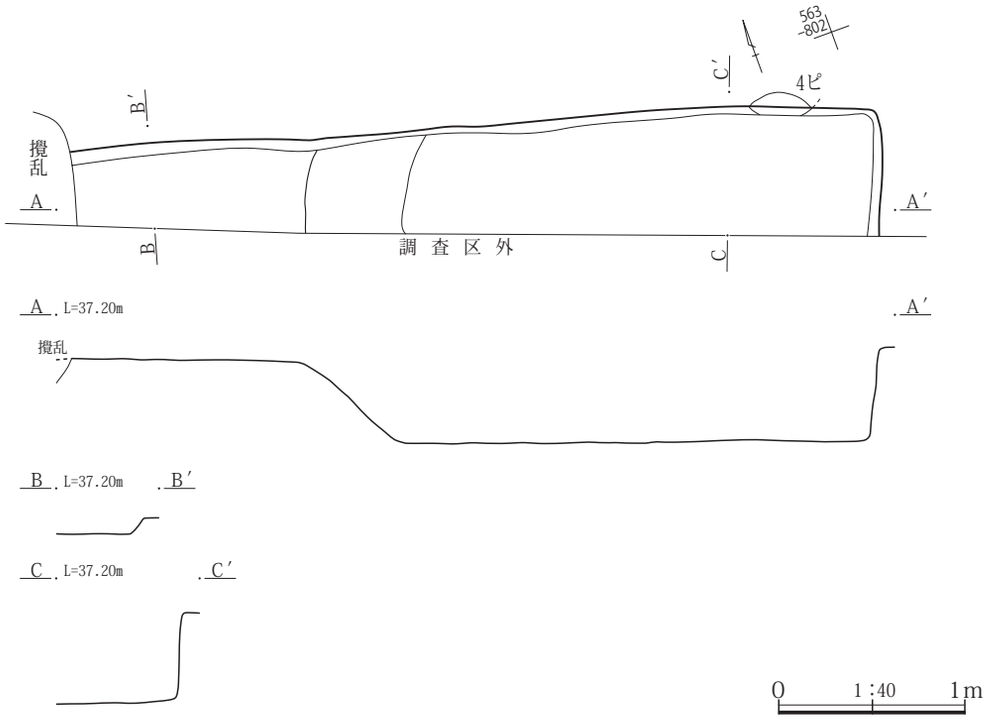


12号土坑・１号溝
１．表土
２．褐色土(7.5YR4/4)　φ５㎜のローム粒、小礫を含む。１号溝。
３．黄褐色土(10YR5/6)　ロームを多く含む。１号溝。
４．褐色土(10YR4/6)　φ２～３㎝のロームブロック、小礫を多く含む。12号土坑。

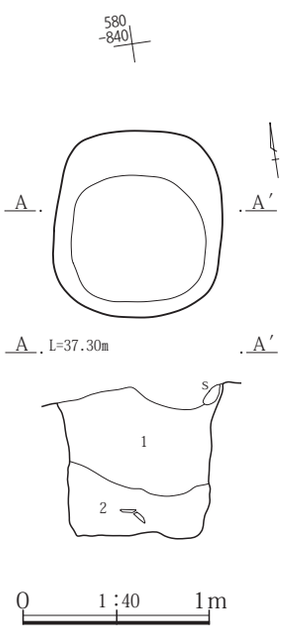
0　1:40　1m

第22図　８～12号土坑平断面図

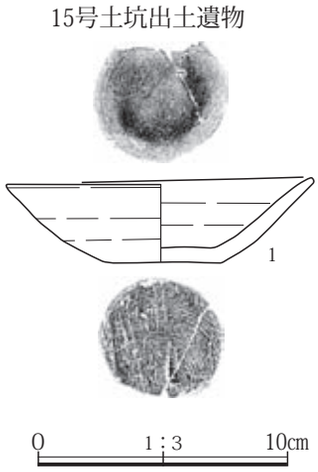
13号土坑



15号土坑

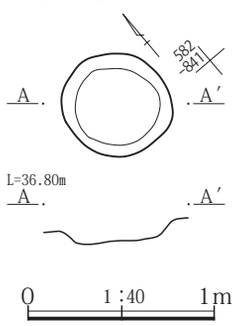


15号土坑出土遺物



15号土坑
１．褐色土(7.5YR4/6)　φ３cmのロームブロック、炭化物を含む。
２．褐色土(7.5YR4/6)ローム粒を含む。

16号土坑



第23図　13・15・16号土坑平断面図、15号土坑出土遺物

第３節　井戸

井戸は４基を報告する。井戸として調査したのは５基であるが、そのうち「１号井戸」と名付けたものは確認面から0.84mの深さしかなく、井戸としては浅すぎるので、整理作業の過程で土坑(15号土坑)に名称を変更した。そのため「１号井戸」は欠番である。残りの４基はいずれも素掘りの井戸である。ただし、底面まで掘り下げるのは危険が伴うため、掘削は途中で断念せざるをえなかった。

２号井戸(第24図、第17表、PL．６-６)

１－４区中央南側にある。13、16号ピットと重複するが、新旧関係は不明である。平面形は楕円形で、長径1.82m、短径1.19mであり、深さは1.53mまで確認した。壁はややすぼまりながら急角度で直線的に掘られている。出土遺物は少なく、掲載したのは瀬戸・美濃陶器の丸皿１点のみである。その他小破片として、中世国産焼締陶器１点、在地系土器(鉢・鍋類)１点、同(皿)１点、近世施釉陶器１点、同在地系土器(皿)１点が出土している。近現代の遺物が出土しないことから、埋没したのは近世であると思われる。

３号井戸(第24図、第17表、PL．６-７,17)

１－２区中央やや東寄りにある。平面形は楕円形で、長径1.65m、短径1.12mであり、深さは1.56mまで確認した。壁は急角度で直線的に掘られた後、確認面から0.50m下で一度ややすぼまり、さらに0.80mの深さのところで大きく広がる。最も広がる部分では長径1.64m、短径1.40mとなる。その下部の壁は再び急角度で直線的になる。出土遺物は少なく、掲載するのは板碑片１点のみである。その他に小破片の中世瓦６点が出土している。近世以降の遺物が出土していないので、埋没時期は中世にまで溯る可能性があるが、遺物が少ないので確定できない。

４号井戸(第24図、第17表、PL．６-８,17)

１－２区の中央やや西寄りにある。南側の上部が攪乱で破壊されている。北側には６号土坑が重複し、本井戸が新しい。平面形は、上部に攪乱や土坑が重複するために明確ではないが、不整な楕円形らしい。径は確認面で上端が残っているところを計測すると1.74mである。深さは1.66mまで確認した。壁は、確認面から0.60～0.80mまでは緩やかにすぼまるか、あるいは急角度に掘られ、それより下部は逆に大きく広がるようになる。最も広がる部分は、長径1.94m、短径1.15mの楕円形である。出土遺物は少ない。掲載したのは瀬戸・美濃の染付皿１点、在地系土器皿１点、銅銭(皇宋通寶)１点である。小破片としては、中世国産焼締陶器１点、同瓦２点、近世磁器４点、同施釉陶器２点があるが、その他に近代陶磁器16点、同土器１点も出土しており、最終的に埋没したのは近代まで下るものと思われる。

５号井戸(第25図、第17表、PL．７-１)

１－３区中央やや西寄りにある。南側が調査区外となるが、平面形は楕円形だと思われる。長径は南側が調査区外となるが現状では1.89m、短径は1.44mである。深さは1.68mまで確認した。壁はややすぼまりながら急角度で直線的に掘られている。埋没土は細かく分層でき、調査区壁で実測した断面図(Ａ－Ａ′)に見るように、西側から埋め戻している。出土遺物は少なく、掲載するのは常滑陶器の甕１点のみである。小破片には中世国産焼締陶器１点、同瓦１点のほか十能瓦が８点見られるので、最終的に埋没したのは近代にまで下るものと思われる。

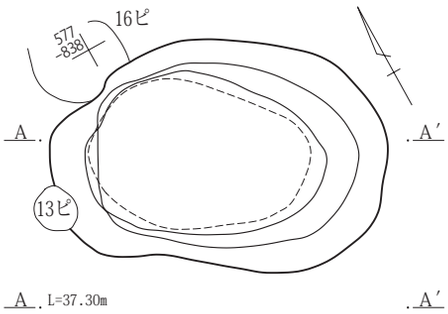
第４節　溝

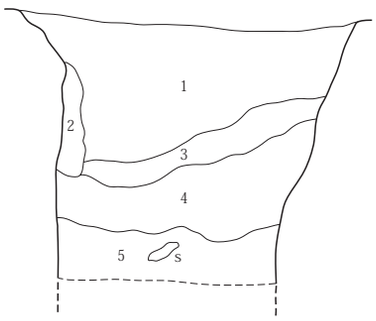
溝は３条調査した。分布は散在的で、１－１区に２条、１－４区に１条である。いずれも南北方向に直線的に延びているが、調査できた長さが短く、詳細は明らかではない。３条とも幅が狭く浅い小規模な溝である。水が流れた形跡はないので、用水路などではなく何らかの区画に伴うものであると思われる。

１号溝(第26図、PL．１-１，７-２)

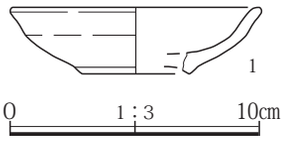
１－１区の東端近くにある南北溝である。南側は12号土坑と重複し、本遺構が新しい。走行方向はＮ－11°－Ｗで、直線的に延びている。調査できた長さは2.60mであり、両端は調査区外となる。幅は0.55～0.59m、深さは0.15mである。断面形状は浅い逆台形で、底面は平

２号井戸

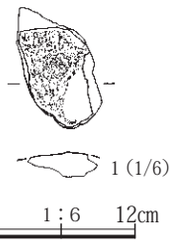




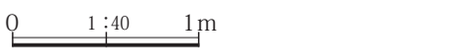
２号井戸出土遺物



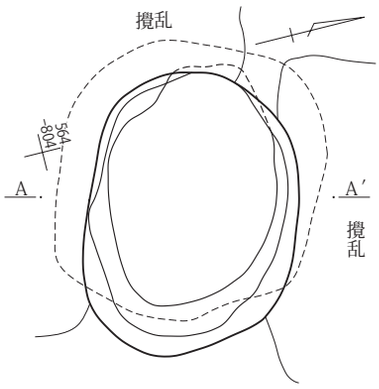
３号井戸出土遺物

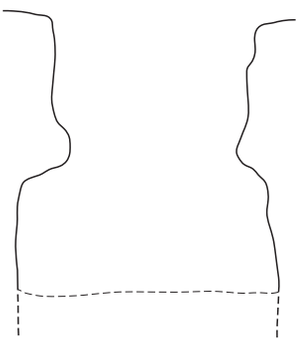


２号井戸
1．褐色土(7.5YR4/6)　φ２～３㎝のロームブロック、灰を含む。
2．暗褐色土(7.5YR3/3)　ローム粒を含む。
3．明黄褐色土(10YR6/6)　ローム粒、粘土を多く含む。
4．褐色土(7.5YR4/3)　ローム粒を多く含む。
5．黒褐色土(7.5YR3/2)　ローム、礫を含む。

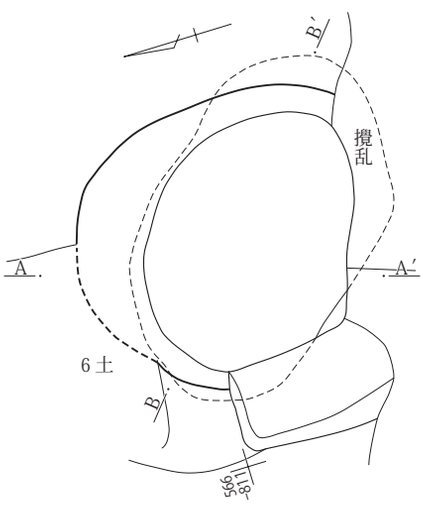


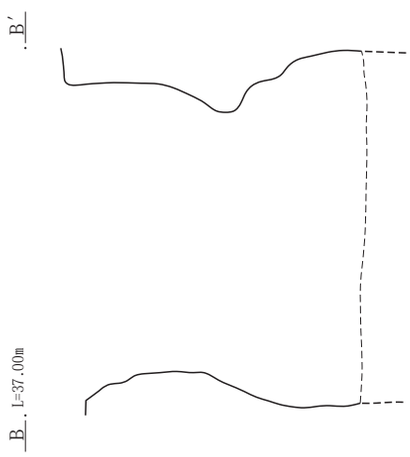
３号井戸



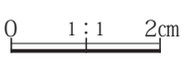


４号井戸



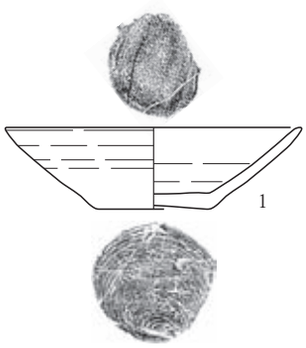


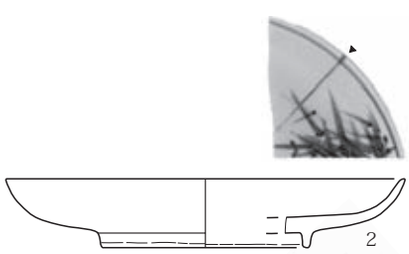
3（1/1）



４号井戸
1．褐色土(7.5YR4/6)　φ１～２㎝ロームブロック。
2．褐色土(7.5YR4/4)　細かいローム粒を含む。
3．暗褐色土(7.5YR3/3)　灰色シルトブロックを含む。

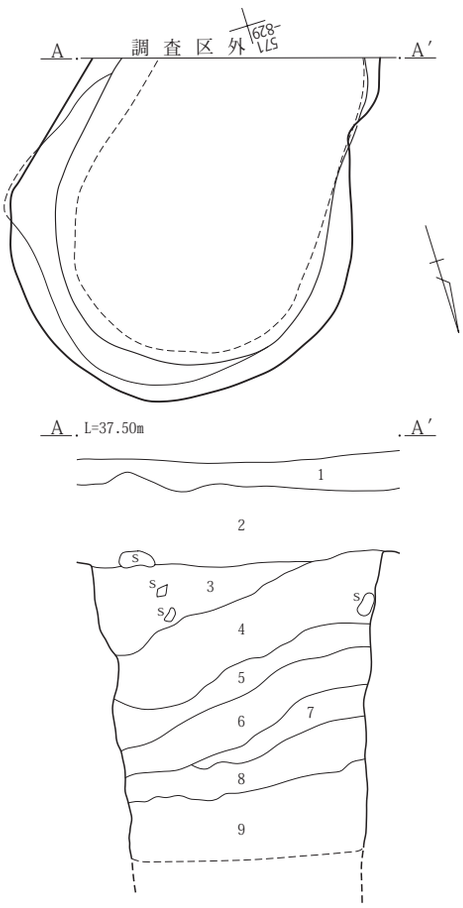
４号井戸出土遺物





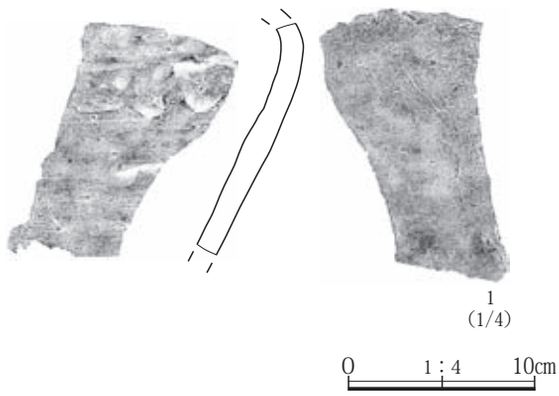
第24図　２～４号井戸平断面図・出土遺物

５号井戸



５号井戸
１．表土
２．褐色土　攪乱された土。
３．褐色土(7.5YR4/6)　ロームブロックを含む。
４．暗褐色土(7.5YR3/3)　白色シルトブロックを含む。
５．灰褐色シルト(7.5YR5/2)
６．灰褐色シルト(7.5YR4/2)
７．黒褐色土(7.5YR3/2)　シルトブロックを含む。
８．褐灰色土(7.5YR5/1)　シルト質。
９．黒褐色粘質土(7.5YR3/1)

５号井戸出土遺物



第25図　５号井戸平断面図・出土遺物

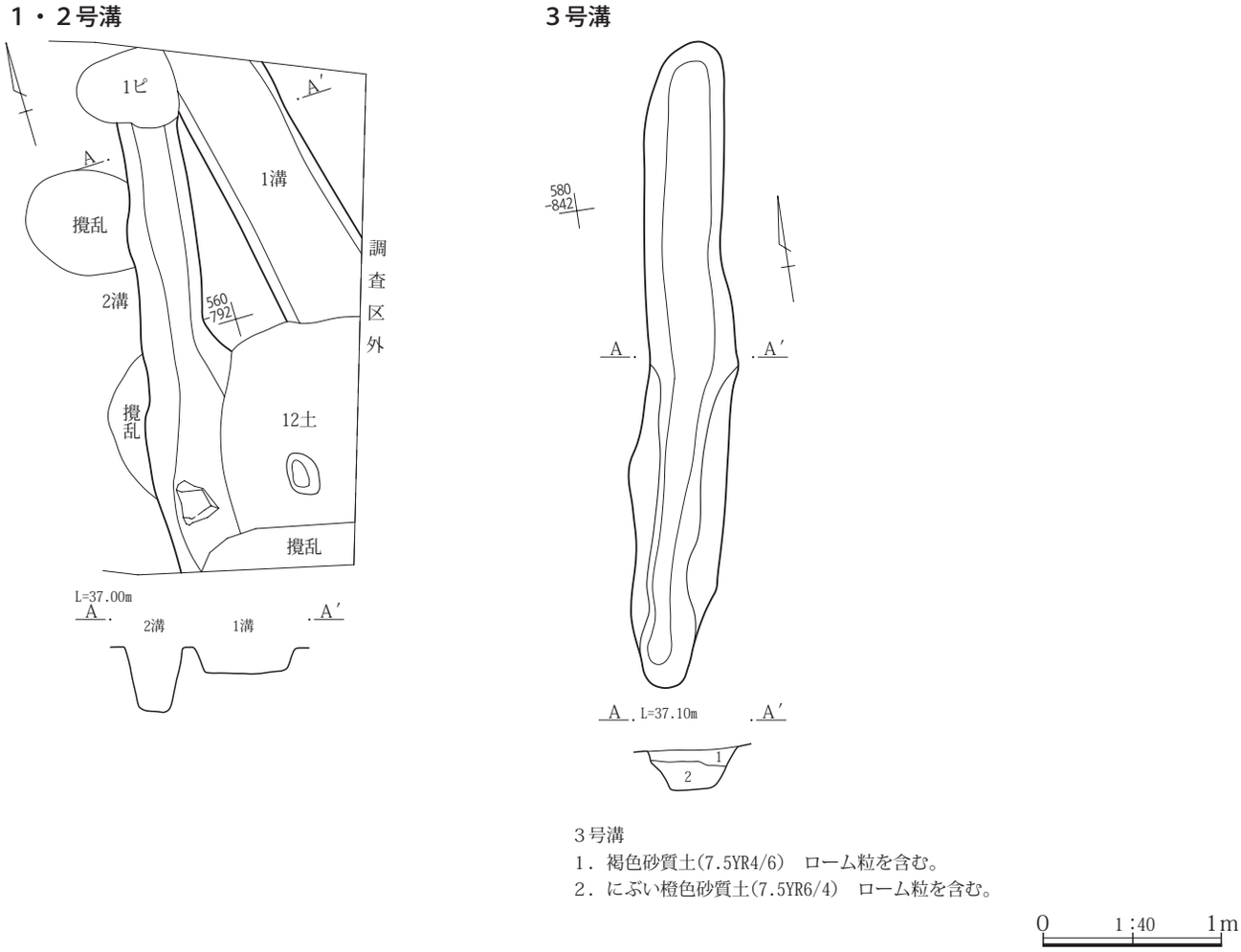
坦であり、顕著な傾斜は見られない。埋土はロームを含む黄褐色土や褐色土であり、砂などはなく水流があったようには見えない。掲載できる出土遺物はない。小破片として中世国産焼締陶器１点、近世在地系土器(焙烙・鍋類)４点がみられるので、埋没したのは近世以降である。

２号溝(第26図、PL．１-１，７-２)

１－１区の東側にある南北溝である。北側に１号ピット、南側に12号土坑が重複するが、新旧は不明である。走行方向はＮ－８°－Ｅで、直線的に延びている。調査できた長さは3.00mであり、両端は調査区外となる。幅は0.32～0.49mであり、12号土坑と重複する部分で大きく広がるように見える。深さは0.36mである。断面形状は深さのある逆台形で、底面は平坦であり、顕著な傾斜は見られない。出土遺物がないので、埋没時期は不明である。

３号溝(第26図、PL．７-３)

１－４区の西側にある南北溝である。走行方向はＮ－12°－Ｅであり、西側にある現在の県道大間々・世良田線の方向に近い。両端は途切れ、長さは3.62mで直線的に延びている。幅は0.44～0.55m、深さは0.12～0.26mである。断面形状は逆台形で、底面は北側がやや深くなっている。埋土は砂質であるが、両端が途切れているため、水を流す溝ではない。出土遺物がないので、埋没時期は不明である。



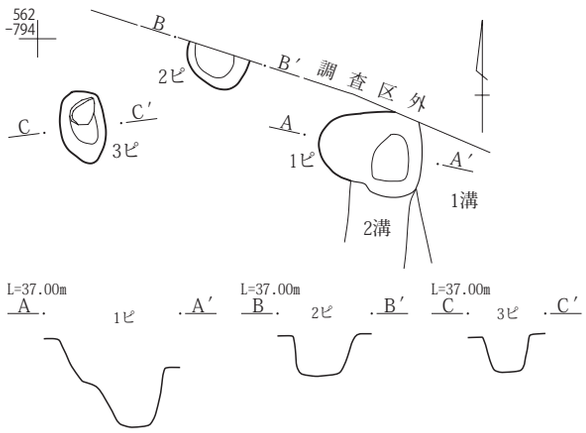
第26図　１～３号溝平断面図

第５節　ピット

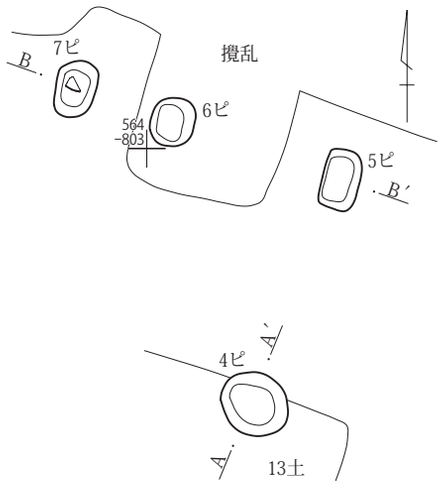
ピットは合計44基調査した。全域に分布しているが、１－１区北側(１～３号ピット)、１－２区東側(４～７号ピット)、１－３区中央北側(35～41号ピット)、１－４区(９～18・44号ピット)では狭い範囲に数基のピットが集まっているのが見て取れる。それらは、１－２区の５～７号のように３基のピットが直線的に並ぶものもあるが、四角形に配置されているようなものは見あたらず、建物を構成するものは確認できなかった。

注目されるのは１－２区と１－３区にまたがって、その調査区南壁に沿って見られるピットの列である。これは東端の24号ピットから西端の43号ピットまで20mの間に、17基のピットが調査区境に沿って直線的に並んでいるものである。その列状の並びから、塀の柱穴の可能性が考えられる。しかし、これらのピットは北側半分が調査区内に掛かっているものがほとんどであり、全体が調査できたものはごく少ないので、詳細は不明な点が多い。また、土坑や井戸によって破壊されていると思われる部分もあるので、本来の形態は不明であり、南側の調査区外の部分に対応するピット列が存在する可能性も考えられるため、塀であると断定することは難しい。これが塀だとすれば、北側にある屋敷地などの南側の区画になるのではないだろうか。ピットの間隔は(各ピットの心－心距離で計算して)、東側の24号から23号の間は2.7mの間に７基なので45cm、西側では28号から34号までmの間に７基なので62.5cmであり、部分的にはかなり密である。ただし27～34号ピットでは、断面図(第28図中央)に明らかなように、深さが１基おきに異なっているので、少なくとも２時期のピット列が重複している可能性が考えられる。各ピットの時期の詳細は不明であるが、23号ピットのように近代遺物が出土するものもあるので、最終的な埋没年代は近代にまで下がる可能性が高いと考えられる。

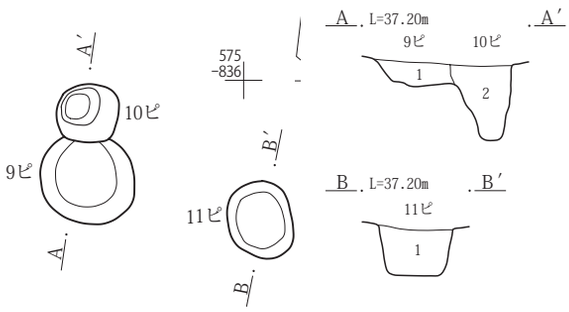
１～３号ピット

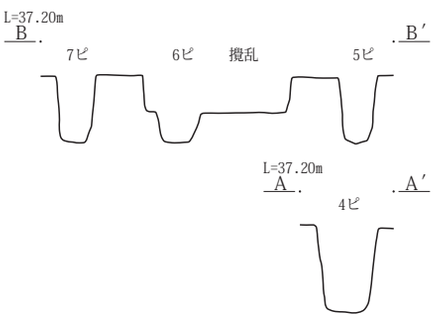


４～７号ピット



９～ 11号ピット

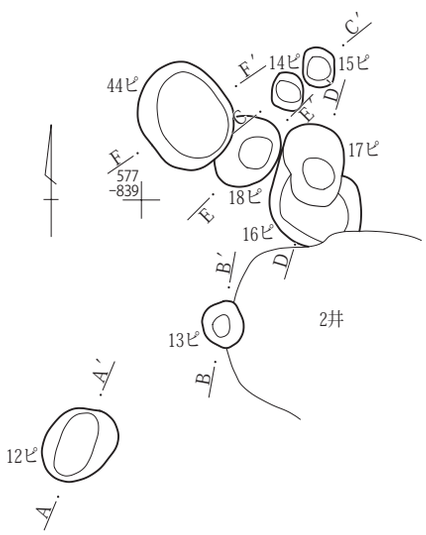


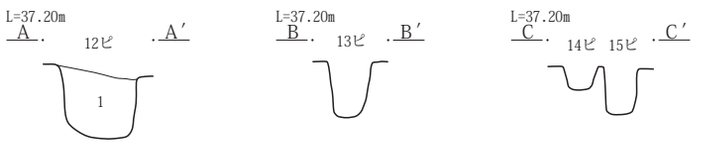


９・10号ピット
１．褐色土(7.5YR4/4)　ローム粒を含む。
２．暗褐色土(7.5YR3/4)　ローム粒、砂粒を含む。

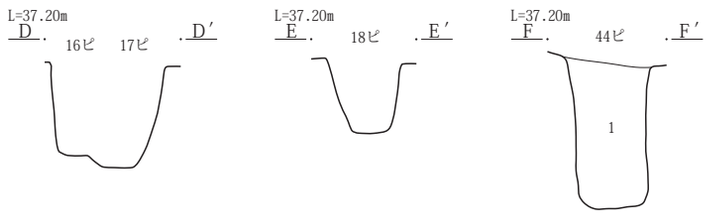
11号ピット
１．褐色土(7.5YR4/4)　ローム粒含む。

12 ～ 18、44号ピット





12号ピット
１．褐色土(7.5YR4/4)　ローム粒含む。

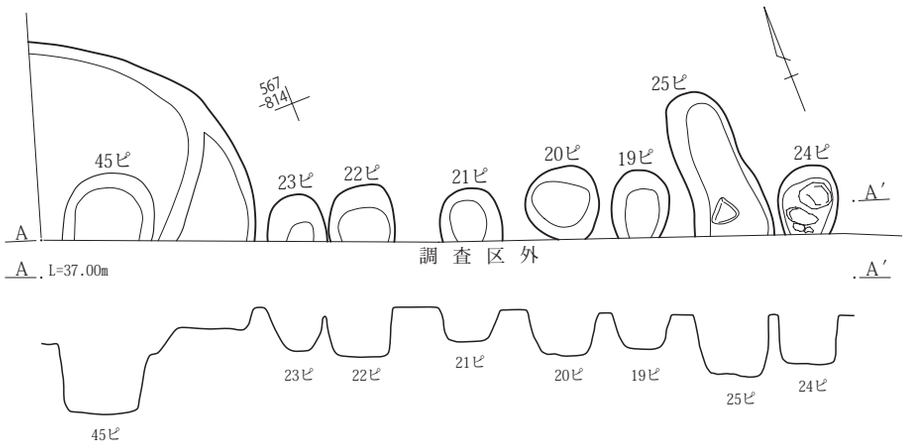


44号ピット
１．褐色土(7.5YR4/6)　φ１cmのロームブロック、炭化物含む。人為的埋没。

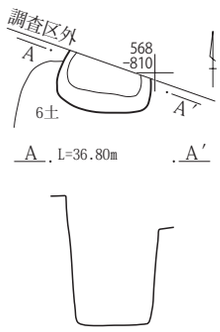
0　1:40　1m

第27図　１～７・９～18・44号ピット平断面図

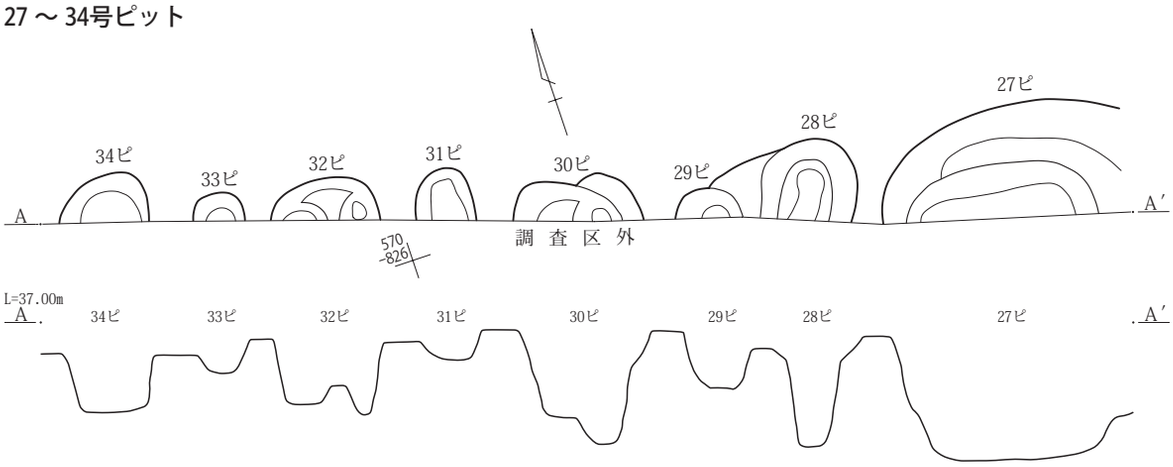
19 ～ 25、45号ピット



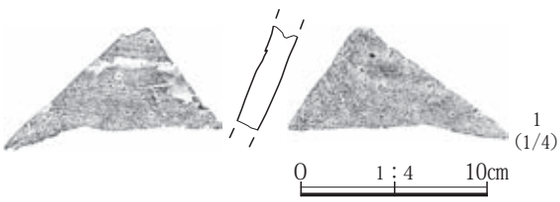
26号ピット



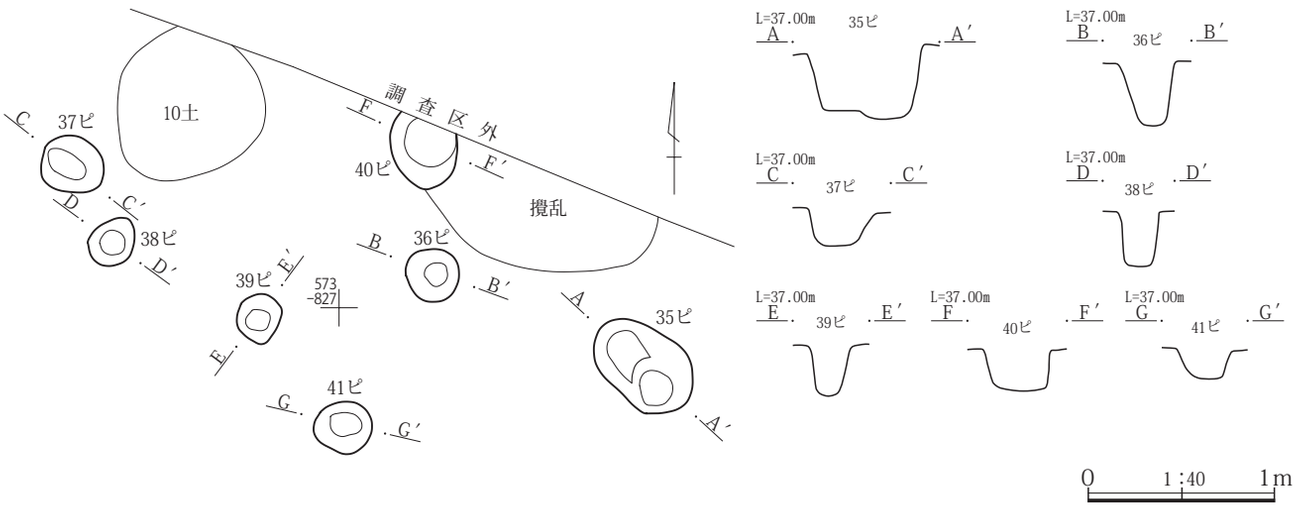
27 ～ 34号ピット



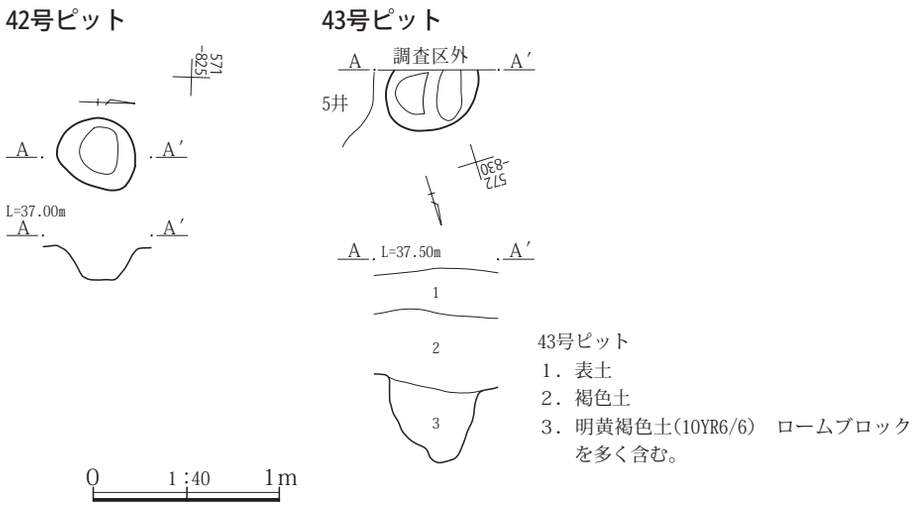
32号ピット出土遺物



35 ～ 41号ピット



第28図　19 ～ 41・45号ピット平断面図、32号ピット出土遺物



第29図　42・43号ピット平断面図

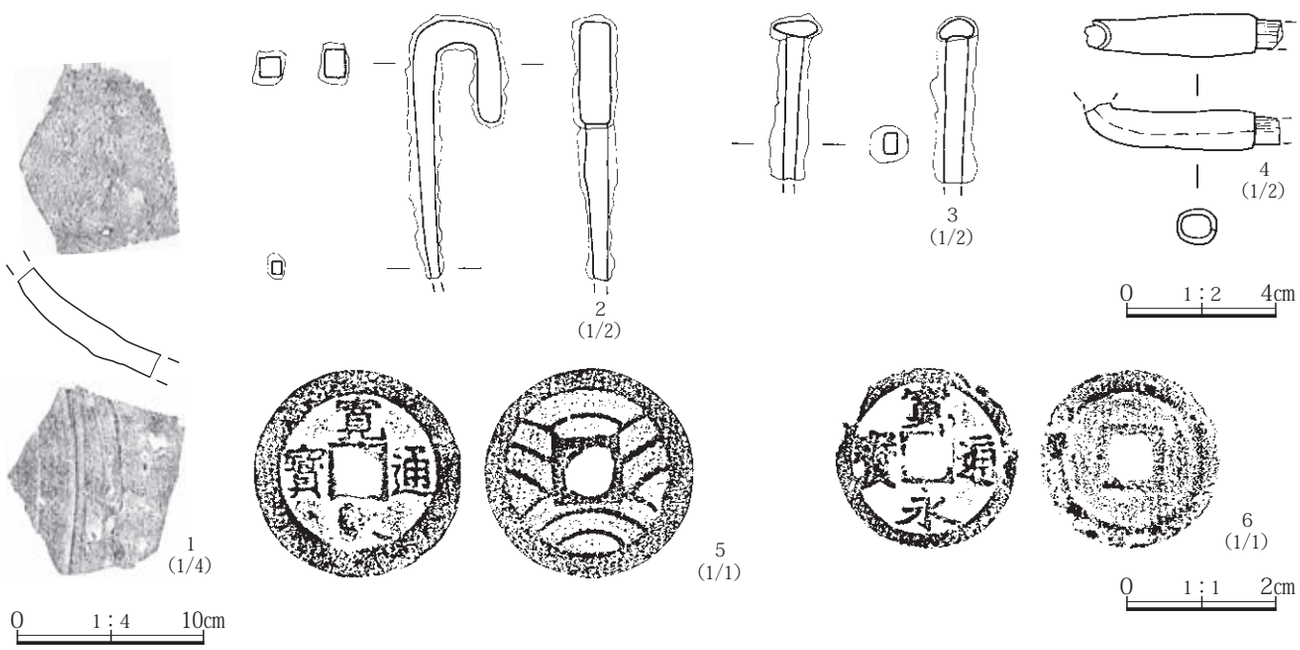
第７表　ピット一覧表

No.	区	位置		規模(cm)	備　考
		X	Y	長径×短径×深さ	()内は小破片のため未掲載の遺物数
1	1－1	561	-792	56×46×45	１・２号溝と重複。
2	1－1	561	-792～793	34×－×23	
3	1－1	561	-793	40×24×21	
4	1－2	562	-802	39×34×47	13号土坑より新。(近代土器類１)
5	1－2	563	-801～802	33×20×38	
6	1－2	564	-802	26×24×16	
7	1－2	564	-803	31×22×37	
8	16号土坑に変更				
9	1－4	574	-836～837	53×49×14	10号ピットより古。
10	1－4	574	-836～837	35×31×42	９号ピットより新。
11	1－4	574	-835～836	42×34×29	
12	1－4	575	-839	45×35×38	
13	1－4	576	-838	25×21×31	２号井戸と重複。
14	1－4	577	-838	22×17×12	
15	1－4	577	-837～838	22×17×25	
16	1－4	576～577	-837～838	(60)×43×54	２号井戸、17号ピットと重複。
17	1－4	576～577	-837～838	46×30×56	16号ピットと重複。
18	1－4	577	-838	41×38×41	44号ピットと重複。
19	1－2	565	-812	(37)×31×19	
20	1－2	565～566	-812～813	39×39×27	
21	1－2	565～566	-813	(29)×34×17	
22	1－2	566	-813～814	(31)×30×26	
23	1－2	566	-814	(25)×31×24	(近代瓦２)
24	1－2	565	-811	(37)×32×25	(時期不明土器２)
25	1－2	565～566	-811～812	(83)×42×37	
26	1－2	567～568	-810	51×－×69	６号土坑と重複。
27	1－3	569	-822～823	(127)×(61)×66	(近世磁器２、同施釉陶器３、同瓦１、時期不明土器２)
28	1－3	569	-823～824	(45)×51×61	(時期不明土器１)
29	1－3	569	-824	36×－×32	(中世瓦１、近代陶磁器２)
30	1－3	569～570	-824～825	70×－×62	(近世磁器１、同施釉陶器１)
31	1－3	570	-825	(28)×32×16	
32	1－3	570	-826	59×－×41	常滑甕出土。
33	1－3	570	-826～827	28×－×18	
34	1－3	570	-827	48×－×32	
35	1－3	572	-825	61×40×39	
36	1－3	573	-826	30×28×33	
37	1－3	573	-828	36×30×20	
38	1－3	573	-828	29×24×29	
39	1－3	572	-827	27×23×25	
40	1－3	573	-826	(36)×36×25	
41	1－3	572	-826～827	31×28×16	
42	1－3	570	-824	43×36×19	
43	1－3	571	-829～830	51×(34)×43	
44	1－4	577	-838	58×47×84	18号ピットと重複。
45	1－2	566	-814	(36)×48×37	

第６節　遺構外出土の遺物

調査区内には多くの攪乱などが入っており、遺構外からも多くの遺物が出土した。ここではそれらのうち比較的残存度のよい遺物を掲載した。中世の常滑陶器甕１点、鉄製品２点（１点は用途不明。１点は角釘）、キセル１点、銅銭２点（いずれも寛永通寶だが、１点は４文銭（11波）、もう１点は１文銭（古寛永）である）である。

この他に小破片で出土したために掲載できなかったものが多数存在する。その内訳は、まず中世のものは国産施釉陶器１点、国産焼締陶器３点、在地系土器鉢・鍋類１点、瓦10点があり、近世のものには国産磁器29点、国産施釉陶器13点、焼締陶器１点、在地系土器焙烙・鍋類３点がある。



第30図　遺構外出土の遺物

第4章　総　括

本遺跡の調査成果は第３章で報告した通りである。本遺跡は中世の環濠集落であるが、今回の調査では面積が狭小であることもあり、中世の集落に関わる明確な遺構は見つかっていない。しかし遺物には、中世瓦がまとまって出土するという注目すべき成果が得られた。これらの瓦は近くの長楽寺などで用いられていたものと思われるが、これほどまとまった資料が一度に出土したのは珍しい。そのため、本書ではその重要性に鑑み、この出土瓦についてまとめることで調査の総括としたい。

第１節　世良田環濠集落遺跡出土の中世瓦

今回の当該遺跡出土の瓦類は377点が出土している。この中で11点が近現代所産の瓦(桟瓦10点・男瓦１点)であり、中世瓦は366点が出土している。

本項目では、後者の中世瓦の観察所見を記しておく。なお、同事業での発掘調査が継続されていることから、総括的な記述は、後年実施される同事業の整理成果の中でまとめたい。

今回出土した中世瓦366点の内訳は、鐙瓦５点・宇瓦２点・男瓦140点・女瓦218点・熨斗瓦１点であり、鬼瓦・面戸瓦・雁振瓦・鳥衾瓦は出土していない。観察は図化掲載・非図化掲載に係らず通番を付して行った。観察結果の一覧は第８～14表に示した。

観察所見

〔胎土〕上述出土瓦の共通する胎土(素地土)は、４つの外観を認めるが、これは焼成に拠る焼き上がり状態の異なる事に相応しており、酸化炎～還元炎、軟質～焼締の状態により一見異なるようにも見られるが、ほぼ同一の生地土乃至同一粘土層と上下する粘土・シルト(長石の含有が多い)層を生地土としていると判断される。この点から胎土種類としたのはほぼ１種類のＡ類に限られるが、１点だけ異なる胎土の瓦が認められた(瓦366-第13図-１)。この１点をＢ類とした。以下に特徴を記す。

また、胎土類別の設定は、今後別種の素地土を使用する胎土の瓦が明らかになることを想定しての設定である。

なお、観察には10倍のルーペを用い、必要に応じ実体顕微鏡を使用した。

Ａ類：可塑性のある素地土を用いている。素地土は、粘土とシルトから精製され、多くの個体で双方が縞状になった状態が観察される。この場合、仕込みが不十分か大雑把なことが類推される。これは、瓦を焼成するに必要な大量の素地土の確保と、素地土の仕込み条件等に拠ると推測される。

酸化焼成では、軟質～並質程度の焼き上がりで、軟質の割れ口では、微細なセリサイトの様な雲母系鉱物を多量に含有する様な光沢感がある。組成を分析すればある程度の状況が判明すると推測する。恐らく、雲母系鉱物に起因し、Ca・Ｋの含有量が多いかもしれない。この場合、比較対象にされるのが古代瓦の分析組成値である。並質の割れ口では、軟質の締まった状態であるが、光沢感が薄れる。

還元炎焼成では、軟質・並質・硬質・焼締の各様が有り、焼き上がりの質感もこの四者に相応している。

並質の焼き上がりは酸化炎焼成同様である。割れ口では、縞状の部分も認められる。この時、還元炎の状態に起因するのであろうが、シルト部分の発色が明るい灰色を呈している。これは、シルト粒子に炭素分子が吸炭されないことが考えられる。焼き上がりでの胎土の収縮の違いは、夾雑物を包み込む状態が異なり、軟質では夾雑物が観察し易いが、硬質に傾く程素地土に包み込まれ見出がやや困難で、並質・硬質の焼き上がりは酸化炎焼成と同様である。焼締では、夾雑物も包み込まれている状態も顕著で、素地土は、夾雑物を包み込む状態からか、粗粒の砂岩の割れ口の様に細かな凹凸が観察される。

夾雑物では、細粒の白色鉱物粒子(石英が主体)・β石英(βQt)・黒色鉱物(角閃石・輝石の一方か双方)・長石・不明鉱物(チャート様)がやや丸みを帯びた亜角礫状態で含有され、このほかに、雲母(黒雲母)、黒・白の縞の入る灰色チャートの細粒が含まれるが、このチャートは角には丸みが認められない。また、個体によっては、局部的に離砂を混入する部分が認められる。離砂は角粒砂である。この離砂が含有されるのは、工房で粘土タタラを仕込む際の混入と考えられる。

このＡ類は、全体的に縞状の割れ口を呈している。この特徴は生地土の採取段階での２つ層(粘土・シルト)の混土夾雑状態を要因に捉えることも出来るが、粘土自体の含有鉱物の特徴でもあることが推測される。定量分析を行い、結果を判断

しなければならないが、もしかするとモンモリロナイトを多く含む生地土とも思われる。

B類：当該分類にした瓦366は第13図１に図化掲載した瓦である。還元炎焼成で焼き締められた焼き上がりである。色調は単色で暗い濃い灰色を呈している。割れ口では、瘤状の小単位の丸味を帯びた連続状態の感である。夾雑物は高温での焼締のため、黒色鉱物(角閃石・輝石の一方か双方)の発泡状態と判断されるもの、白色鉱物粒子(石英)・βQｔ・白色岩片等の細粒が含有される。

割れ口で観察される瘤状の状態から、観察表中では太田産とした胎土である。この瘤状の割れ口は、太田金山北東部、八王子丘陵南西部で焼造された、古代須恵器の割れ口に共通することから根拠とした。

〔焼成〕焼成は酸化炎・還元炎の双方が夾雑する如くの状態で、器面では、酸化炎部分と還元炎部分、同様に断面・割れ口でも顕著であり、焼成時に双方の焼成炎が交互に繰り返される状態であったことが窺知される。観察表中では、酸化炎・還元炎の夾雑する状態に応じて酸化・酸還・還酸・還元で示した。この四者の内、「酸還」は酸化炎部分が多く還元部分も認められ、「還酸」ではこの逆である。傾向として、軟質の焼き上がりでは酸化炎が多く、硬質の焼き上がりでは還元炎傾向が強く、焼締の多くは還元炎が殆どであった。この焼成により生じた色調の判別は、「どの部分をもって一つの名称を与えるのか」と迷う位困難を伴ったが、代表されよう部分をもって色調表現とした。

外見観察では、完形に類する資料が１点のみであったことから、焼成時の窯入れ状態等を示す痕跡は窺知出来なかった。

以下、主要４種の観察所見等を記す。

鐙瓦・宇瓦・男瓦・女瓦の観察所見

〔鐙瓦〕５点(瓦１～５、第14図- ３・４・第15図- ５～７)の出土があった。瓦当面の残存する個体は１点(瓦１、第15図５)のみであるが、周縁及び周縁部分の部分残存であったため、瓦当面の文様・意匠までの判別は出来なかった。残存する瓦当面径は小さく、残存する男瓦部分も小振りである。この瓦１以外の鐙瓦の面径も小振りである。焼成は全て酸化炎焼成である。

瓦当面の接合は芋接ぎで、周縁部分に直接乗せており、瓦１以外の全てが接合面で欠損している。この接合面には、掻破りは施されていない。

瓦１の瓦当文様は、既存の笵種とは異なる意匠と思われるが、分明ではない。

〔宇瓦〕２点(瓦６・７、第15図-８・９)の出土があった。双方共に段顎作りで、顎部分は横撫でで仕上げられている。瓦当面文様は逆位の剣頭文である。瓦７の左端上位部分に笵割れが認められる。瓦６は左側、瓦７は右側を欠損しており、双方に重複する部分の文様は確認できない。このため、双方が同笵関係にあるのかは確認できない。また、瓦笵の木理は横位で部分的にしか認められない。恐らく、同種の樹木を笵型にしていると思われるとまでしか判断できない。

〔男瓦〕 140点が出土している。完形に類する個体は１点(瓦８・第15図10)のみである。他139点は破片化している。

成形は半截作りが全てと判断したが、一部に側端部の面取りが丸みを帯びるものが有り、躊躇する個体もあった。また、多くの個体には、縄叩き(ローラー状にされた回転施文)が撫で消された痕跡が残り、上半側には、後行する玉縁の成形に伴う轆轤の回転条痕が残っている。このことから、縄叩きは整形台上で粘土版を乗せた直後、外面側の面慣らしに伴う所作と判断できる。粘土版の継目は、Ｓ・Ｚ双方が認められ、一方付けられない。

一方、下半側は、縦位の撫で整形を施し、側部の面取りを行っている。そして、多くの個体には木骨痕と木骨の木理痕(縦位)が残ることから、側部面取りは、凹型台上での作業であることが推定できる。

また、凹面では釣紐圧痕は１点も無く、粘土版剥ぎ取り痕は右上がりである。

〔女瓦〕 218点の出土である。完形に類する個体は無く全て破片である。そして、何れも粘土版剥ぎ取り痕の条痕・離砂・側部喰出段から一枚作りと判断した。

個体によっては、凹面に木骨と思われる痕跡が認められるものもあったが、縦位の撫で整形の痕跡と重なるため、確実視出来なかった。観察表中では有りとしている。

整形は凸面離砂未整形が主体で、凹面は縦位の撫で整形が多く、離砂を残す個体も多い。凸面では、格子叩きを伴う36点がある。既出に類似する叩きがあるが同一具としての検証は未確認である。

離砂は、角礫状の砂を用い、細粗の二種類があるが、粗砂がやや多く、格子叩きを伴う個体は全て細砂である。

付記：以上４種の瓦の観察概要であるが、冒頭で述べたとおり調査が現在も継続中であるので、調査成果を待ち、後日に期したい。

第８表　瓦観察表１　（瓦１～瓦54）

番号	図番号	瓦種	玉縁	部位	胎土	焼成炎	焼上	色調	成　形	合目	木骨	剥取痕		離砂		面取り		喰出	布目		叩き		整形				轆轤	釘	厚	幅	長	摘　要
												凸	凹	凸	凹	端	側		凸	凹	凸	凹	轆轤止	縄多	縄消	撫	再調	穴				
1	15-5	鐙瓦	－	瓦当周	A	還酸	硬	灰白	半截	S	－	－	○	－	－	－	2	－	－	－	－	－	－	－	－	箆	－	－	1.8	－	－	
2	15-7	鐙瓦	－	男瓦部	A	酸化	硬	橙	半截	－	－	－	○	－	－	2	－	－	－	○	－	－	－	－	－	箆	－	－	1.5	－	－	
3	15-6	鐙瓦	－	男瓦部	A	酸化	硬	橙	半截	S	－	－	○	－	－	－	2	－	－	○	－	－	－	－	－	箆	－	－	1.5	－	－	
4	14-3	鐙瓦	－	男瓦部	A	酸化	硬	橙	半截？	－	－	－	－	－	－	－	2	－	－	－	－	－	－	－	－	○	－	－	2.4	－	－	
5	14-4	鐙瓦	－	男瓦部	A	酸化	硬	橙	半截？	－	－	－	－	－	－	－	2	－	－	－	－	－	－	－	－	箆	－	－	2.0	－	－	
6	15-8	宇瓦	×	宇部	A	酸化	硬軟	橙	一枚	×	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	2.9	－	－	剣頭文。7と同笵か、笵傷。
7	15-9	宇瓦	×	宇部	A	酸化	酸化	橙	一枚	×	－	－	－	粗	－	1		－	－	－	格	－	×	×	×	○	×	－	2.0	－	－	剣頭文。6に同笵か、笵傷。
8	15-10	男瓦	A	部分欠	A	酸化	軟～硬	橙	半截	－	－	－	○	－	－	2	2	－	－	○	－	－	○	○	○	○	○	－	2.0	14.2	32.8	端部のみ最終で轆轤調整。
9	16-11	男瓦	－	上半部	A	還酸	硬	灰白	半截	－	－	－	○	－	－	－	3	－	－	○	－	－	○	○	○	○	○	－	1.9	12.9	－	内面焼成燻り。
10	16-13	男瓦	B	玉周辺	A2	還元	硬	鈍黄橙	半截	S	－	－	○	－	－	－	2	－	－	○	－	－	○	○	○	○	○	－	1.3	－	－	
11	16-12	男瓦	A	玉周辺	A	酸還	硬	〃	半截	Z	－	－	○	－	－	－	2	－	－	○	－	－	○	－	－	○	○	－	2.1	13.3	－	
12	17-15	男瓦	A	玉周辺	A	還元	硬	黄灰	半截	S	－	－	○	－	－	－	3	－	－	○	－	－	○	－	－	○	○	－	2.5	14.0	－	
13	17-16	男瓦	A	玉周辺	A	還元	硬	黒灰	半截	〃	－	－	○	－	－	－	2	－	－	○	－	－	○	－	－	○	○	－	2.2	13.3	－	粘土版合わせ目。
14	17-17	男瓦	B	玉周辺	A	還元	還	黄灰	半截	Z	－	－	－	－	－	－	2	－	－	○	－	－	○	－	－	－	○	－	1.7	11.7	－	小振りの男瓦。
15	16-14	男瓦	B	玉周辺	A	還元	還	黄灰	半截	S	－	－	－	－	－	－	3	－	－	○	－	－	○	○	○	凸縦	○	○	1.8	11.8	－	
16	18-22	男瓦	－	端部	A	酸還	軟	黄灰	半截	Z	－	－	○	－	－	3	2	－	－	－	－	－	－	○	○	凸縦	－	－	2.3	13.1	－	
17	18-20	男瓦	－	端部中	A	酸化	並	橙	半截	S	－	－	○	－	－	－	4	－	－	－	－	－	－	○	○	凸縦	－	－	2.0	14.6	－	
18	17-18	男瓦	－	端部中	A	酸化	並	橙	半截	－	－	－	－	－	－	－	3	－	－	－	－	－	－	○	○	凸縦	－	－	2.3	14.5	－	
19	17-19	男瓦	－	端部中	A	還酸	並	灰白	半截	Z	－	－	○	－	－	－	4	－	－	○	－	－	－	○	○	凸縦	－	－	1.9	14.1	－	
20	18-21	男瓦	－	端部中	B	還元	締	褐灰	半截？	S	－	－	－	－	－	－	3	－	－	○	－	－	－	○	○	凸縦	－	－	1.7	11.9	－	
21	20-34	女瓦	×	側部左	A	酸化	並	橙	一枚	×	凹	○	－	細	細	－	2	◎	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	2.0	－	－	熨斗瓦用分割線有り。
22	18-23	女瓦	×	広端部	A	酸化	並	橙	一枚	×	両	○	－	細	細	－	3	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	1.8	24.3	－	
23	19-24	女瓦	×	広端部	C	還元	締	白灰	一枚	×	－	－	－	粗	粗	1	2	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	2.1	24.0	－	
24	19-25	女瓦	×	右半分	B	還酸	硬	灰白	一枚	×	－	○	○	細	細	1	3	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	1.4	－	31.9	
25	20-29	女瓦	×	広端左	A	還酸	並	灰白	一枚	×	－	○	－	粗	粗	1	3	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	1.9	－	－	
26	19-28	女瓦	×	広端左	C	還元	硬	白灰	一枚	×	凸	－	－	細	細	1	2	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	2.1	－	－	
27	19-27	女瓦	×	狭端右	A	酸化	並	橙	一枚	×	凹	－	○	細	細	1	2	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	1.6	－	－	
28	20-31	女瓦	×	広端左	A	還元	硬締	灰	一枚	×	凹	○	－	細	細	2	2	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	1.5	－	－	
29	19-26	女瓦	×	広端右	A	酸化	並	橙	一枚	×	－	－	－	粗	粗	1	2	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	1.6	－	－	
30	20-30	女瓦	×	広端左	A	還酸	硬	鈍黄橙	一枚	×	凹	○	－	細	細	1	2	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	1.5	－	－	
31	20-33	女瓦	×	広端左	A	酸還	硬	鈍黄橙	一枚	×	－	－	－	粗	粗	1	1	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	1.8	－	－	
32	20-32	女瓦	×	広端右	B	酸還	並	鈍黄橙	一枚	×	－	－	－	粗	粗	1	1	●	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	1.9	－	－	
33	21-36	女瓦	×	狭端左	A	酸化	並	橙	一枚	×	凹	－	－	粗	粗	1	2	－	－	－	格	－	×	×	×	○	×	－	2.5	－	－	叩きに笵傷がある。
34	21-37	女瓦	×	広端右	A	酸化	並	橙	一枚	×	凹	－	－	粗	粗	1	1	－	－	－	格	－	×	×	×	○	×	－	2.4	－	－	
35	21-38	女瓦	×	広端右	A	還酸	並	橙	一枚	×	凹	－	－	粗	粗	1	1	●	－	－	格	－	×	×	×	○	×	－	2.4	－	－	
36	21-35	女瓦	×	広端右	A	酸還	並	橙	一枚	×	凹	－	－	細	細	1	2	－	－	－	格	－	×	×	×	○	×	－	2.3	－	－	凹面に格子叩きが写る。
37	－	男瓦	A	玉周辺	A	酸化	並	橙	半截	S	－	－	－	－	－	－	2	－	－	○	－	－	○	－	－	－	○	－	2.3	－	－	
38	－	男瓦	A	玉周左	A	酸化	並	橙	半截	Z	－	－	○	－	－	－	2	－	－	○	－	－	○	－	－	－	○	－	1.8	－	－	
39	－	男瓦	A	玉周左	A	酸化	軟	橙	半截	Z	？	－	○	－	－	－	2	－	－	○	柾	－	－	－	－	縦	－	－	2.3	－	－	
40	－	男瓦	A	玉周左	A	酸化	軟	橙	半截	Z	－	－	○	－	－	－	2	－	－	○	－	－	○	－	－	－	○	－	2.4	－	－	
41	－	男瓦	A	玉周右	A	酸化	軟	橙	半截	－	－	－	○	－	－	－	3	－	－	○	－	－	○	－	○	－	○	－	2.0	－	－	
42	－	男瓦	A	玉周左	A	酸化	軟	橙	半截	－	－	－	○	－	－	－	2	－	－	○	－	－	○	－	－	－	－	－	2.0	－	－	
43	－	男瓦	A	玉周左	A	酸化	並	橙	半截	－	－	－	○	－	－	－	2	－	－	○	－	－	○	－	－	－	○	－	1.8	－	－	内外面燻。
44	－	男瓦	A	玉周右	A	還元	軟	白灰	半截	－	－	－	○	－	－	－	2	－	－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	1.8	－	－	
45	－	男瓦	A	玉縁	A	酸化	軟	鈍橙	半截	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	○	－	－	－	－	－	－	－	－	0.8	－	－	玉縁部分のみ。
46	－	男瓦	A	玉周左	A	酸化	軟	鈍黄橙	半截	Z	－	－	－	－	－	－	－	－	－	○	－	－	○	－	－	－	○	－	2.5	－	－	
47	－	男瓦	A	玉周右	A	還酸	軟	橙	半截	S	－	－	○	－	－	－	2	－	－	○	－	－	○	－	－	－	○	－	1.8	－	－	
48	－	男瓦	A	玉周右	A	酸化	軟	橙	半截	－	－	－	○	－	－	－	3	－	－	○	－	－	○	－	－	－	○	－	1.7	－	－	
49	－	男瓦	A	玉周左	A	酸化	軟	橙	半截	Z	－	－	○	－	－	－	2	－	－	○	－	－	○	－	－	－	○	－	1.8	－	－	
50	－	男瓦	A	玉周右	A	酸化	軟	橙	半截	－	－	－	○	－	－	－	2	－	－	○	－	－	○	－	－	－	○	－	1.8	－	－	
51	－	男瓦	A	玉周左	A	酸化	軟	橙	半截	S	－	－	○	－	－	－	2	－	－	○	－		○	－	－	－	○	－	2.3	－	－	
52	－	男瓦	A	玉周右	A	酸化	軟	橙	半截	Z	－	－	○	－	－	－	2	－	－	○	－		○	－	－	－	○	－	2.3	－	－	
53	－	男瓦	A	玉周左	A	酸化	軟	橙	半截	－	－	－	○	－	－	－	2	－	－	○	－		○	－	－	－	○	－	2.3	－	－	
54	－	男瓦	A	玉周左	A	還酸	軟	鈍黄橙	半截	S	－	－	○	－	－	－	2	－	－	○	－		○	－	－	－	○	－	2.5	－	－	

第９表　瓦観察表２　（瓦55～瓦110）

番号	図番号	瓦種	玉縁	部位	胎土	焼成炎	焼上	色調	成　形	合目	木骨	剥取痕		離砂		面取り		喰出	布目		叩き		整形				轆轤	釘	厚	幅	長	摘　要
												凸	凹	凸	凹	端	側		凸	凹	凸	凹	轆轤止	縄多	縄消	撫	再調	穴				
55	－	男瓦	A	玉周左	A	酸化	軟	鈍黄橙	半截	Z	－	－	○	－	－	－	3	－	－	○	－		○	－	－	－	○	－	1.8	－	－	
56	－	男瓦	A	玉周右	A	酸化	軟	鈍黄橙	半截	－	－	－	○	－	－	－	2	－	－	○	－		○	－	－	－	○	－	1.7	－	－	
57	－	男瓦	A	玉周右	A	酸化	軟	鈍黄橙	半截	S	－	－	○	－	－	－	2	－	－	○	－		○	－	○	縦	○	－	2.3	－	－	
58	－	男瓦	－	側部右	A	酸化	軟	鈍橙	半截	－	－	－	○	－	－	－	2	－	－	－	－		○	－	－	縦	○	－	1.4	－	－	
59	－	男瓦	－	側部左	A	酸化	軟	橙	半截	－	－	－	○	－	－	－	2	－	－	－	－		○	－	－	縦	○	－	1.7	－	－	
60	－	男瓦	－	側部右	A	酸化	軟	橙	半截	S	？	－	○	－	－	－	2	－	－	－	板		○	－	－	縦	○	－	2.3	－	－	
61	－	男瓦	－	側部右	A	酸化	軟	橙	半截	－	－	－	○	－	－	－	2	－	－	－	－		○	－	－	布か	○	－	2.1	－	－	
62	－	男瓦	－	側部右	A	還元	並	橙	半截	－	？	－	○	－	－	－	2	－	－	－	柾		－	－	－	縦	－	－	2.6	－	－	
63	－	男瓦	－	側部左	A	酸化	軟	橙	半截	S	－	－	○	－	－	－	2	－	－	－	－		－	－	－	縦	－	－	1.8	－	－	
64	－	男瓦	－	側部左	A	酸化	軟	橙	半截	S	－	－	○	－	－	－	3	－	－	－	－		－	－	－	縦	－	－	2.2	－	－	
65	－	男瓦	－	側部左	A	酸化	軟	橙	半截	－	－	－	○	－	－	－	2	－	－	－	－		－	－	－	縦	－	－	1.7	－	－	
66	－	男瓦	－	側部左	A	酸化	軟	橙	半截	－	－	－	○	－	－	－	2	－	－	－	－		－	－	－	縦	－	－	2.2	－	－	
67	－	男瓦	－	側部左	A	酸化	軟	鈍橙	半截	S	－	－	○	－	－	－	3	－	－	－	－		－	－	－	縦	－	－	2.0	－	－	
68	－	男瓦	－	側端右	A	酸化	軟	鈍橙	半截	－	？	－	○	－	－	2	3	－	－	－	板		－	－	－	縦	－	－	2.1	－	－	
69	－	男瓦	－	側部右	A	酸化	軟	橙	半截	－	－	－	○	－	－	－	2	－	－	－	－		－	－	－	縦	－	－	1.9	－	－	
70	－	男瓦	－	側部左	A	酸化	軟	橙	半截	－	－	－	○	－	－	－	2	－	－	－	－		－	－	－	縦	－	－	2.3	－	－	
71	－	男瓦	－	側部左	A	酸化	軟	橙	半截	－	？	－	○	－	－	－	2	－	－	－	柾		－	－	－	縦	－	－	2.2	－	－	
72	－	男瓦	－	側部右	A	酸化	軟	橙	半截	Z	－	－	○	－	－	－	－	－	－	－	－		－	－	－	縦	－	－	2.3	－	－	
73	－	男瓦	－	端部	A	酸化	軟	橙	半截	Z	－	－	○	－	－	－	－	－	－	－	－		－	－	－	縦	－	－	2.3	－	－	
74	－	男瓦	－	端部	A	酸化	軟	橙	半截	－	－	－	撫	－	－	－	－	－	－	－	－		－	－	－	縦	－	－	1.7	－	－	
75	－	男瓦	－	側部左	D	酸還	並	鈍橙	半截	－	－	－	○	－	－	－	2	－	－	－	－		○	－	－	－	○	－	2.5	－	－	
76	－	男瓦	－	側部左	A	酸還	軟	鈍橙	半截	ＳＺ	－	－	○	－	－	－	2	－	－	○	－		○	－	－	－	○	－	1.4	－	－	側部丸目。
77	－	男瓦	－	側部左	A	酸化	軟	橙	半截	－	－	－	○	－	－	－	2	－	－	－	－		－	－	－	縦	－	－	1.9	－	－	
78	－	男瓦	－	側部右	A	酸化	軟	橙	半截	－	－	－	○	－	－	2+α	3	－	－	－	－		○	－	－	－	○	－	1.6	－	－	広端轆轤再調整。
79	－	男瓦	－	側部右	A	酸化	軟	橙	半截	－	－	－	○	－	－	3	3	－	－	－	－		○	－	－	－	○	－	1.9	－	－	広端轆轤再調整。
80	－	男瓦	－	側部左	A	酸化	軟	橙	半截	S	－	－	○	－	－	－	2	－	－	○	－		－	－	－	縦篦	－	－	2.3	－	－	鐙瓦か。
81	－	男瓦	－	側端右	A	酸化	軟	橙	半截	Z	？	－	○	－	－	3	2	－	－	－	柾		－	－	－	縦篦	－	－	2.5	－	－	
82	－	男瓦	－	側端左	A	酸化	軟	橙	半截	〃	？	－	－	－	－	3	3	－	－	－	板		－	－	－	縦篦	－	－	2.5	－	－	側部丸目。
83	－	男瓦	－	側端左	A	酸化	軟	橙	半截	〃	？	－	○	－	－	3	2	－	－	－	柾		－	－	－	縦篦	－	－	2.3	－	－	
84	－	男瓦	－	側端左	A	還酸	軟	橙	半截	〃	？	－	○	－	－	3	3	－	－	－	板		－	－	－	縦篦	－	－	2.3	－	－	
85	－	男瓦	－	端部	A	還元	硬	褐灰	半截	〃	？	－	－	－	－	3	3	－	－	－	板		－	－	－	縦篦	－	－	2.1	13.3	－	
86	－	男瓦	－	側部左	A	還酸	硬	鈍橙	半截	〃	－	－	○	－	－	－	2	－	－	－	－		－	－	－	縦篦	－	－	2.0	－	－	
87	－	男瓦	－	端部	A	酸化	軟	橙	半截	〃	？	－	○	－	－	3	－	－	－	－	板		－	－	－	縦篦	－	－	2.5	－	－	
88	－	男瓦	－	側端左	A	還元	並	褐灰	半截	S	？	－	○	－	－	3	3	－	－	－	板		－	－	－	縦篦	－	－	1.8	－	－	
89	－	男瓦	－	側端左	A	還元	硬	褐灰	半截	－	？	－	○	－	－	2	2	－	－	－	板		－	－	－	縦篦	－	－	2.0	－	－	
90	－	男瓦	－	側端左	A	還元	硬	褐灰	半截	Z	？	－	○	－	－	3	5	－	－	－	板		－	－	－	縦篦	－	－	1.8	－	－	
91	－	男瓦	－	側端右	A	酸化	軟	橙	半截	－	？	－	○	－	－	4	2	－	－	－	板		－	－	－	縦篦	－	－	2.0	－	－	
92	－	男瓦	－	側端右	A	還元	硬	褐灰	半截	S	？	－	○	－	－	3	2	－	－	－	板		－	－	－	縦篦	－	－	2.0	－	－	側部丸目。
93	－	男瓦	A	上半	D	酸還	硬	鈍黄橙	半截	－	－	－	○	－	－	－	2	－	－	○	－		－	－	－	縦指	○	－	1.7	11.7	－	小振り。
94	－	男瓦	A	玉周右	D	酸化	硬	鈍黄橙	半截	－	－	－	○	－	－	－	2	－	－	○	－		○	－	－	－	○	－	1.7	－	－	小振り。
95	－	男瓦	A	玉周左	A	酸還	硬	鈍黄橙	半截	S	－	－	－	－	－	－	2	－	－	○	－		○	－	－	－	○	－	1.7	－	－	
96	－	男瓦	A	玉周左	D	酸化	硬	白灰	半截	－	－	－	－	－	－	－	3	－	－	○	－		○	－	－	－	○	－	1.6	－	－	
97	－	男瓦	A	玉周左	B	還元	硬	褐灰	半截	－	－	－	○	－	－	－	2	－	－	○	－		○	－	－	－	○	－	1.8	－	－	
98	－	男瓦	－	玉周左	A	還酸	硬	灰黄褐	半截	Z	－	－	○	－	－	－	3	－	－	○	－		○	－	－	－	○	－	2.4	－	－	
99	－	男瓦	A	玉周左	A	酸還	並	橙	半截	－	－	－	－	－	－	－	3	－	－	○	－		－	－	－	－	－	－	2.3	－	－	
100	－	男瓦	A	玉周左	A	酸化	軟	鈍黄橙	半截	Z	－	－	－	－	－	－	3	－	－	○	－		○	－	－	－	○	－	1.9	－	－	
101	－	男瓦	A	玉周右	B	還酸	硬	鈍黄橙	半截	Z	－	－	○	－	－	－	2	－	－	○	－		○	－	－	－	○	－	2.0	－	－	
102	－	男瓦	A	玉周右	A	酸還	並	橙	半截	－	－	－	○	－	－	－	2	－	－	○	－		－	－	－	縦	－	－	2.7	－	－	
103	－	男瓦	A	玉周左	A	酸還	並	褐灰	半截	Z	－	－	○	－	－	－	2	－	－	○	－		○		○	縦	○	－	1.8	－	－	
104	－	男瓦	A	玉周左	A	酸還	並	褐灰	半截	Z	－	－	○	－	－	－	2	－	－	○	－		○		○	縦	○	－	1.8	－	－	
107	－	男瓦	－	端部右	B	酸還	硬	鈍黄橙	半截	Z	？	－	○	－	－	2	2	－	－	○	板		－		○	縦	－	－	1.9	－	－	大粒の礫(Qt質)。
108	－	男瓦	A	玉周左	B	酸還	硬	褐灰	半截	S	－	－	○	－	－	－	2	－	－	○	－		○		○	縦	○	－	1.4	－	－	
109	－	男瓦	－	側部左	B	酸還	硬	褐灰	半截	S	？	－	○	－	－	－	2	－	－	○	板		○		○	縦	○篦	－	1.3	－	－	
110	－	男瓦	－	側部右	B	酸還	硬	褐灰	半截	Z	－	－	○	－	－	－	3	－	－	－	－		○		○	縦	○	－	1.4	－	－	

第10表　瓦観察表３　（瓦111～瓦164）

番号	図番号	瓦種	玉縁	部位	胎土	焼成炎	焼上	色調	成　形	合目	木骨	剥取痕		離砂		面取り		喰出	布目		叩き		整形				轆轤	釘	厚	幅	長	摘　要
												凸	凹	凸	凹	端	側		凸	凹	凸	凹	轆轤止	縄多	縄消	撫	再調	穴				
111	－	男瓦	－	側部左	A	酸還	硬	褐灰	半截	－	？	－	○	－	－	－	1	－	－	－	柾		－		○	縦	－	－	1.9	－	－	面取1。側部丸目。
112	－	男瓦	－	端部中	B	酸還	硬	褐灰	半截	－	？	－	○	－	－	2	－	－	－	－	板		－		○	縦	－	－	1.4	－	－	
113	－	男瓦	－	端部右	B	酸還	硬	褐灰	半截	Z	？	－	○	－	－	2	3	－	－	○	板		－		○	縦	－	－	2.2	－	－	瓦114が接合。
114		男瓦																											0.0			瓦113が接合。
115	－	男瓦	－	側部右	A	還元	硬	褐灰	半截	S	－	－	○	－	－	－	2	－	－	○	－		－		○	縦	－	－	1.7	－	－	
116	－	男瓦	－	側部左	A	還元燻	並	黒褐	半截	Z	？	－	○	－	－	－	4	－	－	－	板		－		○	縦	－	－	1.9	－	－	側部丸目。
117	－	男瓦	－	側部右	A	酸化	軟	灰黄	半截	S	？	－	○	－	－	－	3	－	－	－	板		－		○	縦	－	－	2.0	－	－	
118	－	男瓦	－	側部左	A	還酸	軟	褐灰	半截	Z	？	－	○	－	－	－	3	－	－	－	板		－		○	縦	－	－	2.0	－	－	
119	－	男瓦	－	側部左	A	還酸	軟	鈍黄橙	半截	－	？	－	○	－	－	－	3	－	－	－	板		○		○	縦	○	－	1.7	－	－	
120	－	男瓦	－	側部左	A	還酸	軟	鈍黄橙	半截	－	－	－	○	－	－	－	4	－	－	○	－		○		○	縦	○	－	1.7	－	－	
121	－	男瓦	－	側部左	A	還酸	軟	鈍黄橙	半截	－	？	－	○	－	－	－	3	－	－	－	柾		－		○	縦	－	－	2.1	－	－	
122	－	男瓦	－	側部左	A	還酸	軟	鈍黄橙	半截	Z	？	－	○	－	－	－	2	－	－	○	板		－		○	縦	－	－	2.3	－	－	
123	－	男瓦	A	玉周左	A	酸還	軟	鈍黄橙	半截	－	－	－	○	－	－	－	3	－	－	○	－		○		○	縦	○	－	2.3	－	－	
124	－	男瓦	A	玉周右	A	酸還	軟	鈍黄橙	半截	Z	？	－	○	－	－	－	－	－	－	○	柾		○		○	縦	○	－	2.6	－	－	
125	－	男瓦	A	玉周左	A	酸化	軟	鈍黄橙	半截	Z	－	－	○	－	－	－	3	－	－	○	－		○		○	－	○	－	1.8	－	－	
126	－	男瓦	A	玉周右	A	酸化	軟	鈍黄橙	半截	Z	－	－	○	－	－	－	3	－	－	○	－		○		○	－	○	－	2.1	－	－	
127	－	男瓦	A	玉周左	A	酸化	軟	鈍黄橙	半截	－	－	－	○	－	－	－	3	－	－	○	－		○		○	縦	○	－	2.0	－	－	
128	－	男瓦	A	玉周左	A	酸化	軟	鈍黄橙	半截	－	－	－	○	－	－	－	3	－	－	○	－		○		○	縦	○	－	2.0	－	－	
129	－	男瓦	－	側部左	A	酸化	軟	鈍黄橙	半截	Z	？	－	○	－	－	－	3	－	－	○	板		－		○	縦	－	－	2.3	－	－	側部丸目。
130	－	男瓦	A	側部右	A	酸化	軟	鈍黄橙	半截	S？	－	－	○	－	－	－	2	－	－	○	－		○		○	縦	○	－	2.4	－	－	
131	－	男瓦	A	玉周右	A	酸化	軟	鈍黄橙	半截	S	－	－	○	－	－	－	4	－	－	○	－		○		○	縦	○	－	2.1	－	－	
132	－	男瓦	A	側部左	A	酸化	軟	鈍黄橙	半截	Z	？	－	○	－	－	－	4	－	－	－	板		○		○	縦	○	－	1.9	－	－	
133	－	男瓦	A	玉周左	A	酸化	軟	鈍黄橙	半截	－	－	－	○	－	－	－	3	－	－	○	－		○		○	縦	○	－	2.1	－	－	
134	－	男瓦	－	側部左	A	酸化	軟	鈍黄橙	半截	S	？	－	○	－	－	－	3	－	－	○	柾		－		○	縦	－	－	2.2	－	－	
135	－	男瓦	－	側部左	A	酸化	軟	鈍黄橙	半截	S	？	－	○	－	－	－	3	－	－	－	柾		○		○	縦	○	－	2.3	－	－	
136	－	男瓦	－	側部右	A	酸化	軟	鈍黄橙	半截	Z	－	－	○	－	－	－	3	－	－	○	－		○		○	縦	○	－	2.2	－	－	
137	－	男瓦	－	端部左	A	酸還	軟	鈍黄橙	半截	Z	－	－	○	－	－	4	3	－	－	○	柾		－		○	縦	－	－	2.8	－	－	木理が細かい。
138	－	男瓦	－	側部右	A	酸化	軟	鈍黄橙	半截	－	－	－	○	－	－	－	3	－	－	－	－		－		○	縦	－	－	1.7	－	－	
139	－	男瓦	－	端部右	A	酸化	軟	鈍黄橙	半截	Z	？	－	○	－	－	3	3	－	－	－	柾		－		○	縦	－	－	1.8	－	－	
140	－	男瓦	－	側部左	A	還酸	軟	鈍黄橙	半截	S	－	－	○	－	－	－	4	－	－	－	－		－		○	縦	－	－	2.3	－	－	
141	－	男瓦	－	側部左	A	酸化	軟	鈍黄橙	半截	Z	－	－	○	－	－	－	3	－	－	－	－		－		○	縦	－	－	1.9	－	－	
142	－	男瓦	－	側部右	A	酸化	軟	鈍橙	半截	－	－	－	○	－	－	－	3	－	－	－	－		－		○	縦	－	－	1.6	－	－	
143	－	男瓦	－	側部左	A	酸化	軟	橙	半截	S	－	－	○	－	－	－	2	－	－	－	－		－		○	縦	－	－	2.0	－	－	
144	－	男瓦	－	側部右	A	酸化	並	鈍橙	半截	S	－	－	○	－	－	－	2	－	－	－	－		－		○	縦	－	－	1.9	－	－	
145	－	男瓦	－	端部左	A	酸還	並	褐灰	一枚？	－	？	－	○	－	－	3	3+α	－	－	○	板		－		○	縦	－	－	1.9	－	－	側部丸く撫で整形されている。
146	－	男瓦	－	端部左	A	酸化	軟	橙	半截	－	？	－	○	－	－	3	2+α	－	－	－	板		－		○	縦	－	－	1.7	－	－	側部丸く撫で整形されている。
147	－	男瓦	－	側部左	A	酸化	軟	橙	半截	－	－	－	○	－	－	－	4	－	－	－	－		－		○	縦	－	－	2.3	－	－	
148	－	男瓦	－	体部	A	酸化	軟	橙	半截	－	？	－	○	－	－	－	－	－	－	－	板		－		○	縦	－	－	2.2	－	－	
149	－	男瓦	－	側部右	A	酸化	軟	橙	一枚？	－	－	－	○	－	－	－	2	－	－	－	－		－		○	縦	－	－	2.0	－	－	側部丸く撫で整形されている。
150	－	男瓦	－	側部右	A	酸化	軟	橙	一枚？	－	？	－	－	－	－	3	2	－	－	－	板		－		○	縦	－	－	2.3	－	－	
151	－	男瓦	－	体部	A	酸化	軟	橙	半截	－	？	－	○	－	－	－	3	－	－	－	板	－	－		○	縦	－	－	1.8	－	－	側部丸く撫で整形されている。
152	－	男瓦	－	端部左	A	酸化	軟	鈍橙	半截	Z	？	－	○	－	－	3	－	－	－	－	板	－	－		○	縦	－	－	2.0	－	－	
153	－	男瓦	－	端部中	A	還酸	並	灰白	半截	－	？	－	○	－	－	4	－	－	－	－	板	－	－		－	縦	－	－	2.2	－	－	
154	－	男瓦	－	側部左	A	還酸	軟	灰黄	半截	－	－	－	○	－	－	－	2	－	－	－	－	－	－		○	縦	－	－	1.9	－	－	側部丸く撫で整形されている。
155	－	男瓦	－	側部左	A	酸還	軟	鈍黄橙	半截	S1	－	－	○	－	－	－	2	－	－	－	－	－	－		○	縦	－	－	1.9	－	－	
156	－	男瓦	－	側部左	A	酸還	軟	鈍橙	半截	－	－	－	○	－	－	－	3	－	－	○	－	－	－		○	縦	－	－	1.8	－	－	内外面黒色燻。
157	－	男瓦	－	側部左	A	酸還	軟	鈍橙	半截	S	－	－	○	－	－	－	2	－	－	○	－	－	－		○	縦	－	－	2.2	－	－	
158	－	男瓦	－	側部左	A	還酸	並	灰白	半截	Z1	？	－	－	－	－	－	3	－	－	－	板	－	－		○	－	－	－	1.7	－	－	
159	－	男瓦	－	側部左	A	還酸	硬	灰白	半截	Z1	－	－	○	－	－	－	4	－	－	－		－	－		○	縦	－	－	2.2	－	－	
160	－	男瓦	－	端部左	C	還元	硬	灰白	半截	Z	？	－	○	－	－	2	2	－	－	○	板	－	－		○	－	－	－	1.8	－	－	
161	－	男瓦	－	側部左	C	還元	硬	黄灰	半截	－	？	－	○	－	－	－	3	－	－	－	板	－	－		○	縦	－	－	2.0	－	－	
162	－	男瓦	－	側部左	A	酸化	軟	橙	半截	－	－	－	○	－	－	－	5	－	－	－	－	－	－		○	縦	－	－	2.0	－	－	
163	－	男瓦	－	側部左	A	還酸	硬	黄灰	半截	－	？	－	○	－	－	－	3	－	－	○	板	－	－		○	縦	－	－	2.0	－	－	
164	－	男瓦	－	側部左	C	還元	硬	灰白	半截	－	－	－	○	－	－	－	3	－	－	○	－	－	－		○	縦	－	－	2.0	－	－	

第11表　瓦観察表４　（瓦165～瓦218）

番号	図番号	瓦種	玉縁	部位	胎土	焼成炎	焼上	色調	成　形	合目	木骨	剥取痕		離砂		面取り		喰出	布目		叩き		整形				轆轤	釘	厚	幅	長	摘　要
												凸	凹	凸	凹	端	側		凸	凹	凸	凹	轆轤止	縄多	縄消	撫	再調	穴				
165	－	女瓦	×	狭端左	A	酸化	軟	橙	一枚	－	－	○	－	細	細	3	1	－	－	－	格	－	×	×	×	－	×	－	2.1	－	－	
166	－	女瓦	×	狭端中	A	酸化	軟	橙	一枚	－	?	○	－	細	細	2	－	－	－	－	格	－	×	×	×	－	×	－	2.4	－	－	
167	－	女瓦	×	狭端左	A	酸化	軟	橙	一枚	－	－	－	－	細	細	2	1	◎	－	－	格	－	×	×	×	○	×	－	2.3	－	－	
168	－	女瓦	×	狭端左	A	還酸	軟	橙	一枚	－	－	－	－	細	細	1+	2	－	－	－	格	－	×	×	×	○	×	－	2.3	－	－	
169	－	女瓦	×	狭端右	A	酸化	軟	橙	一枚	－	－	－	－	細	細	2	1	－	－	－	格	－	×	×	×	○	×	－	2.3	－	－	
170	－	女瓦	×	広端右	A	酸還	並	灰黄褐	一枚	－	－	－	－	細	細	2	1	－	－	－	格	－	×	×	×	○	×	－	2.3	－	－	
171	－	女瓦	×	広端右	A	酸還	並	灰黄褐	一枚	－	?	－	－	細	細	2	1	●	－	－	格	－	×	×	×	○	×	－	2.1	－	－	
172	－	女瓦	×	広端右	A	還酸	並	鈍黄橙	一枚	－	－	－	－	細	細	2	1	－	－	－	格	－	×	×	×	○	×	－	2.1	－	－	
173	－	女瓦	×	広端右	A	酸化	軟	橙	一枚	－	－	－	－	細	細	3	2	－	－	－	格	－	×	×	×	○	×	－	2.3	－	－	表裏面黒色燻。
174	－	女瓦	×	広端中	A	酸化	軟	橙	一枚	－	－	－	－	細	細	2	－	－	－	－	格	－	×	×	×	○	×	－	1.7	－	－	
175	－	女瓦	×	狭端中	A	還酸	並	灰黄褐	一枚	－	－	－	－	細	細	1	－	－	－	－	格	－	×	×	×	○	×	－	2.0	－	－	
176	－	女瓦	×	側端左	A	還酸	並	灰黄褐	一枚	－	－	－	－	細	細	1	2	－	－	－	格	－	×	×	×	○	×	－	2.1	－	－	
177	－	女瓦	×	側端右	A	還酸	並	褐灰	一枚	－	?	－	－	細	細	1	2	●	－	－	格	－	×	×	×	○	×	－	2.3	－	－	
178	－	女瓦	×	狭端中	A	還酸	並	褐灰	一枚	－	－	－	－	細	細	1	－	－	－	－	格	－	×	×	×	○	×	－	1.8	－	－	
179	－	女瓦	×	側端右	A	酸還	並	橙	一枚	－	?	○	○	細	細	2	2	●	－	－	格	－	×	×	×	○	×	－	1.9	－	－	
180	－	女瓦	×	側端左	A	還酸	並	灰白	一枚	－	－	－	－	細	細	1	2	－	－	－	格	－	×	×	×	○	×	－	1.9	－	－	熨斗瓦用分割線有り。
181	－	女瓦	×	側部右	A	還酸	硬	褐灰	一枚	－	－	－	－	細	－	－	2	－	－	－	格	－	×	×	×	○	×	－	1.8	－	－	
182	－	女瓦	×	端部中	A	酸還	並	橙	一枚	－	－	○	－	細	細	1	－	－	－	－	格	－	×	×	×	○	×	－	1.6	－	－	
183	－	女瓦	×	側端右	A	還元	硬	灰	一枚	－	?	－	－	細	細	1	1	－	－	－	格	－	×	×	×	○	×	－	1.8	－	－	
184	－	女瓦	×	端部中	A	酸化	軟	橙	一枚	－	?	－	－	細	－	2	－	－	－	－	格	－	×	×	×	○	×	－	2.0	－	－	
185	－	女瓦	×	端部中	A	酸化	軟	橙	一枚	－	－	－	－	細	－	1	－	－	－	－	格	－	×	×	×	○	×	－	1.9	－	－	
186	－	女瓦	×	端部中	A	酸化	軟	橙	一枚	－	－	－	－	細	－	1	－	－	－	－	格	－	×	×	×	○	×	－	1.8	－	－	
187	－	女瓦	×	側端右	A	還元	硬	灰	一枚	－	－	○	○	細	－	1	2	●	－	－	格	－	×	×	×	○	×	－	1.9	－	－	
188	－	女瓦	×	側端左	A	還元	硬	灰	一枚	－	－	－	－	細	－	1	2	－	－	－	格	－	×	×	×	○	×	－	2.0	－	－	
189	－	女瓦	×	側端右	A	酸還	軟	灰黄褐	一枚	－	－	－	－	細	細	1	2	●	－	－	格	－	×	×	×	○	×	－	1.6	－	－	
190	－	女瓦	×	端部中	A	還酸	硬	灰	一枚	－	－	－	－	細	－	1	－	－	－	－	格	－	×	×	×	○	×	－	2.0	－	－	
191	－	女瓦	×	側部右	A	酸還	並	鈍黄橙	一枚	－	?	－	－	細	細	－	2	○	－	－	格	－	×	×	×	○	×	－	2.3	－	－	
192	－	女瓦	×	側部右	A	還元	硬	灰黄	一枚	－	?	－	－	細	細	－	2	○	－	－	格	－	×	×	×	○	×	－	2.3	－	－	
193	－	女瓦	×	側部右	A	還元	並	灰白	一枚	－	－	○	－	細	細	－	2	－	－	－	格	－	×	×	×	○	×	－	1.8	－	－	
194	－	女瓦	×	側部左	A	酸還	軟	灰黄	一枚	－	－	－	－	細	細	－	2	－	－	－	格	－	×	×	×	○	×	－	2.1	－	－	
195	－	女瓦	×	側部右	A	酸還	並	鈍黄橙	一枚	－	－	－	－	細	細	－	2	◎	－	－	格	－	×	×	×	○	×	－	1.9	－	－	
196	－	女瓦	×	側部右	A	酸化	軟	橙	一枚	－	?	－	－	細	－	－	2	●	－	－	格	－	×	×	×	○	×	－	2.2	－	－	
197	－	女瓦	×	体部	A	酸化	軟	橙	一枚	－	－	－	－	細	細	－	－	－	－	－	格	－	×	×	×	○	×	－	2.3	－	－	
198	－	女瓦	×	側部右	A	酸化	軟	橙	一枚	－	－	－	－	細	細	－	2	○	－	－	格	－	×	×	×	○	×	－	1.9	－	－	
199	－	女瓦	×	体部	A	酸化	軟	橙	一枚	－	－	－	－	細	細	－	－	－	－	－	格	－	×	×	×	○	×	－	2.4	－	－	
200	－	女瓦	×	体部	A	酸化	軟	橙	一枚	－	－	○	－	細	細	－	－	－	－	－	格	－	×	×	×	○	×	－	1.8	－	－	
201	－	女瓦	×	体部	A	還酸	並	灰	一枚	－	－	－	－	粗	粗	－	－	－	－	－	格	－	×	×	×	○	×	－	2.0	－	－	
202	－	女瓦	×	体部	A	酸化	軟	橙	一枚	－	－	○	○	細	細	－	－	－	－	－	格	－	×	×	×	○	×	－	1.8	－	－	
203	－	女瓦	×	側狭左	A	酸還	硬	橙	一枚	－	?	－	－	細	細	2	1	●	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	2.1	－	－	
204	－	女瓦	×	側広左	A	還元	硬	黄灰	一枚	－	?	○	○	細	細	2	1	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	1.7	－	－	
205	－	女瓦	×	側広左	A	酸還	並	橙	一枚	－	?	○	○	細	細	2	1	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	2.0	－	－	
206	－	女瓦	×	側広右	A	酸還	締	灰	一枚	－	?	○	－	粗	粗	2	1	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	2.1	－	－	
207	－	女瓦	×	側広左	A	酸化	軟	鈍黄橙	一枚	－	－	－	－	細	細	2	1	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	1.9	－	－	側部上角を丸く成形。
208	－	女瓦	×	側広左	A	酸還	軟	鈍黄橙	一枚	－	－	－	－	細	細	2	1	○	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	2.0	－	－	
209	－	女瓦	×	側広左	A	還元	硬	灰白	一枚	－	?	－	○	細	－	3	1	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	1.7	－	－	
210	－	女瓦	×	側広左	A	酸還	締	灰	一枚	－	－	－	－	細	細	2	1	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	2.0	－	－	
211	－	女瓦	×	側広左	A	酸還	並	灰白	一枚	－	－	－	－	細	細	2	1	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	1.7	－	－	
212	－	女瓦	×	側広右	A	酸化	並	鈍黄橙	一枚	－	－	－	○	細	細	2	1	●	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	2.1	－	－	
213	－	女瓦	×	側広右	A	酸化	並	灰褐	一枚	－	－	－	－	細	細	2	2	●	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	1.3	－	－	
214	－	女瓦	×	側狭右	A	還元	硬	灰	一枚	－	－	－	－	－	－	1	2	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	1.9	－	－	
215	－	女瓦	×	側部右	A	酸化	軟	橙	一枚	－	－	－	○	－	細	－	2	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	0.8	－	－	厚：0.8～1.7。
216	－	女瓦	×	側狭左	A	還元	締	鈍黄橙	一枚	－	－	－	－	粗	粗	2	2	●	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	1.9	－	－	
217	－	女瓦	×	側広右	A	酸還	硬	灰	一枚	－	－	－	－	粗	粗	2	1	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	1.3	－	－	
218	－	女瓦	×	側狭左	A	酸還	硬	褐灰	一枚	－	－	－	－	粗	－	2	2	●	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	1.9	－	－	

第12表　瓦観察表５　（瓦219～瓦272）

番号	図番号	瓦種	玉縁	部位	胎土	焼成炎	焼上	色調	成　形	合目	木骨	剥取痕		離砂		面取り		喰出	布目		叩き		整形				轆轤	釘	厚	幅	長	摘　要
												凸	凹	凸	凹	端	側		凸	凹	凸	凹	轆轤止	縄多	縄消	撫	再調	穴				
219	－	女瓦	×	側狭左	A	酸還	軟	灰	一枚	－	－	－	－	細	細	2	2	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	2.3	－	－	
220	－	女瓦	×	側広左	A	還元	硬	黄灰	一枚	－	－	－	－	細	－	2	1	○	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	1.7	－	－	
221	－	女瓦	×	側狭右	A	還酸	硬	黄灰	一枚	－	－	－	－	細	細	1	2	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	2.2	－	－	
222	－	女瓦	×	側狭右	A	酸化	硬	橙	一枚	－	？	○	－	細	細	2	2	●	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	1.6	－	－	
223	－	女瓦	×	側狭右	A	還元	締	灰	一枚	－	－	○	－	細	細	2	2	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	1.9	－	－	
224	－	女瓦	×	広端中	A	還元	締	灰	一枚	－	？	○	○	細	細	3	－	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	2.2	－	－	
225	－	女瓦	×	側狭右	A	還元	硬	灰	一枚	－	？	－	－	細	細	1	1	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	1.8	－	－	
226	－	女瓦	×	側狭右	A	還元	硬	黄灰	一枚	－	－	－	－	細	細	3	1	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	2.0	－	－	
227	－	女瓦	×	側広右	A	還酸	硬	黄灰	一枚	－	－	－	○	粗	粗	2	2	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	1.8	－	－	
228	－	女瓦	×	広端中	A	還元	硬	黄灰	一枚	－	－	－	○	細	細	－	3	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	1.8	－	－	
229	－	女瓦	×	側広右	A	還元	硬	暗灰	一枚	－	○	－	○	細	細	2	1	●	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	1.8	－	－	
230	－	女瓦	×	側広右	A	酸還	並	鈍橙	一枚	－	○	○		細	細	2	2	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	2.1	－	－	写真。
231	－	女瓦	×	広端中	A	還酸	硬	褐灰	一枚	－	－	－	－	粗	粗	2	－	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	1.8	－	－	後端か。
232	－	女瓦	×	側広左	A	還酸	並	褐灰	一枚	－	－	－	－	粗	粗	2	2	◎	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	2.2	－	－	
233	－	女瓦	×	側広右	A	酸化	並	鈍橙	一枚	－	－	－	－	粗	－	2	1	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	2.2	－	－	
234	－	女瓦	×	広端中	A	酸還	並	鈍橙	一枚	－	－	－	－	粗	粗	2	－	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	1.8	－	－	
235	－	女瓦	×	側広右	A	還酸	並	褐灰	一枚	－	－	－	○	細	細	2	1	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	2.1	－	－	
236	－	女瓦	×	側広左	A	還元	締	黄灰	一枚	－	－	○	－	粗	粗	2	1	●	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	1.9	－	－	
237	－	女瓦	×	側広左	A	還酸	並	鈍橙	一枚	－	－	－	－	粗	粗	2	2	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	2.3	－	－	
238	－	女瓦	×	側広左	A	酸還	並	褐灰	一枚	－	－	－	－	粗	－	2	1	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	2.0	－	－	
239	－	女瓦	×	側広右	A	還元	締	褐灰	一枚	－	○	－	－	細	－	3	－	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	2.0	－	－	
240	－	女瓦	×	側広右	A	還元	締	褐灰	一枚	－	－	－	－	粗	－	1	1	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	1.8	－	－	後端。
241	－	女瓦	×	側広右	A	酸還	締	褐灰	一枚	－	－	－	－	粗	粗	2	2	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	2.5	－	－	
242	－	女瓦	×	側広左	A	還酸	硬	鈍黄橙	一枚	－	－	－	－	粗	－	2	1	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	2.1	－	－	
243	－	女瓦	×	側広左	A	酸化	軟	橙	一枚	－	－	－	－	粗	－	1	2	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	1.7	－	－	後端。
244	－	女瓦	×	側広左	A	酸還	軟	橙	一枚	－	－	○	－	粗	粗	1	2	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	2.8	－	－	
245	－	女瓦	×	狭端中	A	酸還	軟	橙	一枚	－	－	－	－	細	細	2	－	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	2.1	－	－	
246	－	女瓦	×	側狭左	A	酸化	軟	橙	一枚	－	－	－	－	粗	粗	1	－	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	2.0	－	－	後端。瓦313と接合。
247	－	女瓦	×	狭端中	A	酸化	軟	橙	一枚	－	？	－	－	粗	粗	2	－	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	2.0	－	－	後端か。
248	－	女瓦	×	側広左	A	還酸	軟	鈍黄橙	一枚	－	－	○	－	粗	粗	2	2	●	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	1.8	－	－	台の割れ目か木骨の継ぎ目。
249	－	女瓦	×	側狭左	A	酸化	軟	橙	一枚	－	－	－	－	細	細	2	2	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	2.5	－	－	
250	－	女瓦	×	狭端中	A	酸化	軟	橙	一枚	－	－	－	○	粗	粗	2	－	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	1.8	－	－	後端か。
251	－	女瓦	×	広端中	A	還酸	軟	灰白	一枚	－	－	－	－	粗	粗	2	－	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	2.0	－	－	
252	－	女瓦	×	側狭右	A	還酸	硬	〃	一枚	－	－	○	○	細	細	2	1	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	2.7	－	－	狭端。
253	－	女瓦	×	側狭右	A	酸化	並	鈍黄橙	一枚	－	－	－	－	細	細	1	2	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	1.6	－	－	
254	－	女瓦	×	側狭右	A	還元	硬	明褐灰	一枚	－	－	○	○	細	細	1	1	○	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	1.4	－	－	
255	－	女瓦	×	側狭右	A	酸還	軟	鈍黄橙	一枚	－	－	○	○	細	細	1	2	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	1.7	－	－	
256	－	女瓦	×	側広左	A	酸化	軟	鈍黄橙	一枚	－	－	○	－	粗	粗	1	2	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	2.0	－	－	
257	－	女瓦	×	側広右	A	酸還	硬	鈍黄橙	一枚	－	？	－	－	細	細	1	3	○	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	1.5	－	－	
258	－	女瓦	×	狭端中	A	酸化	軟	鈍黄橙	一枚	－	－	－	－	細	細	1	－	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	1.5	－	－	
259	－	女瓦	×	狭端中	A	酸化	並	鈍橙	一枚	－	－	－	○	細	－	1	－	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	1.9	－	－	
260	－	女瓦	×	側狭左	A	還酸	並	灰白	一枚	－	－	－	－	細	細	2	1	●	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	1.8	－	－	
261	－	女瓦	×	側狭左	A	酸化	並	鈍黄橙	一枚	－	－	－	－	細	細	1	3	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	1.5	－	－	
262	－	女瓦	×	側広右	A	還元	並	灰白	一枚	－	－	－	○	細	細	1	1	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	1.9	－	－	
263	－	女瓦	×	側狭左	A	還酸	硬	灰白	一枚	－	凸	－	－	細	細	1	2	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	2.1	－	－	
264	－	女瓦	×	側狭左	A	還元	硬	褐灰	一枚	－	－	－	－	－	－	1	2	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	1.5	－	－	
265	－	女瓦	×	側広左	A	酸化	並	橙	一枚	－	－	－	○	－	細	－	3	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	1.4	－	－	
266	－	女瓦	×	側狭右	A	酸化	並	〃	一枚	－	－	－	－	粗	粗	1	2	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	1.6	－	－	
267	－	女瓦	×	側広左	A	酸化	硬	鈍黄橙	一枚	－	－	－	－	粗	粗	1	2	○	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	1.4	－	－	
268	－	女瓦	×	側広左	A	酸化	軟	橙	一枚	－	○	－	－	粗	－	1	2	●	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	2.0	－	－	
269	－	女瓦	×	狭端中	A	還元	並	灰白	一枚	－	？	－	－	細	細	1	－	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	1.4	－	－	
270	－	女瓦	×	側広右	A	還元	並	灰白	一枚	－	－	－	－	細	－	1	3	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	1.8	－	－	
271	－	女瓦	×	側狭右	A	還酸	並	灰白	一枚	－	－	－	－	細	細	1	2	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	2.0	－	－	
272	－	女瓦	×	狭端中	A	還元	並	灰白	一枚	－	－	○	－	細	細	1	－	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	1.8	－	－	

第13表　瓦観察表６　（瓦273～瓦325）

番号	図番号	瓦種	玉縁	部位	胎土	焼成炎	焼上	色調	成　形	合目	木骨	剥取痕		離砂		面取り		喰出	布目		叩き		整形				轆轤	釘	厚	幅	長	摘　要
												凸	凹	凸	凹	端	側		凸	凹	凸	凹	轆轤止	縄多	縄消	撫	再調	穴				
273	－	女瓦	×	広端中	A	酸化	並	橙	一枚	－	－	○	－	細	細	1	2	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	1.6	－	－	
274	－	女瓦	×	狭端中	A	還元	並	灰白	一枚	－	？	○	○	細	細	1	－	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	1.7	－	－	
275	－	女瓦	×	側広左	A	還元	硬	灰白	一枚	－	？	－	－	細	細	1	2	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	1.8	－	－	
276	－	女瓦	×	側広左	A	還元	硬	灰白	一枚	－	－	－	－	細	細	1	3	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	1.5	－	－	
277	－	女瓦	×	側狭右	A	還酸	軟	灰白	一枚	－	－	－	○	粗	粗	1	1	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	1.7	－	－	瓦281と接合。
278	－	女瓦	×	側広右	A	還酸	硬	灰白	一枚	－	－	－	○	細	細	1	2	△	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	1.6	－	－	
279	－	女瓦	×	側狭左	A	還酸	硬	褐灰	一枚	－	－	－	○	細	細	1	1	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	1.5	－	－	
280	－	女瓦	×	側狭右	A	酸還	並	鈍黄橙	一枚	－	－	○		細	細	1	1	○	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	1.8	－	－	
281																			－	－									0.0			瓦277と接合。
282	－	女瓦	×	側広左	A	還酸	硬	鈍黄橙	一枚	－	－	－	－	粗	粗	1	1	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	1.7	－	－	
283	－	女瓦	×	狭端中	A	還元	硬	鈍黄橙	一枚	－	－	－	－	粗	－	1	－	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	1.4	－	－	
284	－	女瓦	×	側広右	A	還元	硬	褐灰	一枚	－	？	－	－	粗	粗	2	2	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	2.1	－	－	
285	－	女瓦	×	体部	A	還元	硬	灰白	一枚	－	－	－	○	細	細	1	－	●	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	1.3	－	－	
286	－	女瓦	×	側狭右	A	還元	軟	橙	一枚	－	－	○	－	粗	粗	1	1	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	2.3	－	－	
287	－	女瓦	×	側狭左	A	還元	締	灰褐	一枚	－	○	－	－	粗	粗	2	2	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	1.8	－	－	
288	－	女瓦	×	側広左	A	還元	並	鈍黄橙	一枚	－	－	－	－	粗	－	1	2	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	1.8	－	－	
289	－	女瓦	×	体部	A	還元	硬	灰褐	一枚	－	－	－	－	細	－	1+	－	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	0.9+α	－	－	
290	－	女瓦	×	側広左	A	還元	硬	灰褐	一枚	－	－	－	－	粗	－	1	1	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	1.6	－	－	
291	－	女瓦	×	側狭右	A	還元	並	灰褐	一枚	－	－	－	－	粗	粗	1	1	●	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	1.3	－	－	
292	－	女瓦	×	端部	A	還元	並	鈍黄橙	一枚	－	－	－	－	粗	－	1+	－	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	2.1	－	－	
293	－	女瓦	×	狭端中	A	還元	並	灰褐	一枚	－	？	－	－	粗	－	1	－	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	2.0	－	－	
294	－	女瓦	×	狭端中	A	還元	軟	灰白	一枚	－	○	○	－	粗	粗	1	－	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	1.9	－	－	
295	－	女瓦	×	側狭左	A	還元	軟	灰白	一枚	－	－	－	－	細	細	1	1	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	2.1	－	－	熨斗瓦か？
296	－	女瓦	×	狭端中	A	還元	並	灰白	一枚	－	－	－	－	粗	粗	1	－	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	1.8	－	－	
297	－	女瓦	×	狭端中	A	還元	締	褐灰	一枚	－	－	－	－	粗	粗	1	－	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	2.0	－	－	
298	－	女瓦	×	側狭左	A	還元	締	灰褐	一枚	－	－	○	－	粗	粗	1	2	●	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	2.0	－	－	
299	－	女瓦	×	側狭右	A	還酸	硬	褐灰	一枚	－	－	－	－	細	細	1	2	○	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	1.8	－	－	
300	－	女瓦	×	側広右	A	酸還	締	橙	一枚	－	－	－	○	粗	粗	1	1	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	1.7	－	－	
301	－	女瓦	×	側狭右	A	酸化	軟	橙	一枚	－	－	－	－	粗	粗	1	2	●	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	2.0	－	－	
302	－	女瓦	×	側狭右	A	酸化	軟	橙	一枚	－	－	－	－	粗	－	1	2	●	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	2.1	－	－	
303	－	女瓦	×	側広左	A	酸化	軟	橙	一枚	－	○	－	－	粗	粗	1	2	●	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	1.8	－	－	
304	－	女瓦	×	狭端中	A	酸化	軟	橙	一枚	－	－	－	－	細	細	1	1	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	1.7	－	－	
305	－	女瓦	×	側広右	A	酸化	軟	橙	一枚	－	－	－	－	粗	粗	1	2	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	2.3	－	－	
306	－	女瓦	×	狭端中	A	酸化	軟	橙	一枚	－	－	－	－	粗	粗	1	－	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	1.3	－	－	
307	－	女瓦	×	側狭右	A	酸化	軟	橙	一枚	－	－	－	－	粗	粗	1	2	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	1.5	－	－	
308	－	女瓦	×	側狭左	A	酸化	軟	橙	一枚	－	－	○	○	粗	粗	1	－	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	1.7	－	－	
309	－	女瓦	×	体部	A	酸化	軟	橙	一枚	－	－	－	－	粗	粗	－	－	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	2.2	－	－	
310	－	女瓦	×	体部	A	酸化	軟	橙	一枚	－	－	－	－	粗	粗	－	－	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	1.8	－	－	
311	－	女瓦	×	体部	A	酸化	軟	橙	一枚	－	－	－	－	粗	粗	－	－	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	2.0	－	－	
312	－	女瓦	×	体部	A	酸化	軟	橙	一枚	－	？	－	－	粗	粗	－	－	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	2.3	－	－	
313																																瓦245と接合。
314	－	女瓦	×	体部	A	酸化	軟	橙	一枚	－	－	－	－	粗	粗	－	－	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	1.5	－	－	
315	－	女瓦	×	体部	A	酸化	軟	橙	一枚	－	－	－	－	粗	－	－	－	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	1.2+	－	－	
316	－	女瓦	×	体部	A	還元	硬	灰白	一枚	－	－	－	－	粗	粗	－	－	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	1.8	－	－	
317	－	女瓦	×	体部	A	還元	締	褐灰	一枚	－	－	－	－	粗	粗	－	－	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	1.7	－	－	
318	－	女瓦	×	体部	A	酸化	軟	橙	一枚	－	－	－	－	粗	粗	－	－	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	1.1	－	－	土器か？
319	－	女瓦	×	体部	A	還元	並	灰褐	一枚	－	－	－	－	細	細	－	－	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	1.8	－	－	
320	－	女瓦	×	体部	A	還元	並	褐灰	一枚	－	－	－	－	粗	粗	－	－	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	1.9	－	－	
321	－	女瓦	×	側部右	A	還酸	硬	鈍黄橙	一枚	－	－	－	－	細	細	－	2	●	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	2.0	－	－	
322	－	女瓦	×	側部右	A	還元	硬	灰褐	一枚	－	－	－	－	細	細	－	2	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	1.1	－	－	
323	－	女瓦	×	側狭右	A	還元	硬	灰白	一枚	－	－	○	○	細	細	1	2	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	1.7	－	－	
324	－	男瓦	×	側部右	A	酸化	軟	橙	半截	－	－	－	－	細	細	－	2	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	1.2	－	－	
325	－	女瓦	×	側部左	A	還酸	硬	灰褐	一枚	－	－	○	－	細	細	－	3	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	1.7	－	－	

第14表　瓦観察表７　（瓦326～瓦366）

番号	図番号	瓦種	玉縁	部位	胎土	焼成炎	焼上	色調	成　形	合目	木骨	剥取痕		離砂		面取り		喰出	布目		叩き		整形				轆轤	釘	厚	幅	長	摘　要
												凸	凹	凸	凹	端	側		凸	凹	凸	凹	轆轤止	縄多	縄消	撫	再調	穴				
326	－	女瓦	×	側部左	A	還酸	硬	褐灰	一枚	－	?	－	－	細	細	－	3	●	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	2.0	－	－	
327	－	女瓦	×	側部左	A	還酸	硬	灰褐	一枚	－	－	－	－	細	細	－	2	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	1.9	－	－	
328	－	女瓦	×	側部右	A	還元	硬	灰褐	一枚	－	－	－	－	細	細	－	2	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	2.1	－	－	
329	－	女瓦	×	側部左	A	還酸	硬	灰白	一枚	－	－	－	－	細	細	－	2	○	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	1.5	－	－	
330	－	女瓦	×	側部右	A	還元	硬	白灰	一枚	－	－	－	－	細	細	－	3	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	1.6	－	－	
331	－	女瓦	×	側部右	A	酸還	硬	橙	一枚	－	－	－	－	細	細	－	2	●	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	1.5	－	－	
332	－	女瓦	×	側部右	A	酸化	軟	橙	一枚	－	－	－	－	－	細	－	2	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	2.3+	－	－	
333	－	女瓦	×	側部左	A	還元	硬	灰褐	一枚	－	?	○	○	細	細	－	1	◎	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	1.5	－	－	
334	－	女瓦	×	側部右	A	酸化	並	橙	一枚	－	－	－	－	細	－	－	2	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	2.2+	－	－	
335	－	女瓦	×	側部左	A	還元	硬	灰褐	一枚	－	－	－	－	細	細	－	1	●	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	1.8	－	－	
336	－	女瓦	×	側部右	A	還酸	並	鈍黄橙	一枚	－	－	－	○	細	細	－	1	○	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	1.7	－	－	
337	－	女瓦	×	側部右	A	還酸	硬	灰白	一枚	－	－	○	－	細	細	－	2	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	1.6	－	－	
338	－	女瓦	×	側部左	A	還酸	硬	褐灰	一枚	－	－	－	－	細	細	－	2	●	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	1.5	－	－	
339	－	女瓦	×	側部右	A	還元	硬	灰褐	一枚	－	○	○	－	細	細	－	2	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	1.7	－	－	
340	－	女瓦	×	側部右	A	還元	軟	灰褐	一枚	－	－	－	－	粗	粗	－	2	●	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	1.8	－	－	
341	－	女瓦	×	側部右	A	還元	硬	灰褐	一枚	－	－	－	－	粗	粗	－	2	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	1.9	－	－	
342	－	女瓦	×	側部右	A	還酸	並	灰褐	一枚	－	－	－	－	粗	粗	－	2	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	2.0	－	－	
343	－	女瓦	×	側部左	A	酸化	軟	橙	一枚	－	－	－	－	粗	粗	－	1	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	1.6	－	－	
344	－	女瓦	×	側部右	A	還酸	硬	褐灰	一枚	－	－	－	○	－	－	－	1	○	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	1.8	－	－	
345	－	女瓦	×	側部右	A	還酸	並	灰白	一枚	－	－	○	－	粗	粗	－	2	●	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	1.7	－	－	
346	－	女瓦	×	側部左	A	還元	並	灰褐	一枚	－	－	－	－	粗	粗	－	1	●	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	2.0	－	－	
347	－	女瓦	×	側広右	A	還元	硬	灰褐	一枚	－	－	－	－	粗	粗	1	1	○	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	2.0	－	－	
348	－	女瓦	×	側部右	A	還酸	並	灰白	一枚	－	－	－	－	粗	粗	－	1	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	1.8	－	－	
349	－	女瓦	×	側部右	A	還酸	軟	鈍黄橙	一枚	－	－	－	－	粗	粗	－	1	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	1.3	－	－	
350	－	女瓦	×	側狭右	A	還酸	硬	褐灰	一枚	－	－	－	－	－	細	1	1	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	1.5	－	－	
351	－	女瓦	×	側部左	A	還元	並	灰褐	一枚	－	－	－	－	細	細	－	2	●	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	1.8	－	－	
352	－	女瓦	×	側部左	A	還酸	並	灰白	一枚	－	－	－	－	細	細	－	2	●	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	1.8	－	－	
353	－	女瓦	×	側部右	A	還酸	並	灰白	一枚	－	－	－	－	細	細	－	1	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	1.8	－	－	
354	－	女瓦	×	体部	A	還酸	並	灰白	一枚	－	－	○	－	細	細	－	2	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	1.5	－	－	
355	－	女瓦	×	側部左	A	還酸	硬	灰褐	一枚	－	－	－	－	粗	粗	－	1	●	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	1.7	－	－	
356	－	女瓦	×	側部右	A	酸化	軟	橙	一枚	－	－	－	－	粗	粗	－	3	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	2.5	－	－	
357	－	女瓦	×	側部右	A	酸還	軟	灰白	一枚	－	－	－	－	粗	－	－	3	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	2.1	－	－	
358	－	女瓦	×	側部右	A	酸還	軟	黄灰	一枚	－	－	－	－	粗	粗	－	3	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	1.5	－	－	
359	－	女瓦	×	側部右	A	酸還	並	褐灰	一枚	－	－	－	－	粗	－	－	2	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	1.8	－	－	
360	－	女瓦	×	側部左	A	還酸	並	黄灰	一枚	－	－	○	－	粗	－	－	1	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	2.0	－	－	
361	－	女瓦	×	側部左	A	還酸	並	灰白	一枚	－	－	－	－	粗	粗	－	1	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	1.8	－	－	
362	－	女瓦	×	側部左	A	酸化	軟	橙	一枚	－	－	－	－	粗	粗	－	2	●	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	2.2	－	－	
363	－	女瓦	×	体部	A	酸化	軟	橙	一枚	－	－	－	－	粗	粗	－	1	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	1.7	－	－	
364	－	女瓦	×	側部左	A	酸化	軟	橙	一枚	－	－	－	－	粗	－	－	1	●	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	1.5	－	－	
365	－	女瓦	×	体部	A	酸化	軟	橙	一枚	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	×	×	×	○	×	－	2.1+	－	－	
366	13-1	女瓦	×	側広右	A	還元	締	暗灰	一枚	－	－	○	○	－	－	2	2	●	－	－	－	－	×	×	×	○	×	○	1.3	－	－	太田産。

第15表　遺物観察表（１）

１号土坑出土遺物

挿図 PL.No	No.	種類 器種	残存率	計測値				色調・石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第7図	1	製作地不詳 磁器 白磁小杯	口縁部1/4、底部1/2	口 底	(6.1) 2.7	高	2.9	白	外面口縁部下稜線状の凸帯。	
第7図	2	肥前磁器 染付皿	1/4	口 底	(9.5) (5.3)	高	2.3	白	口縁部輪花。口錆。内面山水文。貫入入る。志田か。	
第7図 PL.11	3	肥前系磁器 染付皿	口縁部3/4、底部完	口 底	12.0 7.0	高	3.1	白	口縁端部外方に丸める。内面細い圏線間に簡略化した文様。外面無文。蛇ノ目釉剥ぎ。蛇ノ目凹形高台。	
第7図 PL.11	4	肥前磁器 染付皿	底部	口 底	－ －	高	8.4		打ち型成形。内面山水文。蛇ノ目凹形高台。志田か。体部に焼継ぎ痕残る。高台内無釉部に焼継ぎ時の「セニ」符丁。	２土坑11と同形、同文様。
第7図 PL.11	5	製作地不詳 磁器 染付皿	1/2	口 底	14.2 7.0	高	3.8	白	口錆。内面酸化コバルトによる染付。外面無文。蛇ノ目凹形高台。	
第７図 PL.11	6	製作地不詳 陶器 土瓶	体部3/4、底部欠	口 底	7.6 －	高	－	灰	口縁部外面から体部外面下位白土掛け後、鉄絵具と銅絵具で山水文を描く。白土掛け部に透明釉。信楽系か。	
第8図 PL.11	7	製作地不詳 磁器徳利	体部下半	口 底	－ 5.0	高	－	白	内面轆轤目顕著。外面酸化コバルトによる東屋山水文。内面と底部外面無釉。底部外面「旭」の墨書。	
第8図	8	在地系土器 焙烙	口縁部～底部片	口 底	－ －	高	－	にぶい橙	口縁部直立気味。底部の丸み弱い。口縁部内外面回転横撫で。外面下端面取り状の撫で。外面型痕。	
第8図	9	在地系土器 置輪	1/4	口 底	(29.5) (34.3)	高	4.5	黒	断面褐灰色、器表煤により黒色。	
第8図 PL.11	10	在地系土器？ さな	3/4	口 底	8.6 5.2	高	2.2	明赤褐、浅黄橙	断面から外面器表明赤褐色、内面器表浅黄橙色。厚手の皿を作り、底部と周囲に円孔をあける。底部左回転糸切無調整。上面被熱により変色。	
第8図	11	瓦 桟瓦か	破片	長 幅	－ －	厚	2.0	灰～黒	断面灰色、器表灰色から黒色。燻し焼成。真空土練機導入以前。	

２号土坑出土遺物

挿図 PL.No	No.	種類 器種	残存率	計測値				色調・石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第8図	1	肥前系磁器 染付小杯	1/3	口 底	(6.5) (3.0)	高	4.8	白	外面花卉文。染付は酸化コバルトか。高台内１重圏線。40013と組み物か。	
第8図 PL.11	2	肥前系磁器 染付小杯	口縁部1/4欠	口 底	6.6 3.0	高	4.8	白	内外面圏線のみの染付。口縁部内面幅広の１重圏線。底部内面周縁２重圏線。色絵素地か。	
第8図 PL.11	3	肥前磁器 染付端反碗	口縁部一部欠	口 底	10.1 3.8	高	6.1	白	外面素描き風に海浜風景と帆掛け舟を交互に３組描く。口縁部内面雷文帯。底部内面１重圏線内に簡略化した三友。	
第8図 PL.11	4	肥前磁器 染付端反碗	口縁部1/4欠	口 底	10.3 4.0	高	6.3	灰白	外面簡略化した海浜風景を全面に描く。口縁部内面格子文帯。底部内面１重圏線内に草文。	
第8図	5	肥前磁器 染付端反碗 蓋	1/3	口 摘	(9.0) (3.0)	高	2.8	白	染付は素描。外面花唐草文。口縁部内面雷文帯。天井部内面１重圏線内に三友か。	
第8図 PL.11	6	肥前磁器 染付八角鉢	口縁部一部欠	口 底	11.7 5.7	高	5.9	白	打ち型成形。内面は格子文と草文を４組描く。外面２方に宝文。貫入入る。	７と組み物か。
第8図 PL.11	7	肥前磁器 染付八角鉢	口縁部1/4欠	口 底	11.5 5.6	高	5.7	白	打ち型成形。内面は格子文と草文を４組描く。外面２方に宝文。貫入入る。	６と組み物か。
第9図 PL.11	8	肥前磁器 染付猪口	口縁部1/4欠	口 底	7.0 5.4	高	6.1	白	外面梅木と竹文。高台端部のみ無釉。内面無文。	
第9図 PL.12	9	肥前磁器 染付山形皿	一部欠	長 幅	9.3 6.0	高	2.3	白	糸切り細工。内面岩に草文。外面草文。山形部のみ口錆。貫入入る。	10と組み物か。
第9図 PL.12	10	肥前磁器 染付山形皿	一部欠	長 幅	9.3 6.2	高	1.8～2.5	白	糸切り細工。内面岩に草文。外面草文。山形部のみ口錆。貫入入る。	９と組み物か。
第9図 PL.12	11	肥前磁器 染付皿	口縁部1/2欠	口 底	14.6 8.6	高	4.3	白	打ち型成形。内面山水文。口錆。蛇ノ目凹形高台。志田か。	１土坑４と同形、同文様。
第9図 PL.12	12	肥前磁器 染付皿	口縁部1/5欠	口 底	15.2 9.1	高	4.0	白	口縁部から体部内面岩と花、折れ枝文。底部内面２重圏線内に五弁花。五弁花はコンニャク印判か。外面唐草文。高台内１重圏線内に「大明年製」崩れ銘。貫入入る。	
第9図 PL.12	13	製作地不詳 磁器 染付小杯	口縁部1/4欠	口 底	6.5 3.0	高	4.7	白	外面花卉文。染付は酸化コバルトか。高台内１重圏線内に２重角福。内面無文。	
第9図 PL.12	14	瀬戸・美濃 磁器 染付小杯	口縁部1/4欠	口 底	6.4 3.0	高	4.4	白	外面酸化コバルトによる岩松文。高台内１重圏線内に不明銘。	
第9図 PL.12	15	瀬戸・美濃 磁器 染付小杯	口縁部1/2欠	口 底	6.4 2.8	高	4.4	白	外面桃と菅原篤茂の瑩流送羽觴「水成巴字初三日　源起周年後幾霜」の漢詩。高台内１重圏線内に不明銘。	
第9図 PL.12	16	瀬戸・美濃 磁器か 染付小杯	口縁部1/2・底部一部欠	口 底	6.5 3.6	高	4.8	白	外面草花文。巾着状の絵に「一山」もしくは「山」の銘。高台内１重圏線。呉須の色は濃い。	
第9図 PL.12	17	瀬戸・美濃 磁器か 染付小杯	高台一部欠	口 底	6.6 3.4	高	5.3	白	体部外面中位雷文帯中に鳥の染付。高台内不明銘。口縁部内面２重圏線。	
第9図 PL.12	18	瀬戸・美濃 磁器か 染付小杯	完形	口 底	6.2 2.9	高	4.5	白	外面線で花と唐草状部分に線彫りを施した後、濃みを入れる。口縁部内面２重圏線。呉須は濃い。不規則な貫入入り、やや焼成不良。	
第9図 PL.12	19	瀬戸・美濃 磁器 染付小碗	口縁部1/3欠	口 底	6.9 3.4	高	5.9	白	外面やや雑な素描きによる染付。口縁部内面２重圏線。	
第9図 PL.12	20	瀬戸・美濃 磁器 染付碗	1/4	口 底	(9.5) (2.8)	高	4.6	白	高台内の抉り深い。外面梅樹文か。口縁部内面２重圏線。底部内面２重圏線内に不明文様。高台内１重圏線。染付は酸化コバルトか。	

第16表　遺物観察表（２）

挿図 PL.No	No.	種類 器種	残存率	計測値				色調・石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第9図 PL.12	21	瀬戸・美濃磁器 白磁寿文皿	口縁部一部欠	口 底	9.9 5.0	高	1.9	白	口縁部大きく外反。内面打ち型による寿字文。	
第10図 PL.12	22	京・信楽系？ 灯火受皿	1/2	口 底	(10.4) 3.8	高	1.7	灰白	内面から口縁端部外面透明釉。細かい貫入入る。外面中位以下丁寧な回転篦削り。	
第10図 PL.13	23	製作地不詳 陶器 爛徳利	下半欠	口 底	3.2 -	高	-	灰	口縁部円形で鳶口はない。頸部内面から外面灰釉で口縁部から頸部に青釉流す。	関東地方窯か。
第10図	24	製作地不詳 陶器 鳩徳利	下部・取っ手欠	長 胴	- 7.2	口	4.2	灰黄	無釉。薄い粘土板を巻いて体部と口縁部～頸部をつくり、両者を接合する。接合部と口縁部は指押さえ痕を意図的に残す。取っ手欠損。内面布痕。体部下面の脚は当初からつけられていない。	
第10図 PL.13	25	瀬戸・美濃 陶器 徳利	口縁部1/2欠	口 底	2.8 8.0	高	20.4	淡黄	口縁部外面竹節状。頸部内面から外面灰釉施釉後、体部下位以下を拭う。	
第10図 PL.13	26	瀬戸・美濃 陶器 徳利	体部完	口 底	- -	高	-	淡黄	外面飴釉。肩部外灰釉を流す。いわゆる尾呂徳利。頸部は意図的な打ち欠きの可能性高い。内面に鉄分の付着多く、お歯黒壺として使用か。	お歯黒壺か。
第10図 PL.13	27	在地系土器？ 煎り鍋	取っ手・1/3欠	口 底	13.6 8.1	高	4.8	にぶい橙	断面中央黒色、器表付近から器表にぶい橙色。器表部分的に煤で変色。取っ手欠損。体部外面下位以下回転篦削り。陶器の素焼きに近い丁寧な造りと焼成。	
第10図 PL.13	28	在地系土器 火消壺か	口縁部～体部1/8欠	口 底	21.5 20.0	高	20.7～21.6	黒	断面黒色、器表付近浅黄色、器表黒色。口縁部外方に折り返す。肩部下に取っ手２カ所貼り付け。内外面回転横撫で、上半は丁寧な仕上げ。下半は轆轤目残す。体部外面下端篦削り。底部外面型痕。	
第10図 PL.13	29	境・明石陶器 すり鉢	口縁部1/2欠	口 底	36.0 15.0	高	12.7	赤褐	口縁部厚く、内面の段差は鈍い。底部外面砂付着。	
第11図 PL.14	30	在地系土器 捏鉢か	完形	口 底	40.9 27.0	高	11.5	黒	断面黒色、器表付近灰白色、器表黒色。底部外面灰白色。口縁部上面から底部内面磨き。体部外面下端篦削り。底部外面型痕。	
第11図 PL.13	31	在地系土器 不明	一部欠	長 幅	48.2 25.7	高	10.8	黒	断面中央暗灰色、器表付近にぶい橙色、器表黒色。平面形、断面形共に長方形。底部焼成前の円孔多数。一方の側面に長方形窓を大きく開ける。底部外面型痕。被熱痕は認められない。底部内面に「世良田村○○」の朱書。長手面内面に不明朱書。	
第12図	32	在地系土器 七輪	下部	口 底	- 17.2	高	-	にぶい褐	下部に空気孔を大きく開ける。内面空気孔より上位は器表橙色に変色。半球状の脚３カ所貼り付け。脚端部は摩滅。底部外面型痕。	
第12図 PL.13	33	在地系土器 置輪	1/3	口 底	(32.3) (36.8)	高	3.7	にぶい黄橙	器表部分的に煤により変色。内面下端面取り。口縁部上面平坦。	
第12図	34	在地系土器 置輪	1/4	口 底	(32.7) (36.3)	高	3.7	黒褐	断面から器表にぶい黄橙色。器表煤により変色。底部外面に「○○○」のスタンプ文。欠損によりスタンプ文の全体不明。	
第12図	35	瓦 桟瓦	1/4	長 幅	- -	厚	1.5	暗灰	断面灰色、器表暗灰色。下端部○内に不明銘。燻し焼成。銘は一部欠損。	世良田村の朱書。
第12図 PL.14	36	石製品 砥石	破片	長 幅	(3.6) 3.2	厚 重	(2.5) 43.4	変質デイサイト	正面・左右側面の３面使用。正面の使用頻度が高く、砥面が最も平滑である。右側面には櫛歯タガネ痕が残る。	切り砥石。
第12図 PL.14	37	鉄製品 角釘		長 幅	4.4 1.0	厚 重	0.8 2.82		断面四角形の角釘で頭部で僅かに扇型に広がる。先端に向かいゆるく曲がり先端で細くなり尖る。	
第12図 PL.14	38	鉄製品 鎌		長 幅	20.2 6.4	厚 重	4.9 56.01		鎌の破片２点で、先端側破片は上面からから見て左側に曲がり先端を破損し反対側は劣化破損する。もう一点の破片は先端側は劣化破損し柄側は破損後錆化しているため同一個体と考えられるが接合はしない。	
第12図 PL.14	39	古銭 文久永寶		縦 横	2.702 2.685	厚 重	0.115 2.66		文久永寶(草文)。外縁・文字・郭とも彫深く明瞭。裏面は外縁・波・郭とも明瞭だが彫は浅い。孔はほぼ正方形だが郭と僅かにずれる。	

14号土坑出土遺物

挿図 PL.No	No.	種類 器種	残存率	計測値				色調・石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第13図 PL.14	１の中世瓦の観察表は52ページ第14表。									
第13図 PL.14	2	石製品 硯	破片	長 幅	(9.5) (7.2)	厚 重	(1.6) 12.3	頁岩	陸部と縁に同心円状および放射状、線状の線刻を有する。線刻を破損面が切っていることから、破損前に線刻されたと推定される。陸部下端で縁と接する部分に加工時の工具痕が残る。裏面は破損。	長方硯。
第13図 PL.14	3	剥片石器 スクレパー	完形	長 幅	9.5 7.0	厚 重	2.9 181.4	流紋岩	背面自然面の大形剥片素材。二次加工を施しノッチ状の刃部を作り出している。	

５号土坑出土遺物

挿図 PL.No	No.	種類 器種	残存率	計測値				色調・石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第14図	1	製作地不詳 磁器 小碗	口縁部1/4	口 底	(7.4) -	高	-	白	外面酸化コバルトによる笹文。内面無文。	１と同一個体の可能性高い。近現代。
第14図	2	製作地不詳 磁器 小碗	底部	口 底	-2.8	高	-	白	外面笹文か。高台脇３重圏線。内面無文。染付は酸化コバルト。	２と同一個体の可能性高い。近現代。
第14図 PL.14	3	在地系土器 鍋	口縁部1/4欠	口 底	36.3 18.6	高	12.7	黒	断面中央黒色、器表灰白色、器表黒色。口縁部内湾。内外面回転横撫で。外面轆轤目顕著。底部外面型痕。底部内面「┐」内に「福」の押印銘。	

第17表　遺物観察表（３）

挿図 PL.No	No.	種類 器種	残存率	計測値				色調・石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第14図 PL.14	4	在地系土器 鍋	口縁部1/4欠	口 底	37.7 18.7	高	12.8	灰	断面淡黄色、器表灰色から暗灰色。口縁部内湾。底部内面から体部外面回転横撫で。内面下半と外面轆轤目顕著。底部外面型痕。	
第14図 PL.14	5	鉄製品 角釘		長 幅	5.8 1.0	厚 重	0.8 7.26		断面ほぼ正方形の角釘で、頭はつぶれたように僅かに広がるが折り返し等は見られない。全体に厚く錆に覆われ本体は脆弱なため詳細不明。	
第14図 PL.14	6	鉄製品 角釘		長 幅	4.2 1.3	厚 重	0.7 3.46		断面ほぼ正方形の角釘で、頭はつぶれたように僅かに広がるが折り返し等は見られない。先端に向かいわずかに曲がるが全体に厚く錆に覆われ本体は脆弱なため詳細不明。	
第14図 PL.14	7	鉄製品 角釘		長 幅	3.4 0.8	厚 重	0.6 1.46		断面ほぼ正方形の角釘で、頭は角形で斜めに破損する。先端に向かい細くなり尖る。	
第14図 PL.14	8	鉄製品 角釘		長 幅	2.5 0.8	厚 重	0.4 0.54		断面ほぼ正方形に角釘でくの字に折れ曲がり頭側は劣化破損する。先端側は細く尖る。	
第14図 PL.14	9	鉄製品 鉄銭		縦 横	1.4 1.9	厚 重	1.41		鉄銭と見られる破片で、錆化が著しく文字の判読は困難。	

６号土坑出土遺物

挿図 PL.No	No.	種類 器種	残存率	計測値				色調・石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第14図 PL.15	1	中国磁器 白磁皿	口縁部～体部 1/7	口 底	(10.8) -	高	-	灰白	口縁体部から端部内面釉剥ぎ。いわゆる口禿皿。	中世。
第14図	2	常滑陶器 甕	肩部片	口 底	- -	高	-	褐灰	肩部上面自然釉薄くかかる。外面木口状工具による斜位撫で。内面圧痕と接合痕残る。	中世。
第14～20図・PL.15～17　３～38の中世瓦の観察表は46ページ第８表。										

15号土坑出土遺物

挿図 PL.No	No.	種類 器種	残存率	計測値				色調・石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第23図 PL.17	1	在地系土器 皿	口縁部1/2、底部完	口 底	12.2 4.7	高	3.4	灰白	体部から口縁部直線的に開き、口縁部僅かに外反。底部右回転糸切無調整。	中世か。

２号井戸出土遺物

挿図 PL.No	No.	種類 器種	残存率	計測値				色調・石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第24図	1	瀬戸・美濃 陶器 丸皿	1/12	口 底	(10.0) (4.3)	高	2.7	灰黄	外面口縁部以下回転篦削り。内面から高台内面灰釉。	大窯期。

３号井戸出土遺物

挿図 PL.No	No.	種類 器種	残存率	計測値				色調・石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第24図 PL.17	1	石造物 板碑片	破片	長 幅	(9.8) (6.9)	厚 重	(2.1) 138.4	緑色片岩	薬研彫り種子(キリーク？)の一部が残る。表裏面ともに剝落大。	

４号井戸出土遺物

挿図 PL.No	No.	種類 器種	残存率	計測値				色調・石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第24図 PL.17	1	在地系土器 皿	1/2	口 底	11.9 4.7	高	3.3	にぶい黄橙	口縁部から体部直線的に開く。底部内面指撫で。底部右回転糸切無調整。底部外面板状厚痕。	中世か。
第24図	2	瀬戸・美濃 磁器 染付皿	1/6	口 底	(16.0) (8.3)	高	2.7	白	内面葉状文。外面文字。酸化コバルトによる染付。焼継ぎ。内面の焼継ぎは染付と同色の素材を使用。外面は半透明の素材を使用。	焼継ぎ。内面焼継ぎは染付と同色。近現代。
第24図 PL.17	3	古銭 皇宋通寶		縦 横	2.309 2.307	厚 重	0.130 1.65		皇宋通寶。外縁・文字とも彫が深く郭部は細く薄い。裏面は平坦。	

５号井戸出土遺物

挿図 PL.No	No.	種類 器種	残存率	計測値				色調・石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第25図	1	常滑陶器 甕	体部片	口 底	- -	高	-	暗赤褐	肩部上面自然釉薄くかかる。外面斜位撫で。内面横位撫でで、接合痕残る。	中世。

32号ピット出土遺物

挿図 PL.No	No.	種類 器種	残存率	計測値				色調・石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第28図	1	常滑陶器 甕	体部片	口 底	- -	高	-	赤褐	断面黄灰色、器表赤褐色。外面斜位撫で。内面横位撫で。内面接合痕残る。	中世。

遺構外出土遺物

挿図 PL.No	No.	種類 器種	残存率	計測値				色調・石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第30図	1	常滑陶器 甕	肩部片	口 底	- -	高	-	褐灰	外面自然釉きれいにかかる。	中世。
第30図 PL.17	2	鉄製品 不詳		長 幅	7.0 2.8	厚 重	1.2 18.11		断面四角形の角釘状鉄製品で頭部分はコの字状に屈曲する。先端に向かい断面長方形に細くなり端部は劣化破損する。	
第30図 PL.17	3	鉄製品 角釘		長 幅	4.4 1.4	厚 重	1.3 9.13		断面長方形の角釘で頭はＴの字形に短く広がる。頭から4cm程で劣化破損し先端は不詳。	
第30図 PL.17	4	銅製品 キセル		長 幅	5.2 1.1	厚 重	1.2 8.58		キセルの雁首で、火皿部分を元から欠損する。表面は劣化し荒れメッキ等は見られない。吸い口側にタケ類の木質が一部残存する。	
第30図 PL.17	5	古銭 寛永通寶		縦 横	2.810 2.793	厚 重	0.153 4.82		寛永通寶(11波)。外縁・文字・郭とも明瞭だが彫は浅い。裏面も外縁・波・郭とも明瞭。郭はほぼ正方形だが孔は不定形な丸孔。	
第30図 PL.17	6	古銭 寛永通寶		縦 横	2.472 2.483	厚 重	0.161 2.53		寛永通寶(古寛永銭)。外縁・文字・郭とも彫深く明瞭。裏面も外縁・郭とも明瞭。全体にねじれる様な歪みが見られるが、二次的変形の可能性が有る。	

報告書抄録

書名ふりがな	せらだかんごうしゅうらくいせきいち
書　名	世良田環濠集落遺跡（１）
副書名	社会資本総合整備（防災・安全）（交安・重点）（主）大間々世良田線世良田交差点改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻　次	
シリーズ名	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	595
編著者名	髙井佳弘・神谷佳明・木津博明
編集機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	201501
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住　所	群馬県渋川市北橘町下箱田784番地２
遺跡名ふりがな	せらだかんごうしゅうらくいせき
遺 跡 名	世良田環濠集落遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんおおたしせらだちょう
遺跡所在地	群馬県太田市世良田町
市町村コード	10205
遺跡番号	J0052
北緯（世界測地系）	361555
東経（世界測地系）	1391644
調査期間	20140201-20140228
調査面積	360
調査原因	道路建設
種　別	集落
主な時代	中世/近世
遺跡概要	集落-中世+近世-土坑14+井戸４+溝３+ピット44-陶磁器+土器+瓦+鉄器+銅銭
特記事項	中世瓦の出土
要　　約	中世の環濠集落である「世良田環濠集落遺跡」の調査報告書である。発掘面積が狭小であるため、中世の集落に関わる明確な遺構は見つかっていないが、土坑からまとまった数の中世瓦が出土したのが注目される。環濠集落の範囲内には国指定史跡「新田荘遺跡」を構成する遺跡が複数含まれており、これらの瓦はそのうちの長楽寺で用いられていた可能性が考えられる。

写 真 図 版

１．１－１区全景（南東から）

２．１－２区西部全景（北西から）

１．１－１区全景(北西から)

２．１－２区東部全景(南東から)

３．１－２区西部全景(南東から)

４．１－３区全景(南東から)

５．１－３区全景(北西から)

１．１－４区西部全景（南から）

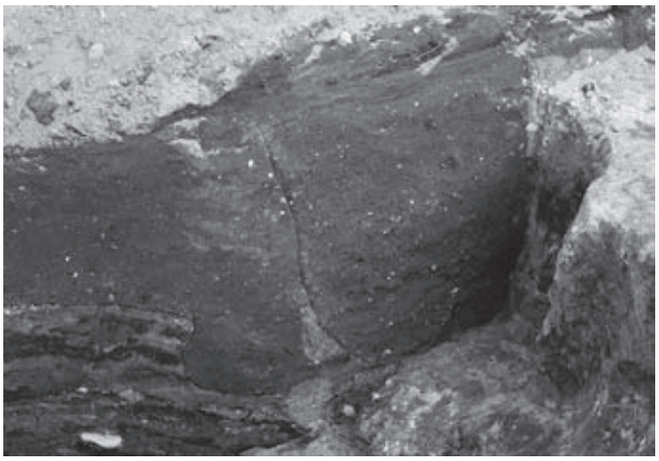
２．１－４区西部全景（北から）

１．１－４区東部全景（北西から）

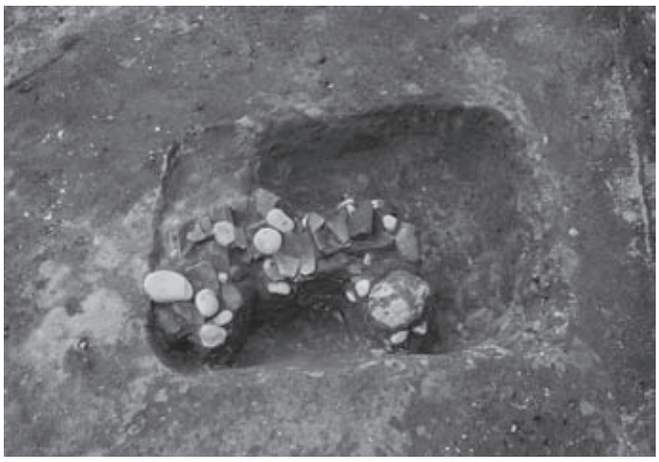
２．１号土坑全景（南から）

３．２号土坑遺物出土状態（東から）

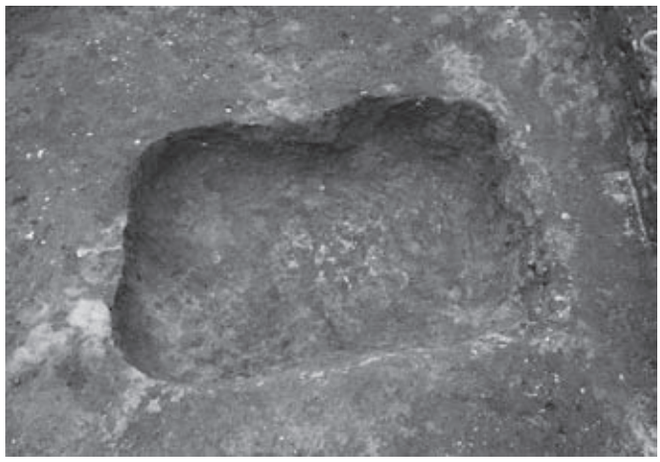
４．２号土坑全景（東から）



５．４号土坑全景（南西から）



１．５号土坑遺物出土状態(東から)

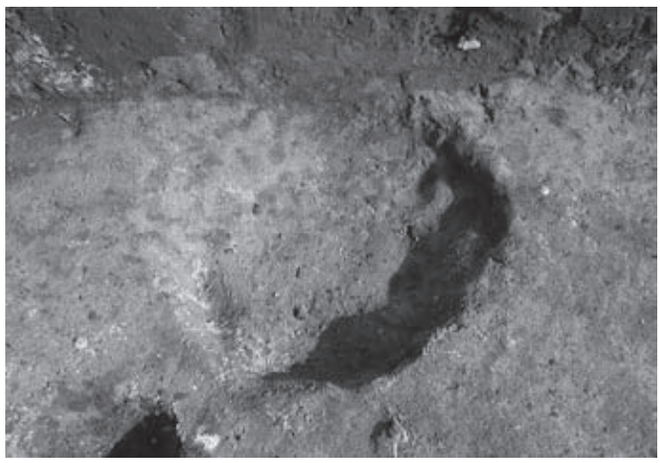


２．５号土坑全景(東から)

３．６号土坑全景(東から)

４．８号土坑全景(東から)

５．９号土坑全景(北東から)



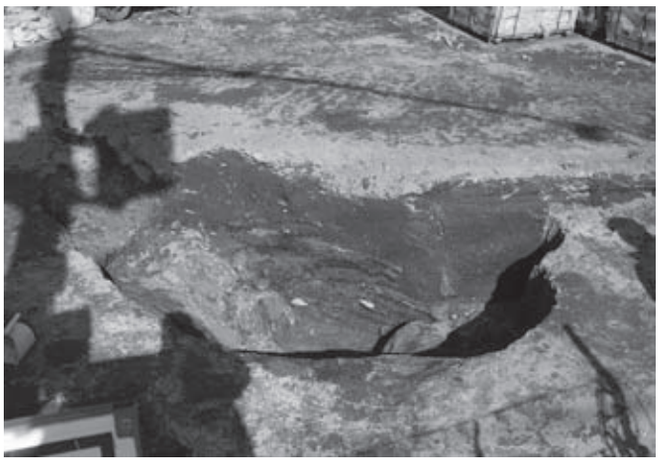
６．10号土坑全景(南西から)

７．11号土坑全景(西から)

８．12号土坑、１・２号溝全景(北西から)

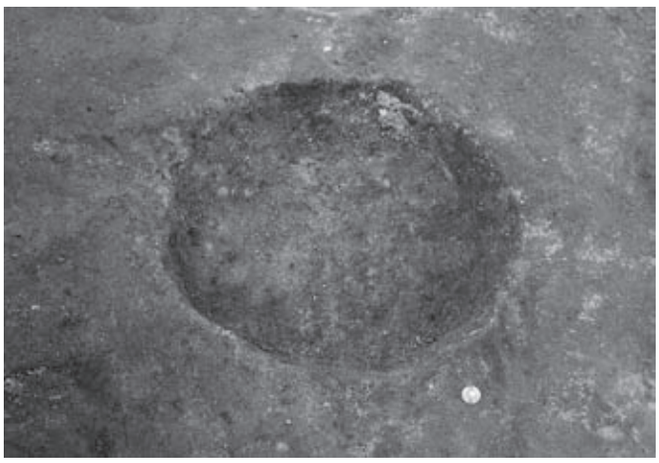
1．13号土坑全景(南東から)

2．14号土坑全景(南東から)



3．14号土坑全景(南西から)

4．15号土坑全景(南から)



5．16号土坑全景(南から)

6．２号井戸全景(南西から)

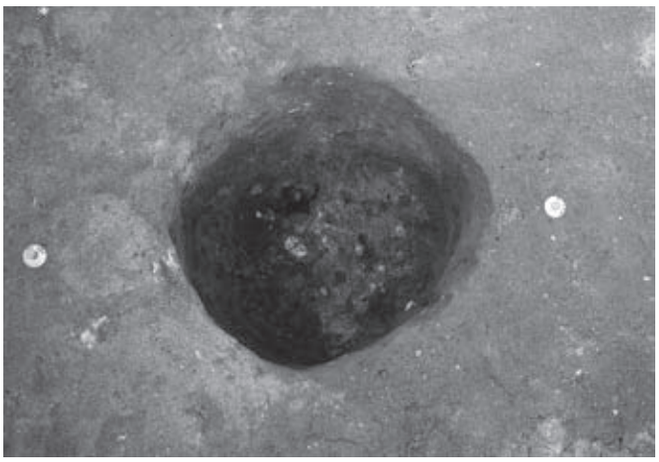
7．３号井戸全景(南東から)

8．４号井戸全景(東から)

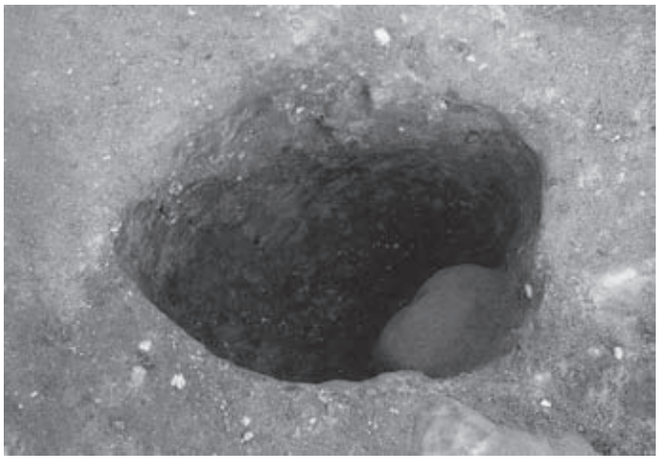
１．５号井戸全景(北東から)

２．１・２号溝全景(南東から)

３．３号溝全景(南から)



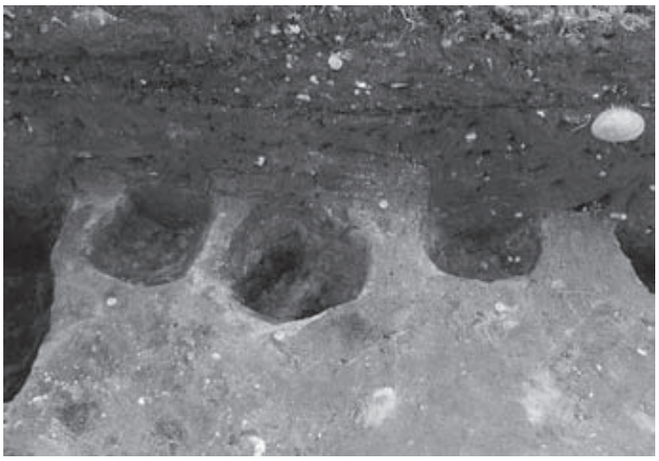
４．11号ピット全景(東から)



５．12号ピット全景(東から)

６．14～18号ピット全景(南西から)

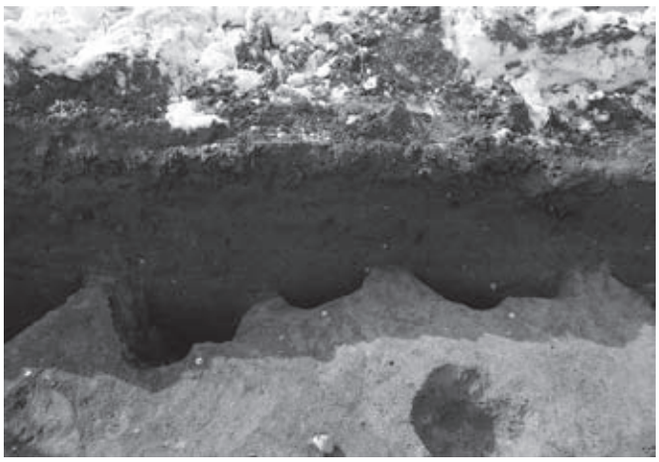
７．19～25号ピット全景(北東から)



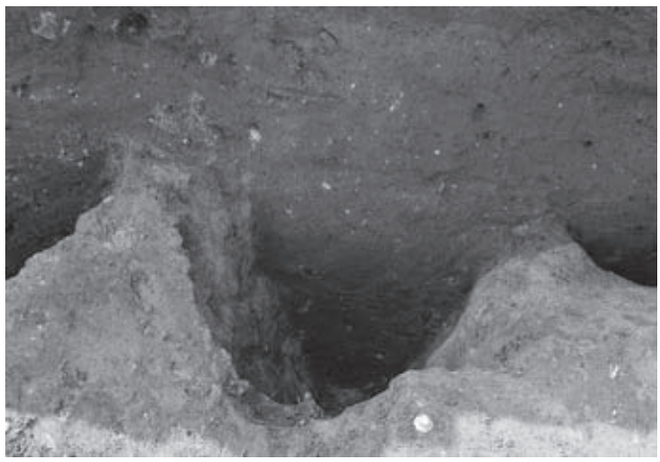
８．19～21号ピット全景(北東から)

1．21 ～ 23号ピット全景(北東から)

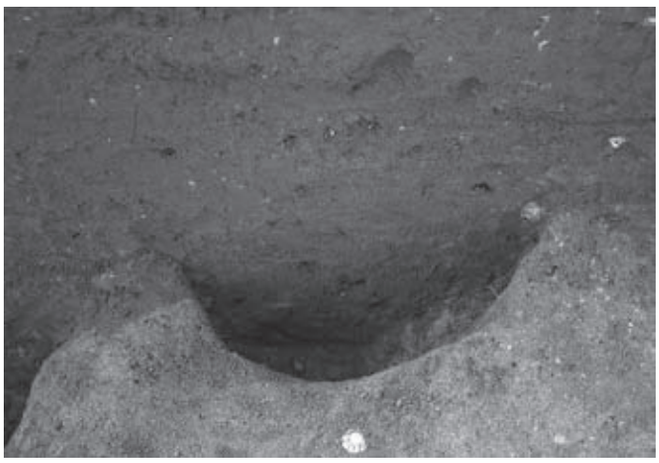
2．19・24・25号ピット全景(北東から)



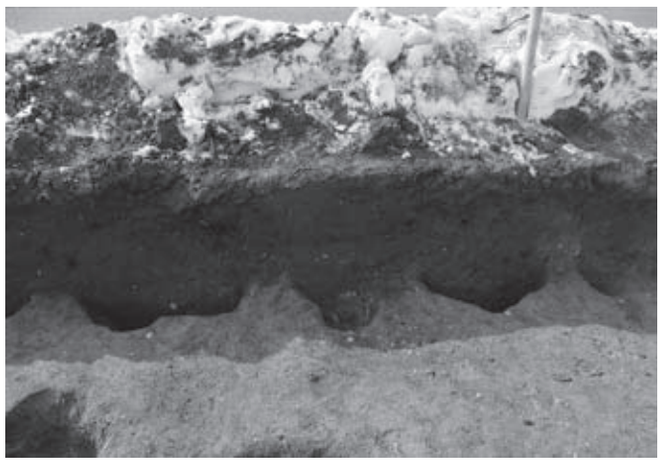
3．28 ～ 30号ピット全景(北東から)



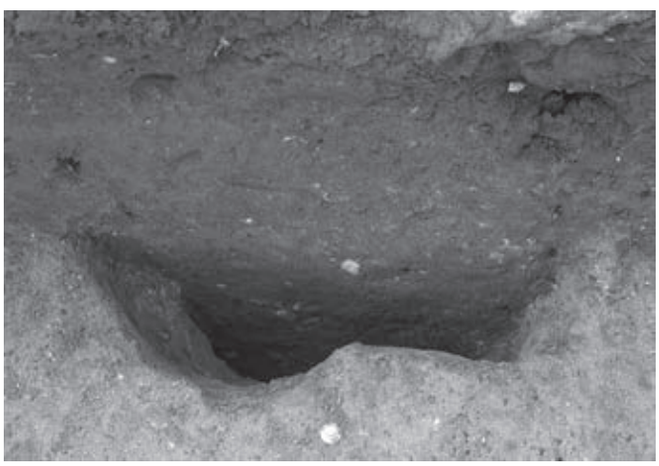
4．28号ピット全景(北東から)



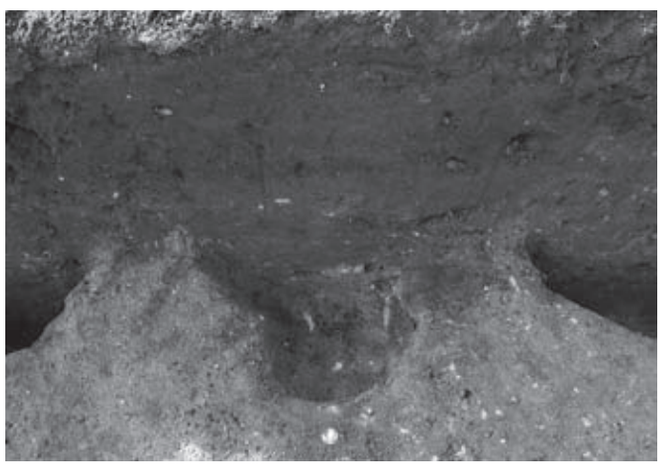
5．29号ピット全景(北東から)



6．30 ～ 32号ピット全景(北東から)



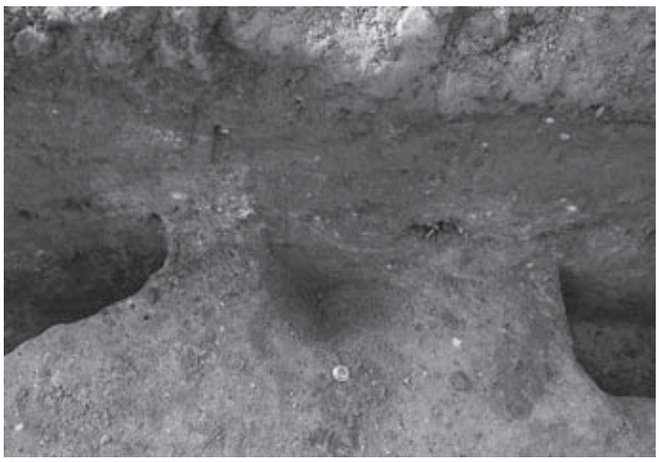
7．30号ピット全景(北東から)



8．31号ピット全景(北東から)

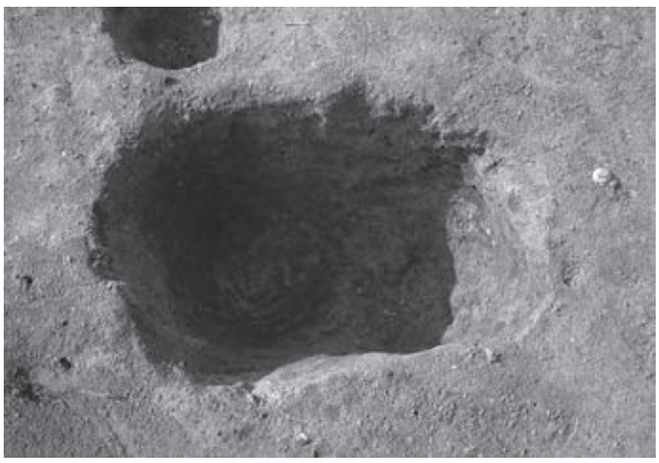
1．32～34号ピット全景(北東から)

2．32号ピット全景(北東から)

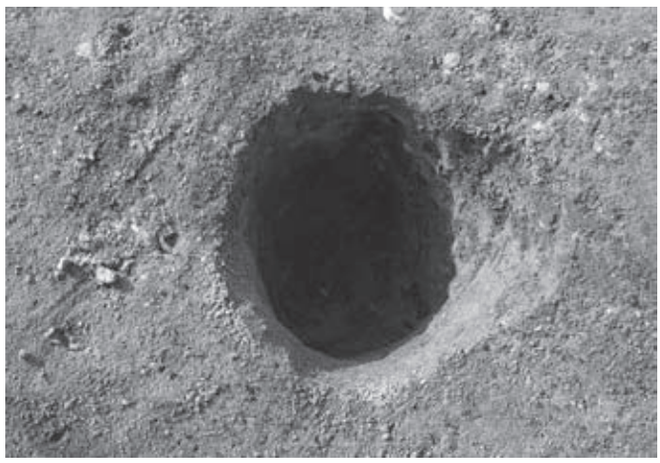


3．33号ピット全景(北東から)

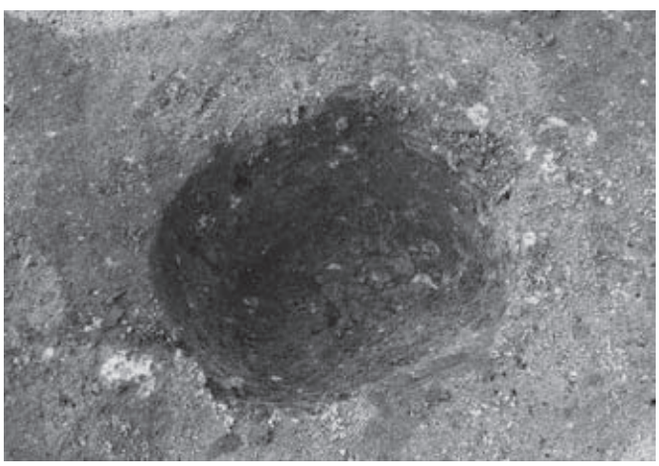
4．34号ピット全景(北東から)



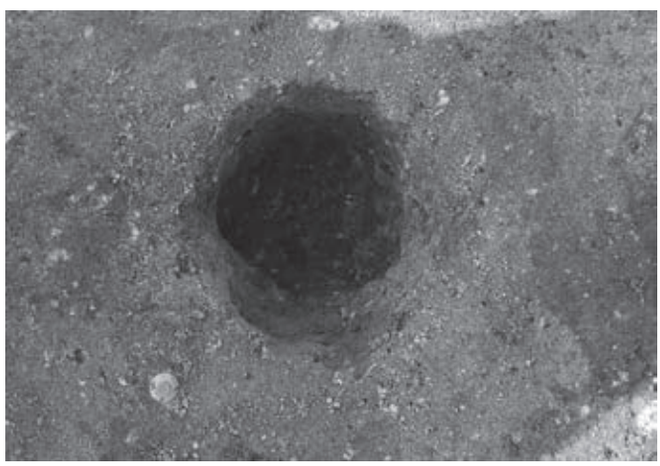
5．35号ピット全景(北東から)



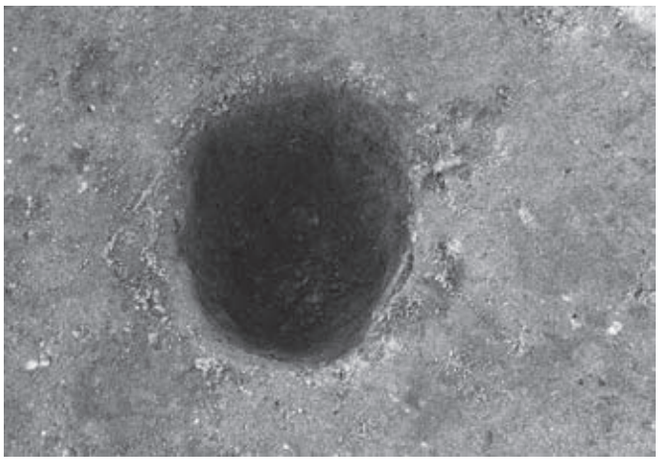
6．36号ピット全景(北東から)



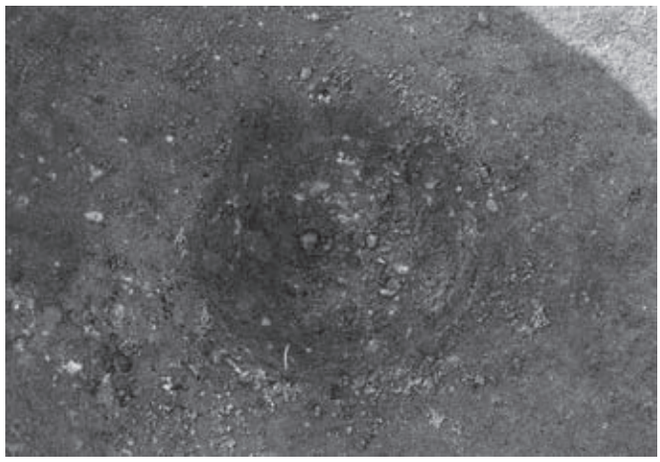
7．37号ピット全景(北東から)



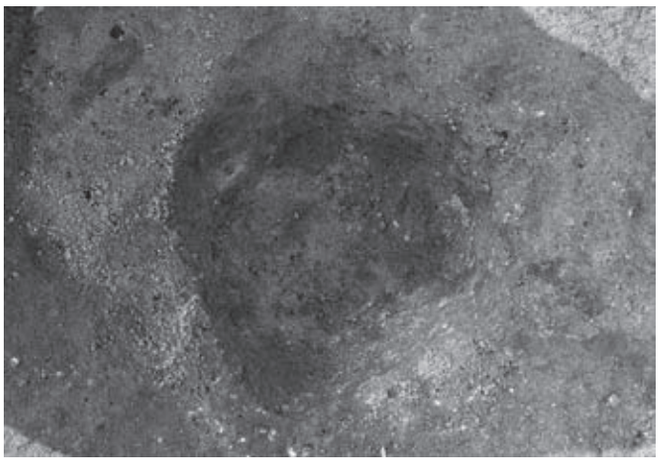
8．38号ピット全景(北東から)



1．39号ピット全景(北東から)

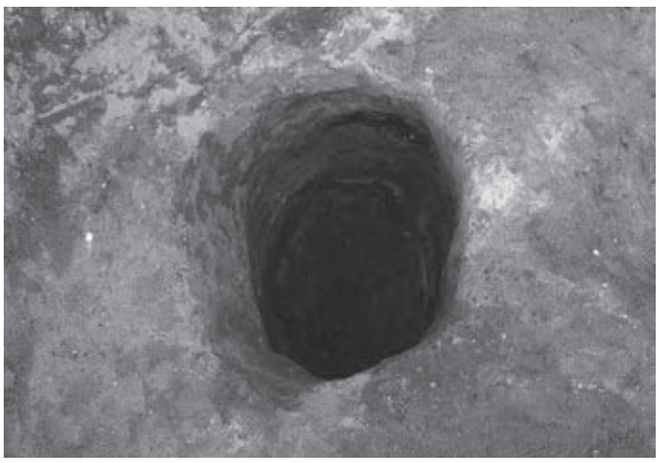


2．41号ピット全景(北東から)

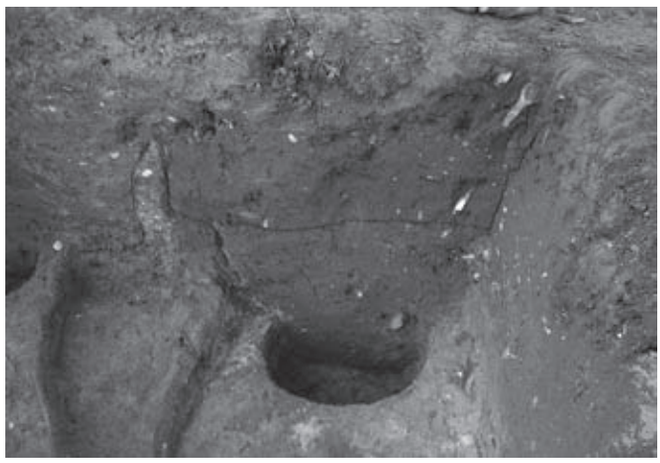


3．42号ピット全景(北東から)

4．43号ピット全景(北東から)



5．44号ピット全景(南東から)

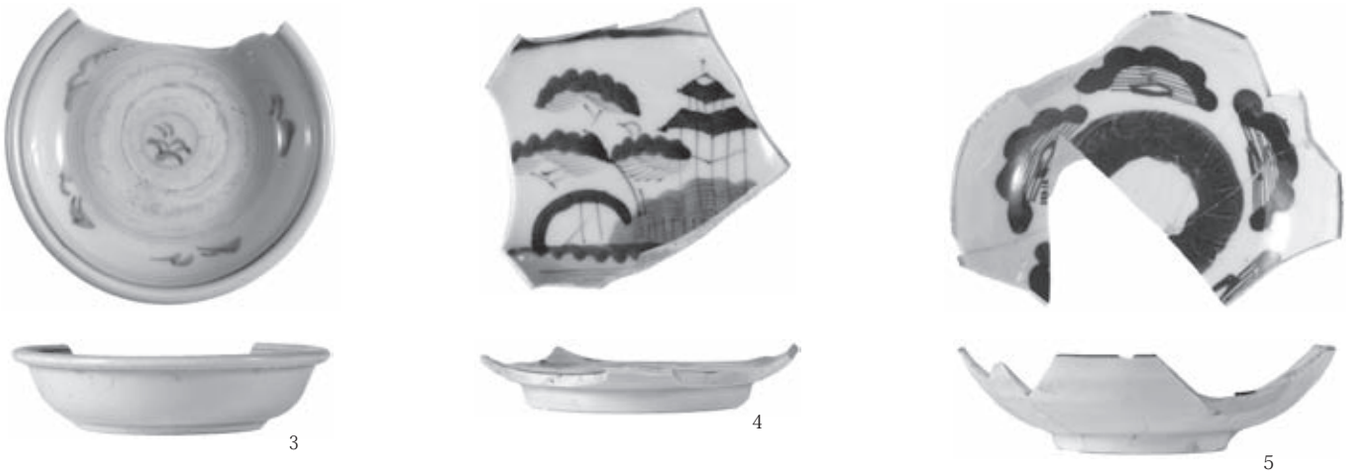


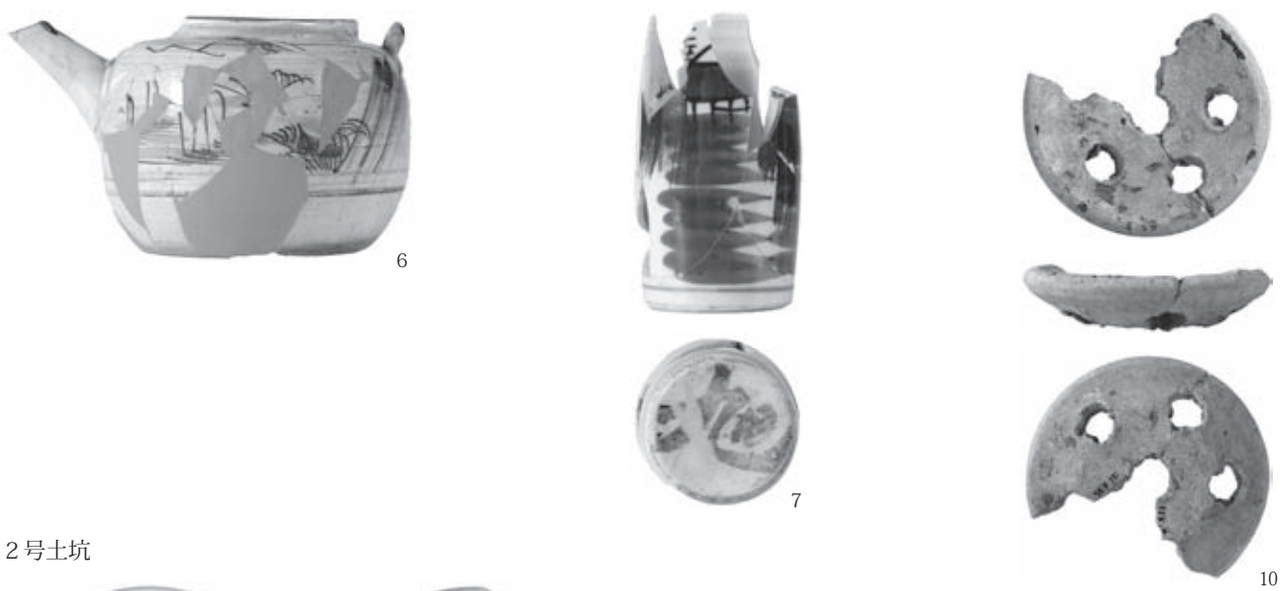
6．45号ピット全景(北東から)

7．旧石器時代調査全景(北西から)

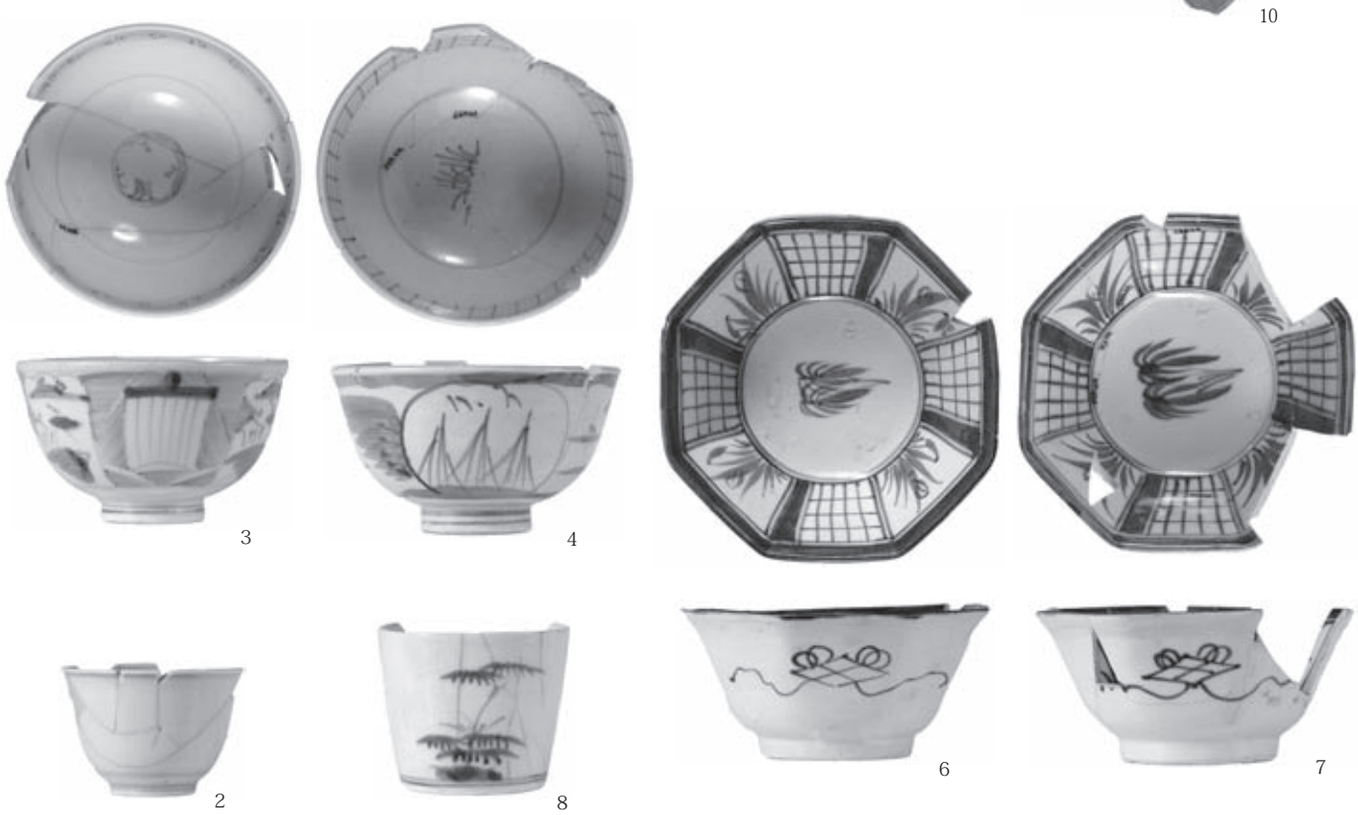
8．旧石器時代調査全景(南東から)

1号土坑





2号土坑



1号土坑出土遺物、2号土坑出土遺物（1）

PL.12

9

10

11

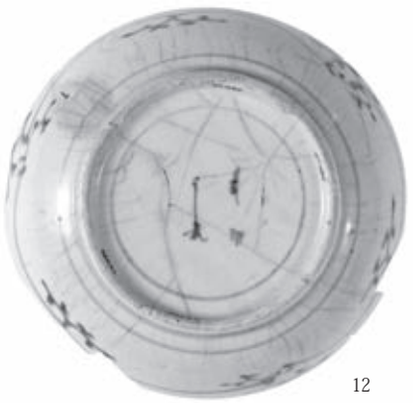
13

14

15

16

18


12

17

19

22

20

21

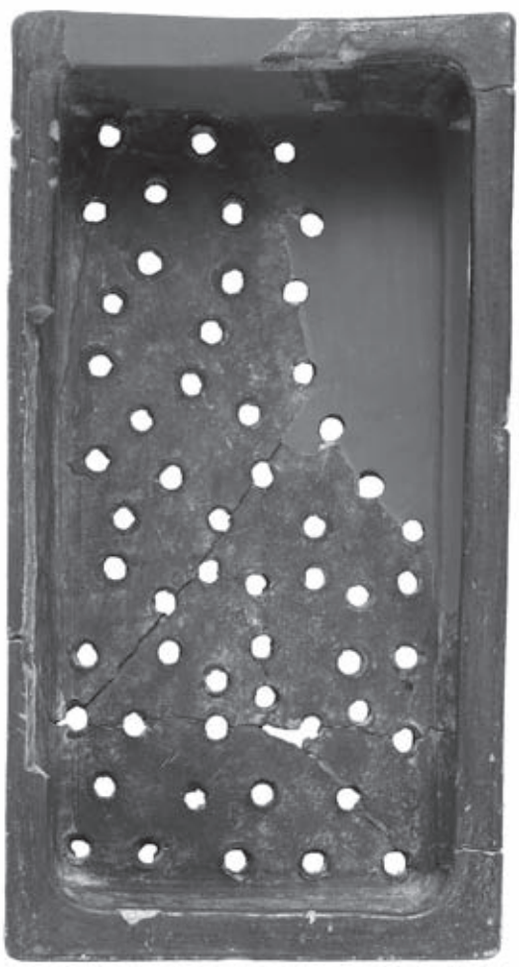
２号土坑出土遺物（２）

23

25

28

26



31

27

29

33

２号土坑出土遺物（３）

30

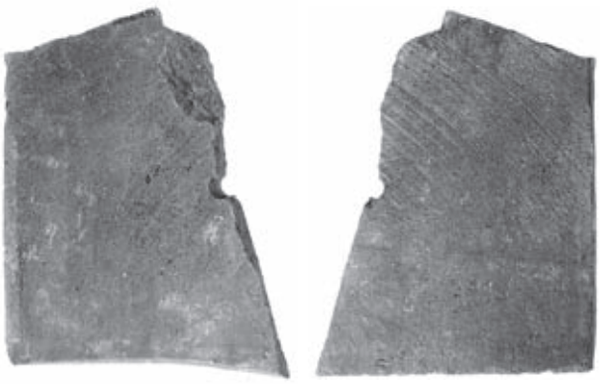
39

36

37

38

14号土坑


1

2

3

５号土坑

3

5

6

7

4

8

9

２号土坑出土遺物（４）、14・５号土坑出土遺物

6号土坑

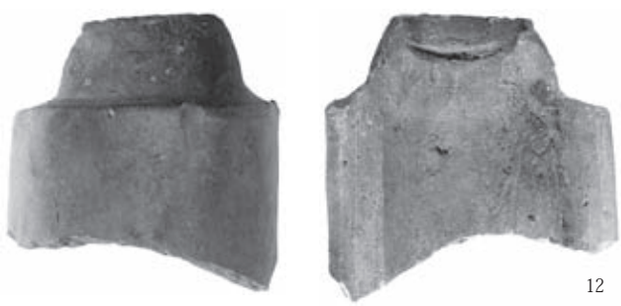
1

8

9

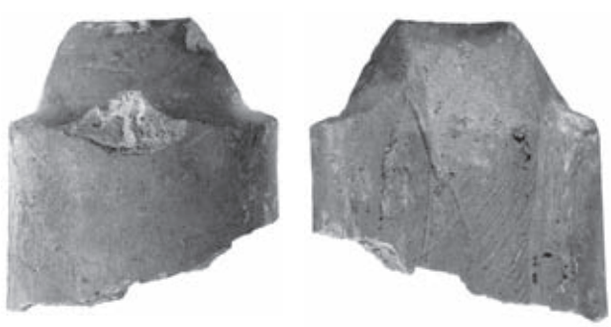
10

11


12

13

14

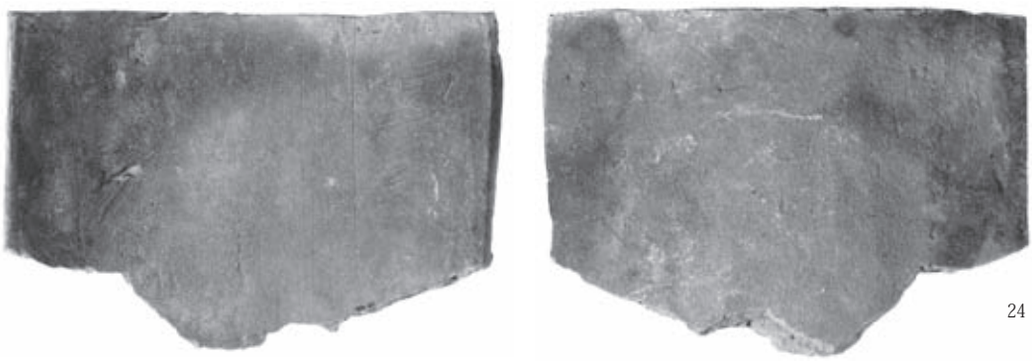

15

16

6号土坑出土遺物（1）

17

35



24

25

36

6号土坑出土遺物（2）

26

37

15号土坑

1

3号井戸

1

4号井戸

1

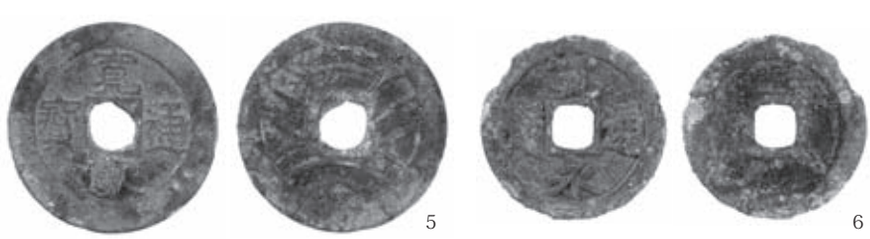
3

遺構外

2

3

4


5 6

6号土坑出土遺物（3）、15号土坑、3・4号井戸、遺構外出土遺物

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書　第595集

世良田環濠集落遺跡（１）

社会資本総合整備（防災・安全）（交安・重点）（主）大間々世良田線世良田交差点改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

平成27（2015）年１月７日　印刷
平成27（2015）年１月16日　発行

編集・発行/公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555　群馬県渋川市北橘町下箱田784番地2
電話（0279）52-2511（代表）
ホームページアドレス　http://www.gunmaibun.org/

印刷/杉浦印刷株式会社